

東日本大震災に関する
市民アンケート調査

<報告書>

平成24年3月

仙 台 市

<目次>

I	調査概要	3
1	調査の目的.....	3
2	調査対象および回収数.....	3
3	調査方法.....	3
4	調査項目.....	3
5	調査実施期間.....	3
6	調査機関.....	3
7	報告書の見方.....	4
II	調査結果の要約	5
1	震災後の避難行動.....	5
2	震災後の生活.....	5
3	避難所に関する意識.....	6
4	避難所の生活.....	6
5	その他.....	7
III	回答者のプロフィール	9
1	性別.....	9
2	居住区.....	9
3	年齢.....	9
4	家族人数.....	9
5	同居の家族.....	9
6	職業.....	10
7	活動.....	10
8	居住年数.....	10
9	住まいの形態.....	10
10	住まいの構造.....	10

IV	調査結果	11
1	震災後の避難行動	11
	①地震発生時の居場所等	11
	②帰宅困難者	15
	③地震による避難行動	17
	④津波からの避難行動	21
2	震災後の生活	27
	①生活場所	27
	②安否確認	28
	③ライフラインと情報	30
3	避難所に関する意識	38
	①避難所として必要な施設	38
	②避難所に必要な食料・物資	40
4	避難所の生活	49
	①避難した避難所の状況	49
	②簡易組み立てトイレ	52
	③避難所の運営等	56
5	その他	62
	①指定避難所	62
	②津波警戒区域	63
	③震災などに対する備え	65
	(付) 調査票	81

調査概要

1 調査の目的

本調査は、仙台市地域防災計画の全面見直しを行うにあたり、東日本大震災の経験を今後の防災対策に最大限に活かし、実効性のある計画となるよう、市民の幅広い意見を集約して、今後の防災対策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施した。

2 調査対象および回収数

- (1)調査対象者： 仙台市に居住する16歳以上の男女、15,000人
- (2)調査対象者： 平成23年3月1日現在の小学校区の人口比率に基づき、各区の対象社数を決定し、平成23年11月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- (3)回収状況： 回収率50.4%（7,565票）

3 調査方法

無記名式の質問用紙によるアンケート調査（郵送法）

4 調査項目

- (1)地震後の避難行動
- (2)震災後の生活
- (3)避難所に関する意識
- (4)避難所の生活
- (5)その他

5 調査実施期間

平成23年11月25日(金)から12月22日(木)まで

6 調査機関

- (1)調査主体：仙台市消防局防災安全部防災安全課
- (2)集計・分析：株式会社 東日本リサーチセンター

7 報告書の見方

- (1) 報告書中のNとは、その設問項目の回答者数または、回答件数である。
- (2) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記してある。したがって、必ずしも（単数回答の）合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 回答者が2つ以上の回答をすることができる質問（複数回答）では、回答件数の合計は回答者数（100.0%）を超える場合がある。
- (4) Nが小さい場合は、標本誤差が大きくなるので注意を要する。

標本誤差とは、今回のように全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。

この誤差は、標本抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を算出したのが、下記の表である。

本調査での設問の回答者総数（N = 7,565人）を100%とする比率について、ある設問中の選択肢の回答比率（普及率等）が50%であった場合、その回答比率には±1.1%程度の誤差がありうる。

つまり、本当の比率は48.9%（50.0-1.1）～51.1%（50.0+1.1）の間にあると考えられる。（ただし、信頼度は95%なので、そのように判断して、95%は間違いないという意味である。）

また、標本誤差は、次式で得られ、比率算出の基数（N）、回答の比率（P）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = 1.96 \sqrt{\frac{P(1-P)}{N}}$$

N = 標本数
P = 回答比率

N \ P	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
7,565	±0.7	±0.9	±1.0	±1.1	±1.1
5,000	±0.8	±1.1	±1.3	±1.4	±1.4
1,000	±1.9	±2.5	±2.9	±3.1	±3.2
500	±2.7	±3.6	±4.1	±4.4	±4.5
100	±6.0	±8.0	±9.2	±9.8	±10.0
50	±8.5	±11.3	±13.0	±13.9	±14.1
30	±11.0	±14.6	±16.7	±17.9	±18.3
10	±19.0	±25.3	±29.0	±31.0	±31.6

調査結果の要約

1 震災後の避難行動

地震や津波に関する情報源は、「ラジオ」が57.6%と半数以上の人々が挙げ最も多い。

当日いた場所の浸水状況は、「浸水した」が4.1%、「浸水しなかった」が90.6%となった。

津波が“浸水した”地域にいた人の情報源は、「ラジオ」(41.3%)、「屋外の警報装置からの音声」(17.9%)、「携帯電話のワンセグテレビ」「近所の方や地域の方から」(17.0%)の順となった。

津波が“浸水しなかった”地域にいた人で、帰宅困難者に「該当する」と答えた人は13.6%となった。帰宅困難となった理由は、「移動手段が無かったから」(63.6%)が最も多い。帰宅困難を経験しての行政への対策の要望は、「公共施設などを一時避難スペースとして開放」(26.0%)、「民間の大規模な施設に一時避難できる取組み」(25.4%)など避難場所についての項目が上位となっている。

津波が“浸水しなかった”地域にいた人で、帰宅困難者に該当しない人の地震当日の避難状況は、「避難した」人が25.5%と4人に1人の割合だった。避難した場所は「市立小・中・高等学校(指定避難所)」が41.1%を占め最も多かった。避難した理由として、「まだ、余震が続くと思ったから」(60.6%)、「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから」(53.5%)を挙げた人が多い。避難しなかった理由として「自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから」が77.9%と他の理由よりも圧倒的に多くの人々が理由として挙げた。

津波が“浸水した”地域にいた人の地震当日の避難状況は、「避難した」が68.9%となっている。避難を始めたのは「地震直後(地震から10分後位まで)」が44.7%となっており、避難の理由は、「すぐに津波が来ると思ったから」(47.0%)で、半数近くの人々が挙げている。また、一緒に避難した方は、「家族や知人」が40.5%と最も多く、避難する際の移動手段は、「車」が58.6%と6割近くを占め最も多い。すぐに避難しなかった理由は、「津波が来ると思わなかった」(58.7%)が最も多い。

2 震災後の生活

震災当日からの生活場所は、「自宅」が最も多く、当日では64.4%、翌日では72.0%だった。

日別の避難者の割合をみると、「11日(金)[当日]」は14.1%となっており、全体の1割強の人が地震当日、避難所を訪れたことになる。

特に必要と感じた情報は、「電気・ガス・水道の復旧状況」が上位となっており、最も必要と感じた情報の一つとなっている。また、時間が経過することにより、必要とされる情報の変化がみられる。

震災後の停電中に必要な情報を「ラジオ」から得た人が84.3%と8割以上の人が挙げており、他の情報入手経路より圧倒的に多くなっている。

食料・飲料水が足りなくなり、生活が維持できないと感じた人が、37.3%となっており、全体の4割近くが、食料等の危機感を持ったことになる。生活が維持できないと感じた時期は、「震災4日目～震災1週間目位」が40.5%と最も多くを占めている。

生活物資の確保方法について、震災2日目までは「足りていた」とする人が最も多く、震災3日目以降は「スーパーや小売店などから購入」した人が最も多くなっている。

自宅で不自由を感じたことは、「断水でトイレ・風呂などの生活用水の確保が困難」で49.9%と半数の人が挙げています。

3 避難所に関する意識

避難所として必要な施設は、「市民センター、コミュニティ・センター」が34.2%と最も多く、避難所にあったら良いと思う食料は、「缶詰類」が54.4%と半数以上の人挙げています。

避難所に必要な食糧備蓄量は、「3日分程度」が42.4%と最も多く、避難所に必要と思う物資は、「冷暖房器具」が42.3%と最も多くなっている。

避難所への支援物資の必要性は、「必要と思うものがある」が46.7%、「わからない」が41.0%となっている。時期の経過でみると、概ね時間が経つにつれ、必要とされるものは減少する傾向がみられるが、一方で、「1週間以内」より「2週間以内」で増えているものは、「日用品」
「ガソリン、灯油」
「衣類」
「衛生用品」
「風呂」となっており、生活に必要な物資の変化がみられる。

4 避難所の生活

避難した施設が開設された時期は、「すでに開設されていた」が43.7%でもっとも多く、次に「震災当日」が27.3%で続いている。震災当日の水や食料の配給状況は、「配付はあった」が49.3%となっている。避難所での避難者情報について、「調査を受けた」が37.1%、調査を受けた時期は、「当日」が48.1%と最も多い。

避難所で配慮されてよかったことは、「ボランティアなどによる支援」(12.2%)が最も多い。避難所で配慮されず今後配慮してほしいことは、「間仕切りによるプライバシーの確保」(9.9%)が最も多くなった。

簡易組み立てトイレの設置状況は、「設置されており使用した」が23.8%、「設置してあったが使用しなかった」が8.7%となっており、32.5%が『設置していた』と回答したことになる。簡易組み立てトイレの使用感は、「使いづらい」(44.0%)と「おおむね満足」(44.3%)が同程度の割合となっている。

避難所運営者の対応には、「非常によく対応してくれた」が24.0%、「おおむね対応してくれた」が26.8%となっており、50.8%と半数の人がよく対応してくれたと感じている。避難所の運営について、「関わった」人は21.6%となっており、関わった内容は、どの時期も「炊き出しなどの避難所の仕事を手伝った」が最も多く、“震災3日目頃”では58.0%となっている。

避難所で過ごした期間は、「2～3日間」が28.1%と最も多くなっている。なお、避難してから3日間までの滞在と答えた方の合計は58.4%となった。避難所を退所した理由は、「電気が復旧したから」が21.1%と最も多く、次に「自宅で生活できる状態となったから」が15.8%と多くなっている。

5 その他

指定避難所の認知度は、「知っていた」が73.4%、「知らなかった」が21.7%となった。津波警戒区域の避難の必要性については、「知っていた」が24.1%となっており、「年齢別でみると、「知っていた」が15～19歳で31.9%と最も多かった。

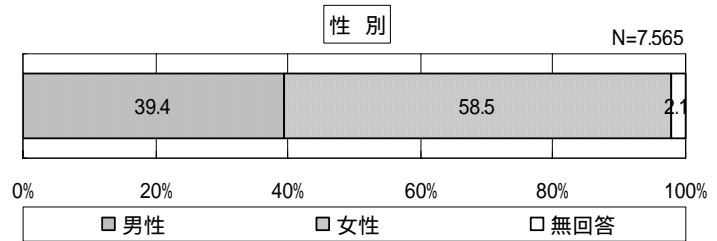
震災前に備えていたものは、「懐中電灯・ろうそく」(80.9%)、「携帯ラジオ」(70.0%)、「カセットコンロ」(61.4%)の順になっており、行っていた備えが「役に立った」と回答した割合についても、「懐中電灯・ろうそく」(96.9%)、「携帯ラジオ」(95.5%)、「カセットコンロ」(94.2%)が同順で、上位3位に入っている。震災後に備えたもの、今後備えたいと思っているものは、「非常用食料・飲料水」が63.8%と最も多く、次いで「懐中電灯・ろうそく」が57.2%で続いており、震災前に備えていたことに比べて増加した項目は、「非常用食料・飲料水」、「家庭で非常時の連絡方法を定める」、「発電機」となっている。

防災訓練や講習会への参加経験は、「よく参加していた」(8.6%)と「参加したことはあった」(26.8%)を併せた『参加経験がある』は35.6%となっている。参加経験のある防災訓練や講習会は、「消火訓練」が74.8%と最も多く、「避難訓練」が61.5%で続いている。必要と感じる防災訓練や講習会は、「避難訓練」が41.5%と最も多く、興味のある防災の研修や講習会のテーマは、「災害時の情報取得・発信」(32.2%)で最も多い。防災に関する情報は、「ぜひ得ようと思う」と「得ようと思う」と「どちらかといえば思う」を併せた『得ようと思う』が91.6%と9割を占めている。

回答者のプロフィール

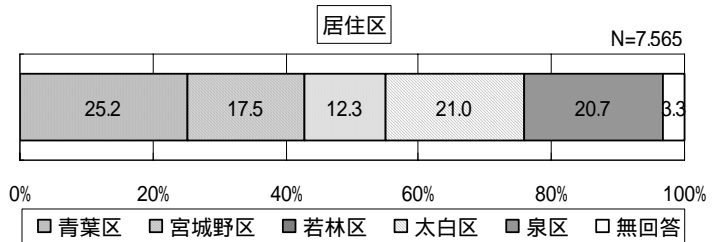
1 性別

男性	2,982人
女性	4,423人
無回答	160人



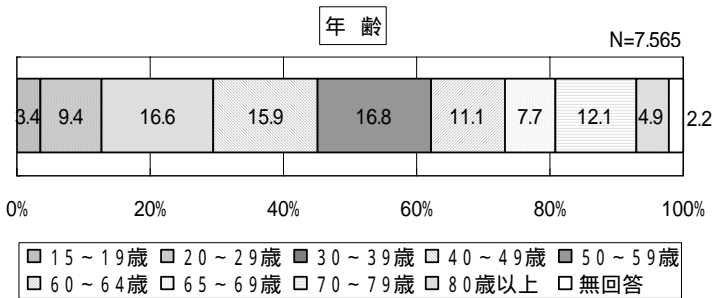
2 居住区

青葉区	1,905人
宮城野区	1,322人
若林区	933人
太白区	1,590人
泉区	1,566人
無回答	249人



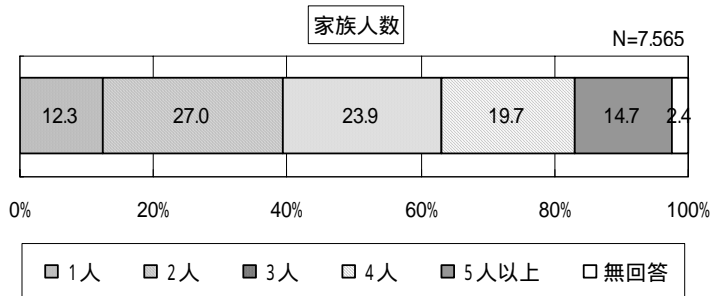
3 年齢

15～19歳	260人
20～29歳	711人
30～39歳	1,256人
40～49歳	1,200人
50～59歳	1,268人
60～64歳	836人
65～69歳	582人
70～79歳	918人
80歳以上	368人
無回答	163人



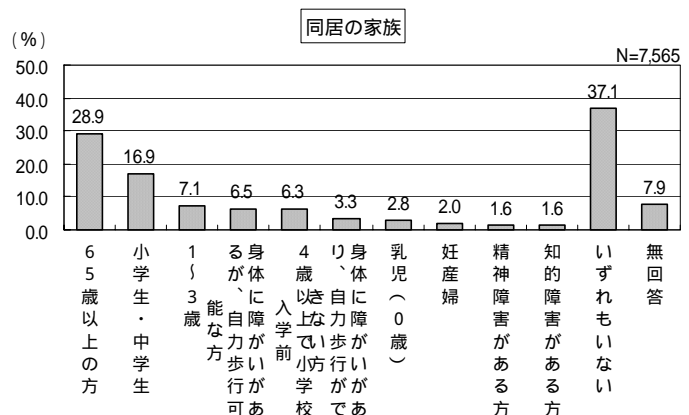
4 家族人数

1人	934人
2人	2,044人
3人	1,806人
4人	1,489人
5人以上	1,110人
無回答	182人



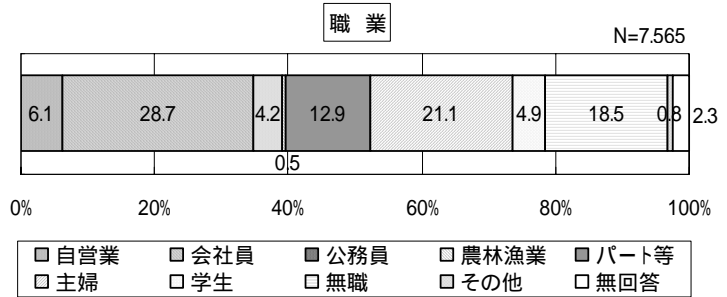
5 同居の家族（複数回答）

65歳以上の方	2,183人
小学生・中学生	1,280人
1～3歳	537人
身体に障がいがある方（歩行可）	491人
小学校入学前	476人
身体に障がいがある方（歩行不可）	252人
乳児（0歳）	210人
妊産婦	148人
精神障害がある方	121人
知的障害がある方	120人
いずれもいない	2,803人
無回答	595人



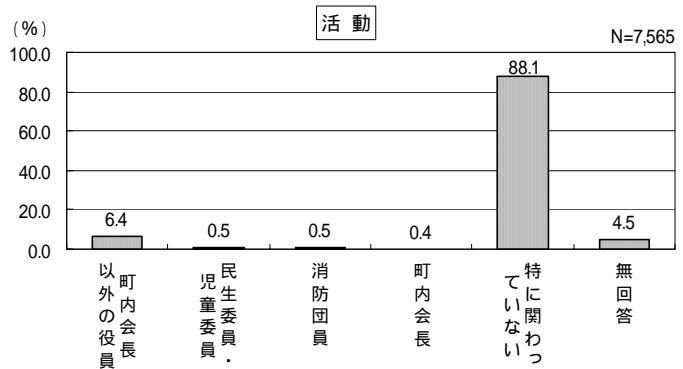
6 職業

自営業	461人
会社員	2,173人
公務員	314人
農林漁業	39人
パート・アルバイト	974人
主婦	1,599人
学生	367人
無職	1,398人
その他	63人
無回答	177人



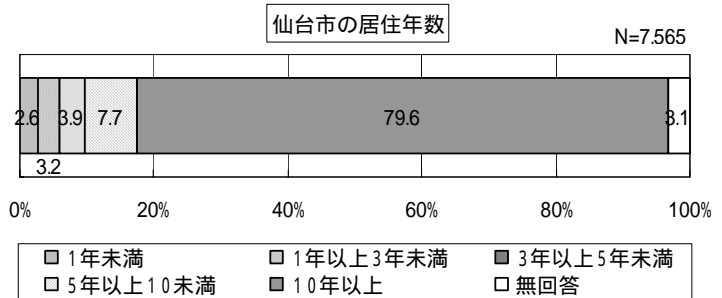
7 地域での役割 (複数回答)

町内会長以外の役員	487人
民生委員・児童委員	41人
消防団員	38人
町内会長	31人
特に関わっていない	6,661人
無回答	344人



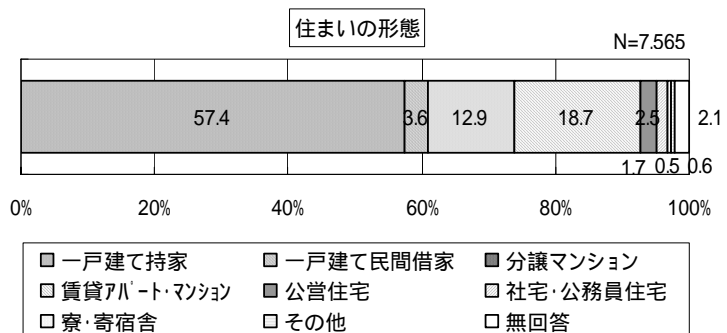
8 仙台市の居住年数

1年未満	195人
1年以上3年未満	239人
3年以上5年未満	296人
5年以上10年未満	585人
10年以上	6,018人
無回答	232人



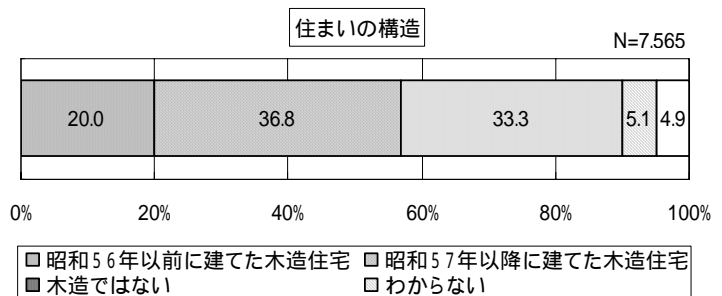
9 住まいの形態

一戸建て持家	4,343人
一戸建て民間借家	276人
分譲マンション	975人
賃貸アパート・マンション	1,413人
公営住宅	192人
社宅・公務員住宅	125人
寮・寄宿舎	38人
その他	43人
無回答	160人



10 住まいの構造

木造住宅(S56以前)	1,513人
木造住宅(S57以降)	2,783人
木造ではない	2,516人
わからない	384人
無回答	369人



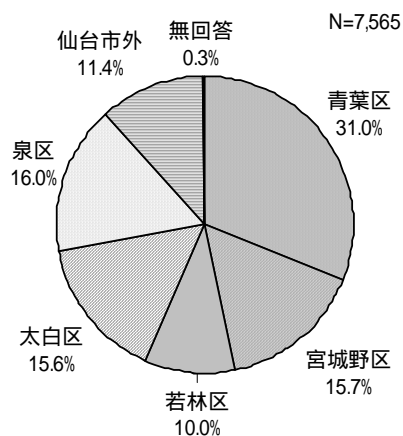
調査結果

1 震災後の避難行動 地震発生時の居場所等

問1 3月11日の地震が発生した時、あなたはどこにいましたか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています

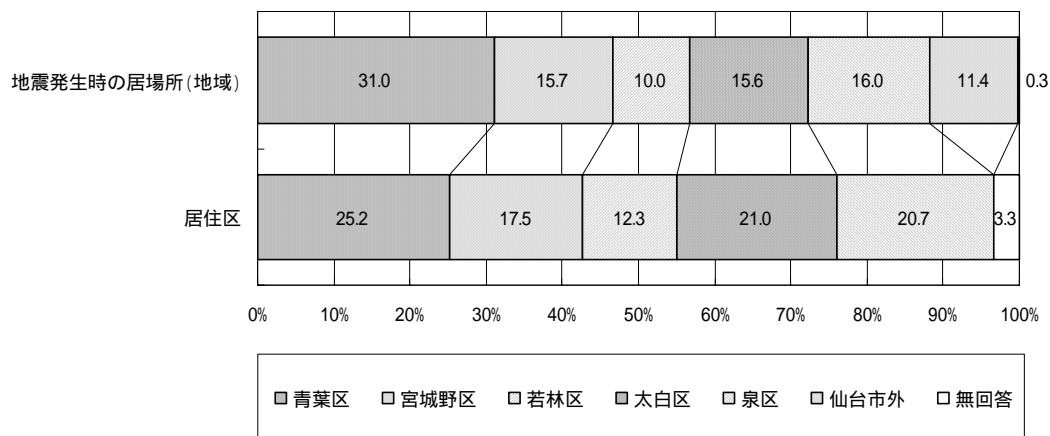
地震発生時の居場所(地域)



地震発生時にいた地域は、「青葉区」が31.0%を占め多く、他区はそれぞれ10%台、「市外」についても11.4%だった。

地震発生時の居場所と居住区の比較(問1と居住区の比較)

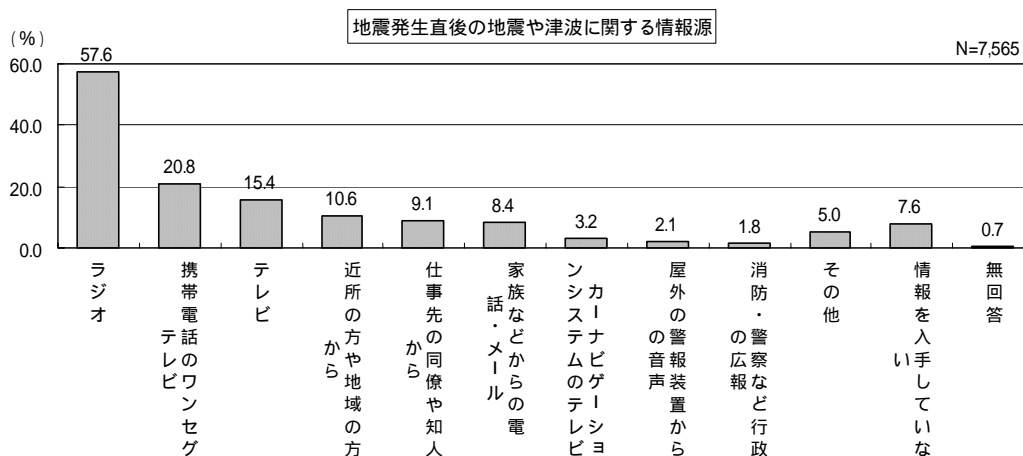
「地震発生時の居場所」と「居住区」



震災発生時の居場所と居住区を比べると、「青葉区」が唯一居住区を上回っており、他区はいずれも下回っている。

問2 3月11日の地震直後の地震や津波に関する情報源はどれですか。(複数回答)

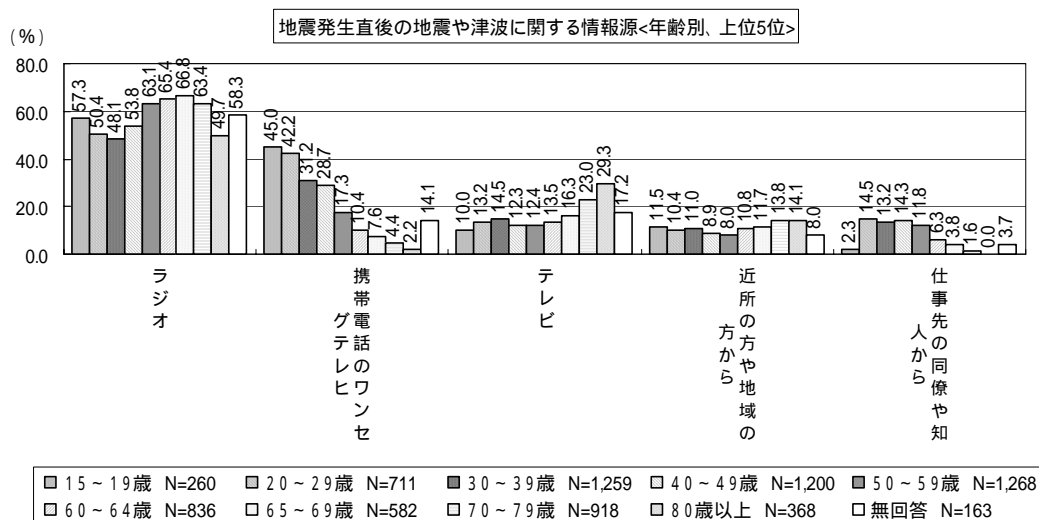
全員の方(7,565人)にお聞きしています



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

地震や津波に関する情報源は、「ラジオ」が57.6%と半数以上の方が挙げ最も多く、次いで、「携帯電話のワンセグテレビ」が20.8%と2割台で続いている。

年齢別、地震発生直後の震災や津波に関する情報源(問2×年代別クロス集計、上位5位)

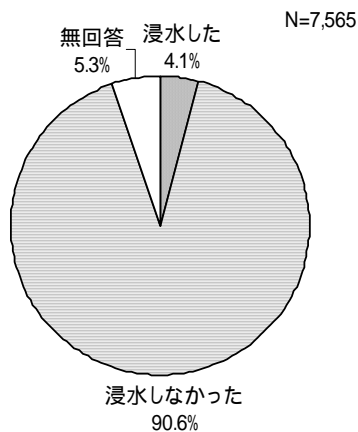


情報源について年齢別でみると、「携帯電話のワンセグテレビ」は年齢が低くなるにつれ多くなる傾向がみられ、逆に、「テレビ」は概ね年齢が高くなるにつれ多くなる傾向がみられる。

問3 3月11日の地震時に居た場所は、津波により浸水しましたか。(単数回答)

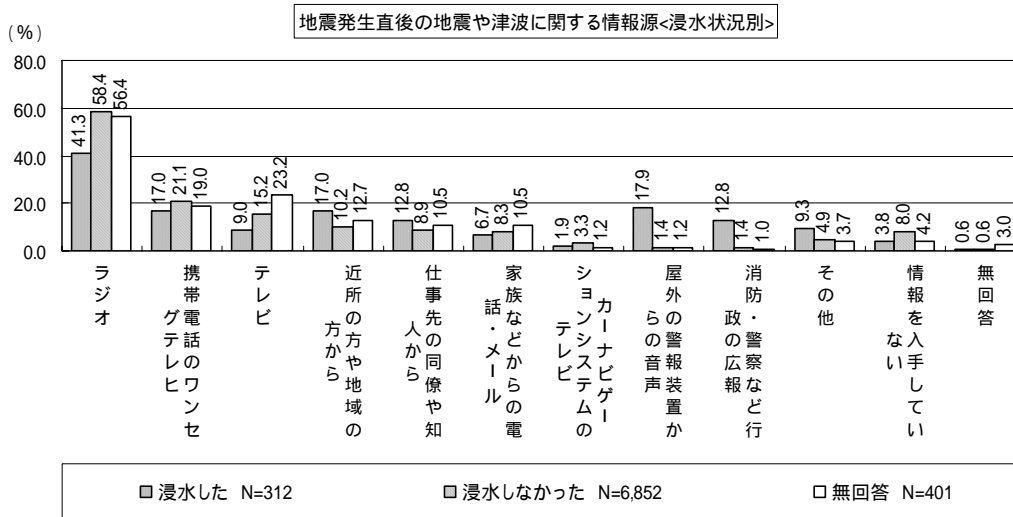
全員の方(7,565人)にお聞きしています

地震発生時居た場所の津波による浸水状況



津波による浸水状況は、「浸水した」が4.1%、「浸水しなかった」が90.6%となっている。

浸水状況別、地震発生直後の震災や津波に関する情報源(問2×問3クロス集計)



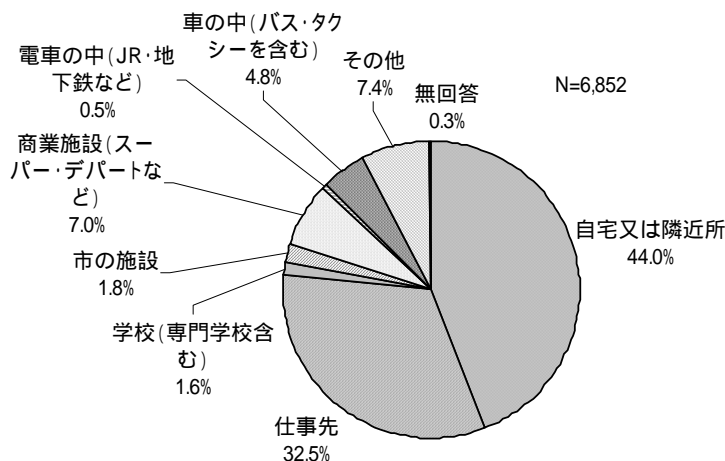
が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

地震発生時にいた場所が“浸水しなかった”人の情報源は、「ラジオ」(58.4%)、「携帯電話のワンセグテレビ」(21.1%)、「テレビ」(15.2%)の順となっており、地震発生時にいた場所が“浸水した”人の情報源は「ラジオ」(41.3%)、「屋外の警報装置からの音声」(17.9%)、「携帯電話のワンセグテレビ」「近所の方や地域の方から」(17.0%)の順となっている。

問4 3月11日の地震が発生した時、あなたは具体的にどこにいましたか。(単数回答)

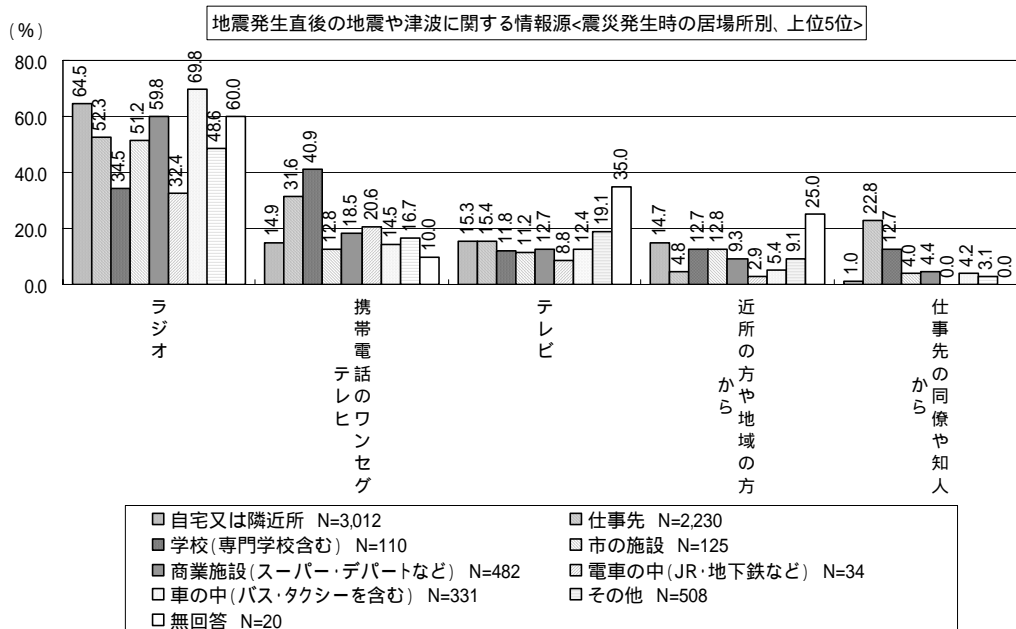
地震発生時にいた場所が浸水しなかった方(6,852人)にお聞きしています(問3で「浸水しなかった」を選んだ方)

地震発生時の具体の居場所



地震発生時にいた場所は、「自宅又は隣近所」が44.0%と最も多く、「仕事先」が32.5%が続いている。

震災発生時の居場所別、地震発生直後の震災や津波に関する情報源(問2×問4クロス集計)

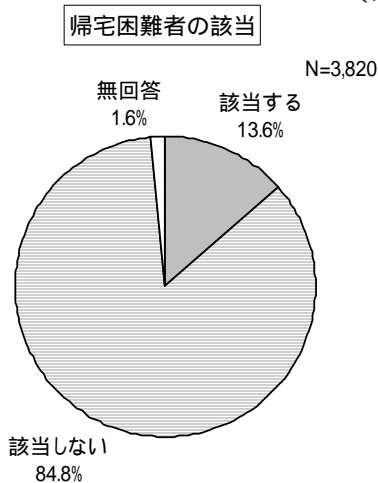


「ラジオ」は“車の中(バス・タクシーを含む)”で多く、「携帯テレビ」は“学校(専門学校含む)”で多い。

1 震災後の避難行動 帰宅困難者

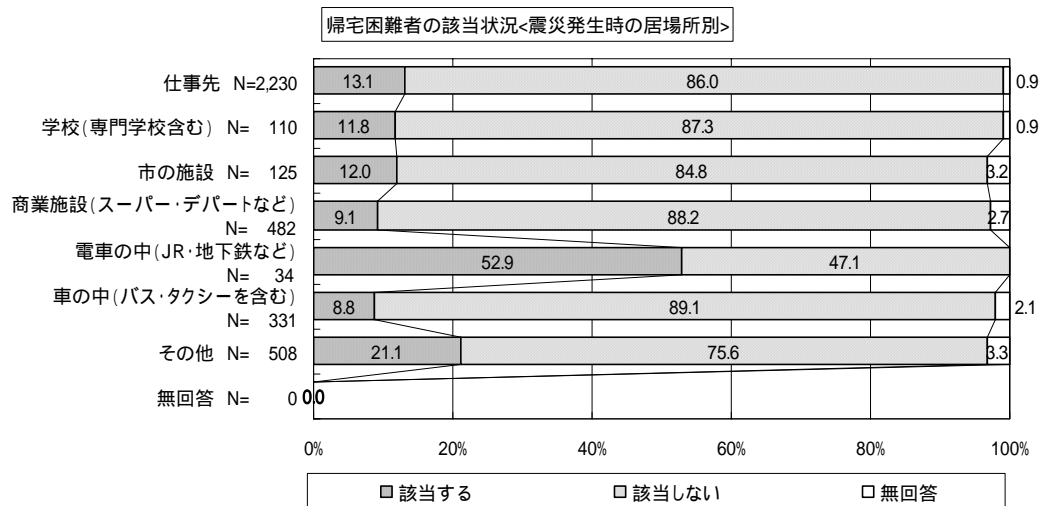
問5 3月11日の地震当日、あなたは帰宅困難者に該当しましたか。(単数回答)

地震発生時にいた場所が浸水しなかった方のうち、自宅近隣にいなかった方(3,820人)にお聞きしています
(問4で「自宅又は隣近所」以外を選んだ方)



帰宅困難者に「該当する」は13.6%となっている。

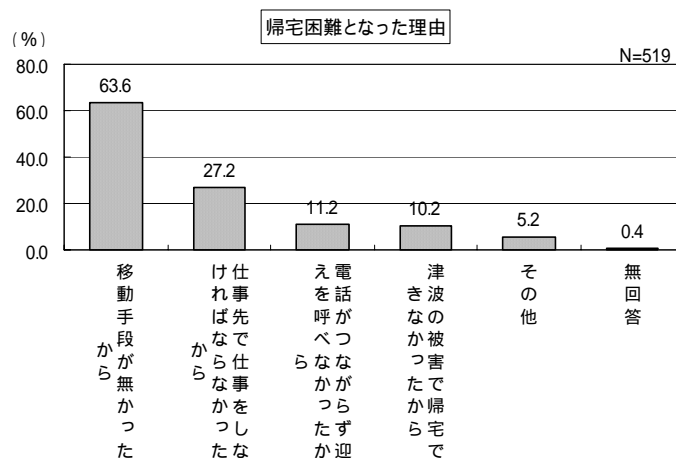
震災発生時の居場所別、帰宅困難者の該当状況(問5×問4クロス集計)



発生時の居場所別で見ると、“電車の中(JR・地下鉄など)”にいた人のうち52.9%の人が帰宅困難者に「該当する」と答えている。

問5-2 帰宅困難となった理由はどれですか。(複数回答)

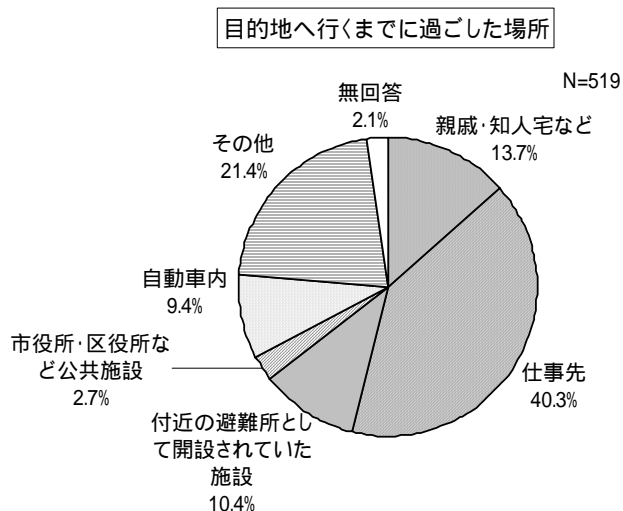
帰宅困難者(519人)にお聞きしています(問5で「該当する」を選んだ方)



帰宅困難となった理由は、「移動手段がなかったから」が63.6%と最も多い。

問5-3 目的地へ行くまでに過ごした場所はどこですか。(単数回答)

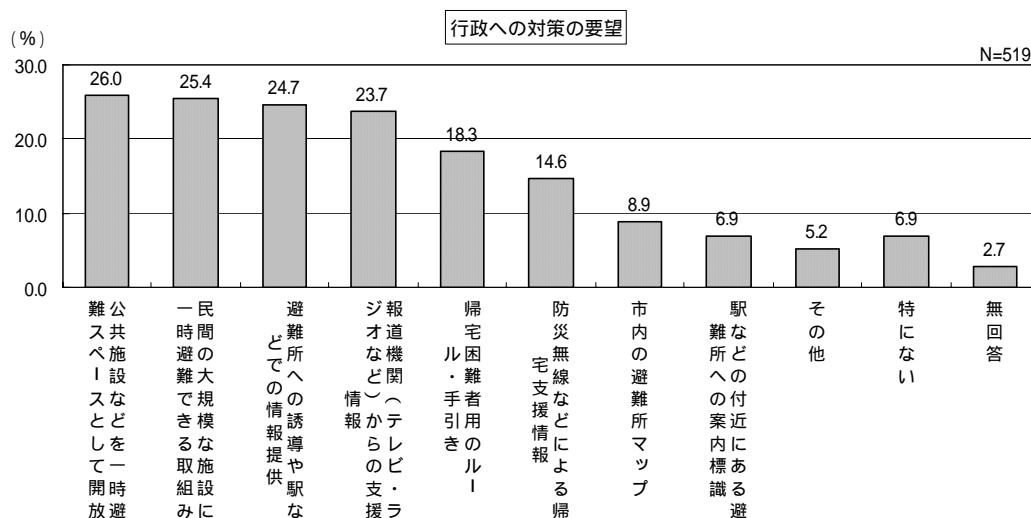
帰宅困難者(519人)にお聞きしています(問5で「該当する」を選んだ方)



目的地へ行くまでに過ごした場所は「仕事先」が40.3%と最も多い。

問5-4 帰宅困難を経験しての行政への対策の要望はどれですか。(複数回答)

帰宅困難者(519人)にお聞きしています(問5で「該当する」を選んだ方)

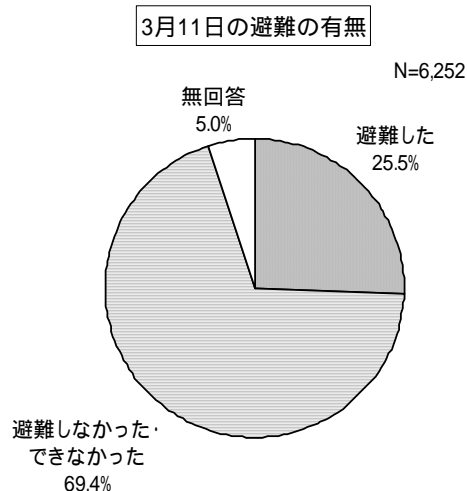


「公共施設を一時避難スペースとして開放」(26.0%)が最も多く、次に「民間の大規模な施設に一時避難できる取組み」(25.4%)と、一時的な避難場所の確保を求める意見が続いており、以下、「避難所への誘導や駅などでの情報提供」(24.7%)などとなっている。

1 震災後の避難行動 地震による避難行動

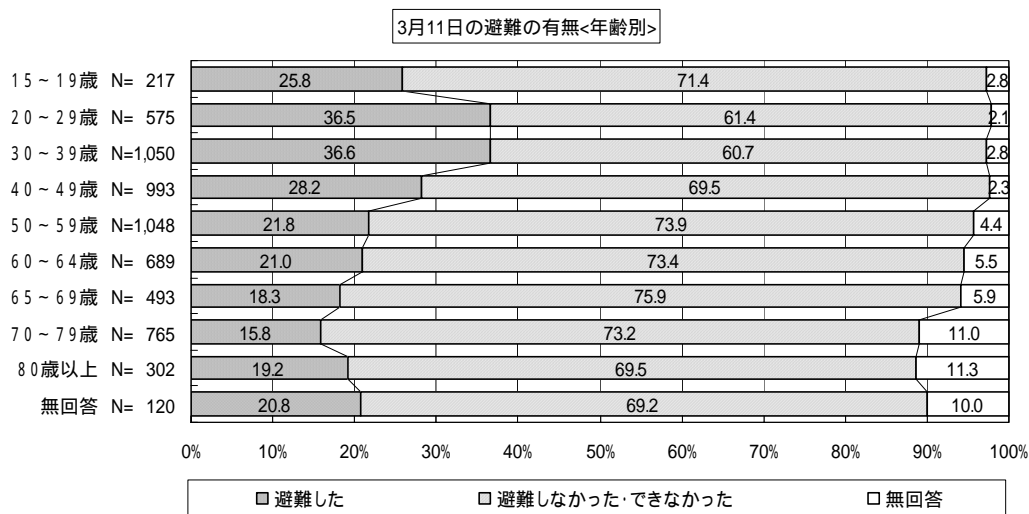
問6 3月11日に、あなたはどこかに避難しましたか。(単数回答)

地震発生時にいた場所が浸水しなかった方のうち、帰宅困難者に該当しない方(6,252人)にお聞きしています(問4で「自宅又は隣近所」を選んだ方、又は、問5で「該当しない」を選んだ方)



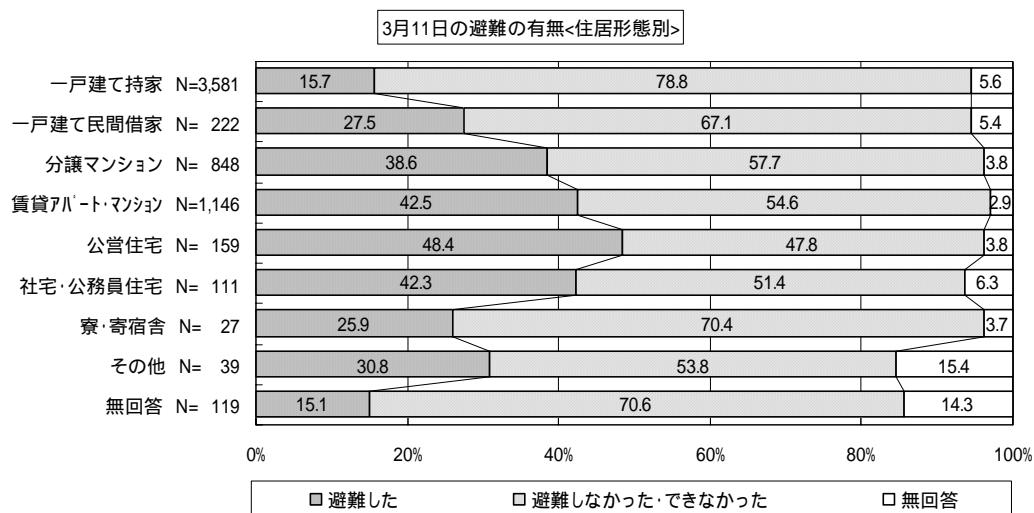
地震の当日(3月11日)の避難状況は、「避難した」が25.5%と4人に1人の割合である。

年齢別、3月11日の避難の有無（問6×年齢別クロス集計）



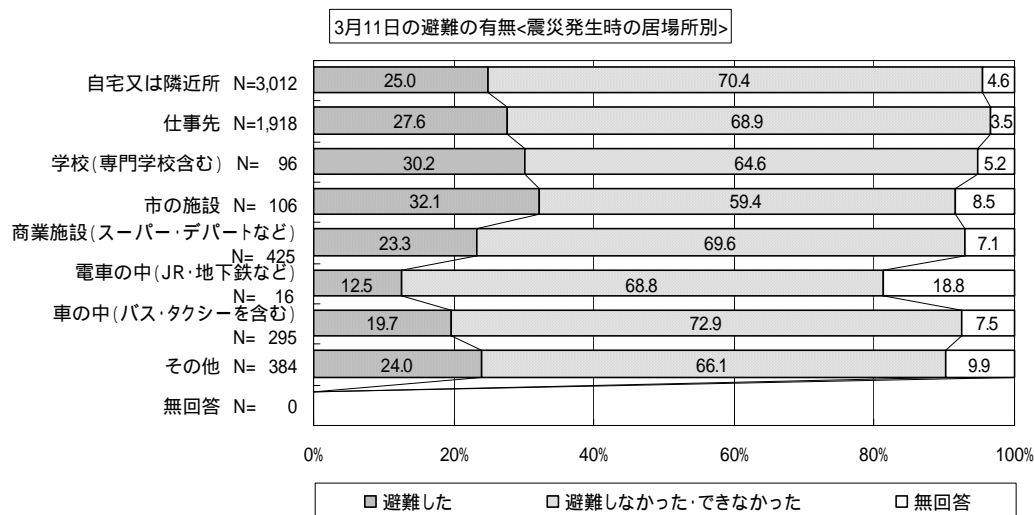
避難の有無を年齢別で見ると、概ね年齢が低くなるにつれ、「避難した」人の割合が多くなっている。

住居形態別、3月11日の避難の有無（問6×住居形態別クロス集計）



避難の有無を住居形態別で見ると、「避難した」は、集合住宅の住居者が多い。

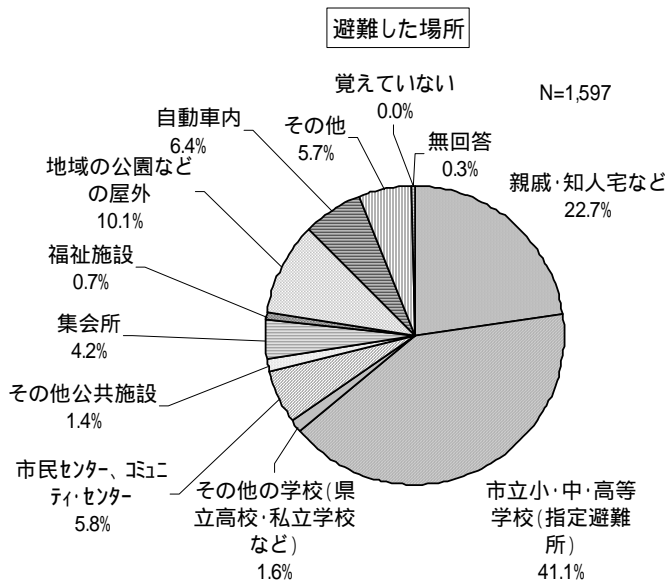
地震時いた場所別、3月11日の避難の有無（問6×問4クロス集計）



「避難した」は「学校（専門学校含む）」、「市の施設」で3割を超え、他の場所よりも多い。

問6-2-1 避難した場所はどこですか。(単数回答)

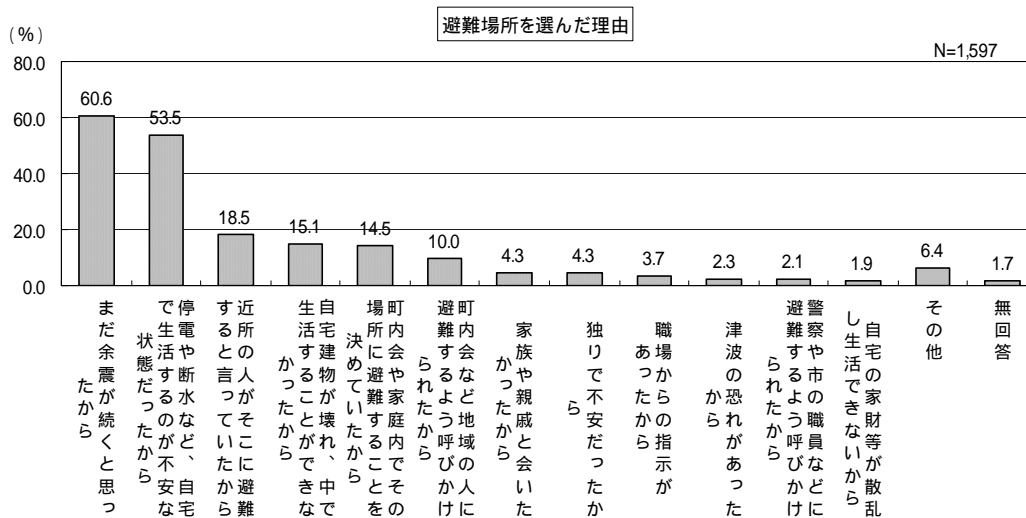
浸水しなかった地域の避難者（1,597人）にお聞きしています（問6で「避難した」を選んだ方）



避難した場所は「市立小・中・高等学校（指定避難所）」が41.1%を占め最も多く、次に「親戚・知人宅など」が22.7%が続いている。

問6-2-2 避難した理由はどれですか。(複数回答)

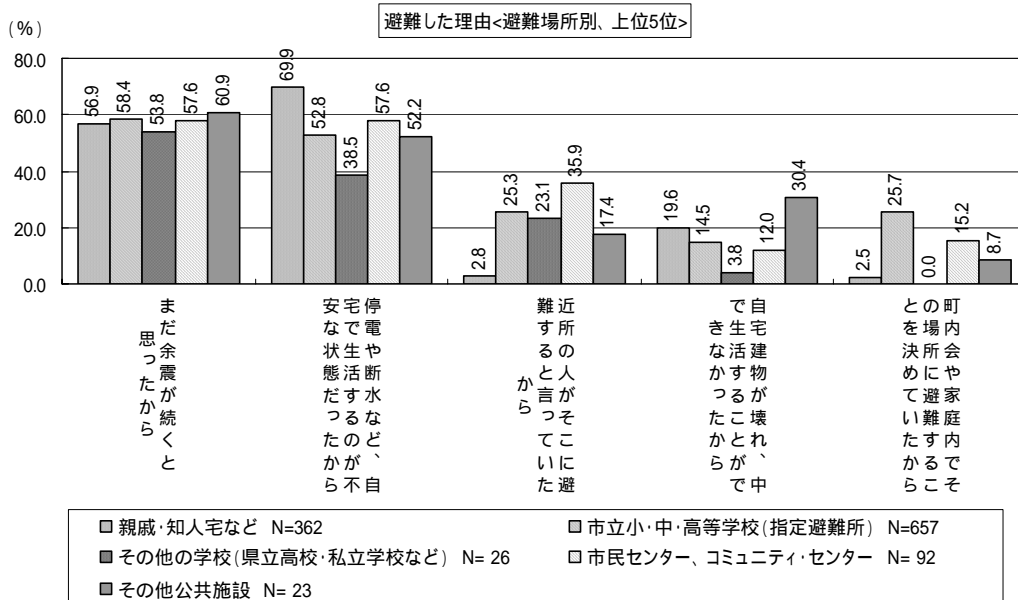
浸水しなかった地域の避難者(1,597人)にお聞きしています(問6で「避難した」を選んだ方)



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

避難しなかった理由は、「まだ、余震が続くと思ったから」(60.6%)が最も多く、次に「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから」(53.5%)が続いている。

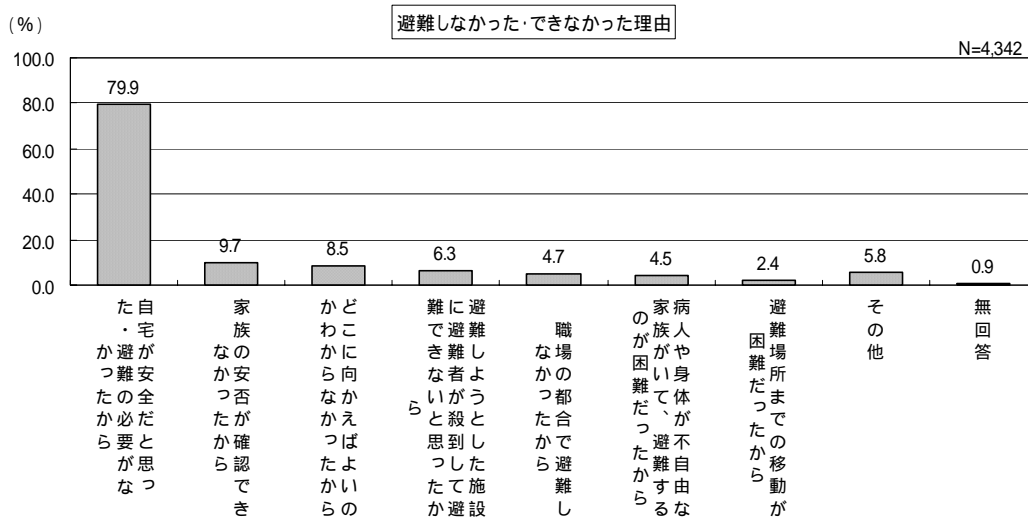
避難場所別、避難した理由(問6-2 × 問6-2 クロス集計、それぞれ上位5位)



「停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから」は「親戚・知人宅など」が多く、「近所の人や家族と会ったから」は「市民センター、コミュニティ・センター」が多い。

問6-3 避難しなかった・できなかった理由はどれですか。(複数回答)

浸水しなかった地域で避難しなかった方(4,342人)にお聞きしています
(問6で「避難しなかった・できなかった」を選んだ方)

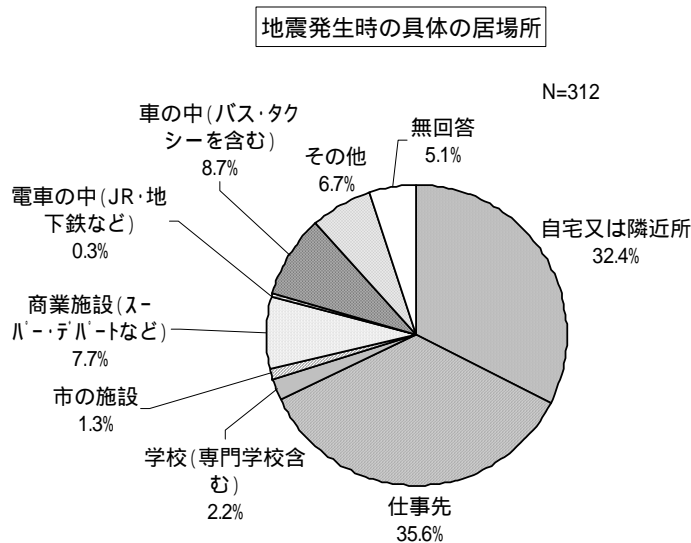


避難しなかった理由は、「自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから」(79.9%)がほぼ8割に達し圧倒的に多く、それ以外の項目は1割に満たない。

1 震災後の避難行動 津波からの避難行動

問7 3月11日の地震時に具体的にいた場所はどこですか。(単数回答)

地震発生時にいた場所が浸水した(312人)にお聞きしています(問3で「浸水した」を選んだ方)

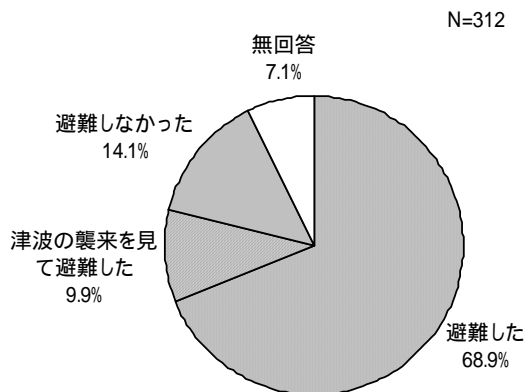


「仕事先」が35.6%を占め最も多く、次に「自宅又は隣近所」が32.4%で続いている。

問8 3月11日の地震後、あなたは津波が来る前に避難しましたか。(単数回答)

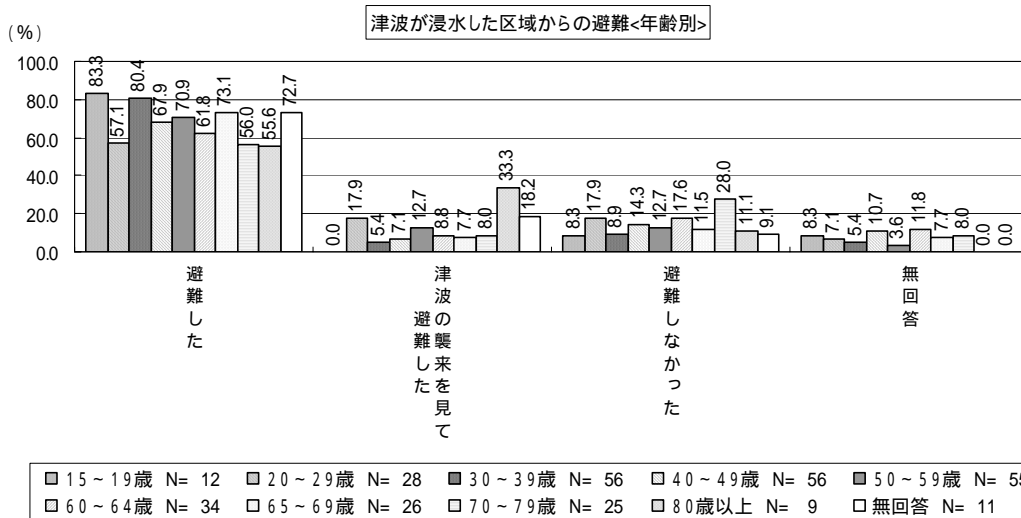
地震発生時にいた場所が浸水した(312人)にお聞きしています(問3で「浸水した」を選んだ方)

津波が浸水した区域からの避難



「避難した」が68.9%で最も多く、一方で「津波の襲来を見て避難した」が9.9%、「避難しなかった」が14.1%で、併せた24.0%の人は津波が来る前に避難していない。

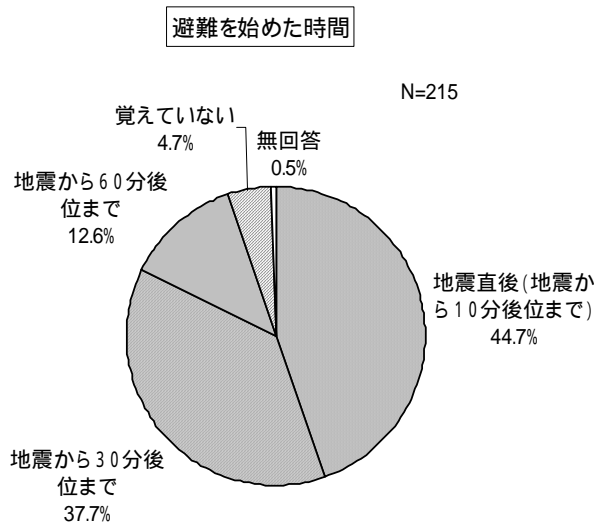
参考 年齢別、3月11日の避難の有無(問8×年齢別クロス集計)



サンプル数が少ないため、参考値として参照されたい。

問 8 - 2 あなたが避難を始めたのはいつ頃ですか。(単数回答)

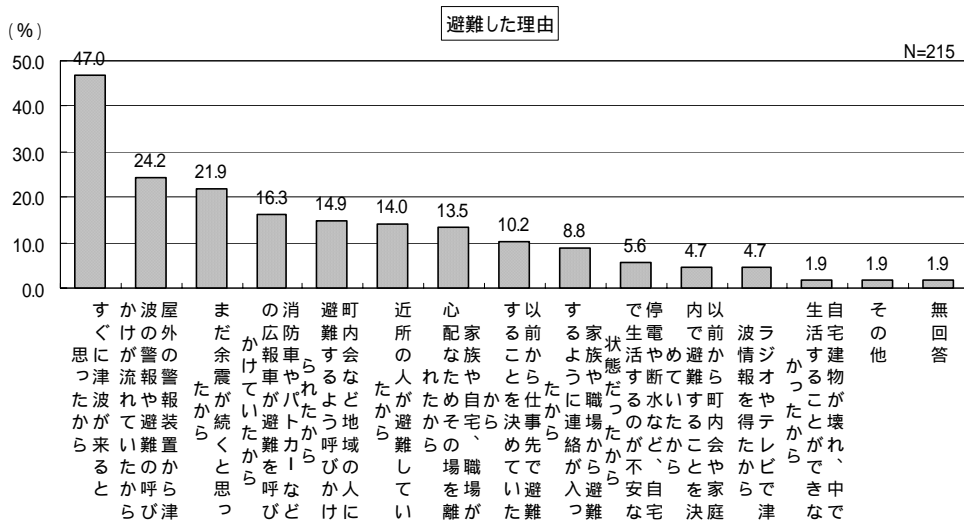
津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)



避難を始めたのは「地震直後(地震から10分後位まで)」が44.7%。「地震から30分後位まで」が37.7%となっている。

問 8 - 3 あなたが避難した理由はどれですか。(複数回答)

津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)

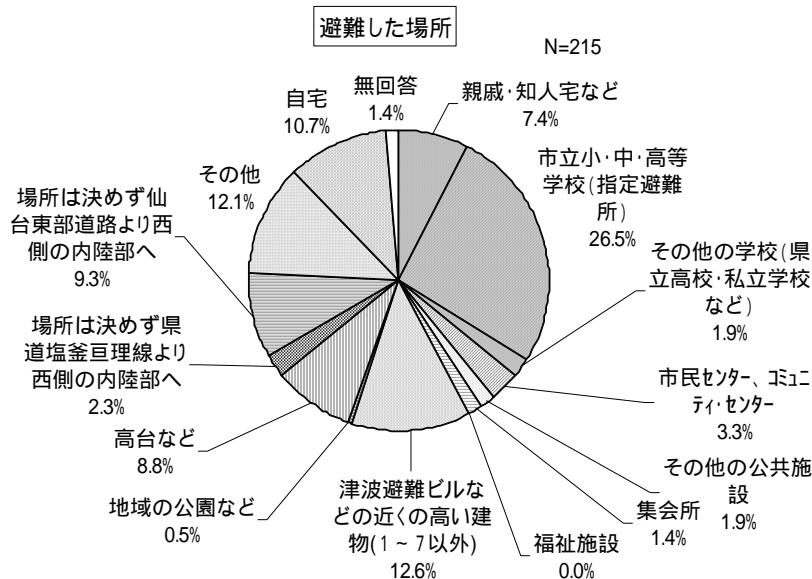


が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

避難の理由は、「すぐに津波が来ると思ったから」(47.0%)が、半数近くの人に挙げられている。

問 8 - 4 あなたはどこに避難しましたか。または、向かいましたか。(単数回答)

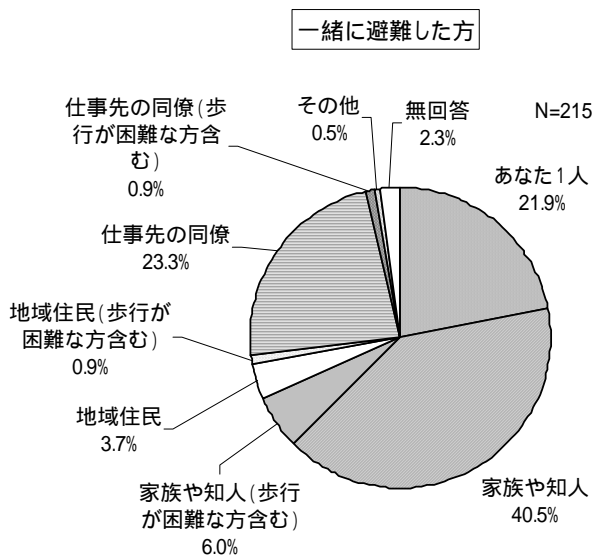
津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)



避難先は、「市立小・中・高等学校(指定避難所)」が26.5%と最も多く、次に「津波避難ビルなどの近くの高い建物」が12.6%で続いている。

問 8 - 5 一緒に避難した方は、誰でしたか。(単数回答)

津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)

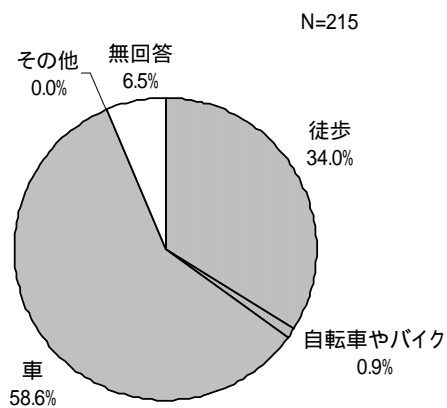


一緒に避難した方は、「家族や知人」が40.5%と最も多く、「仕事先の同僚」が23.3%、「あなた1人」が21.9%と続いている。

問 8 - 5 - 2 避難する際の移動手段はどれでしたか。(単数回答)

津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)

移動手段

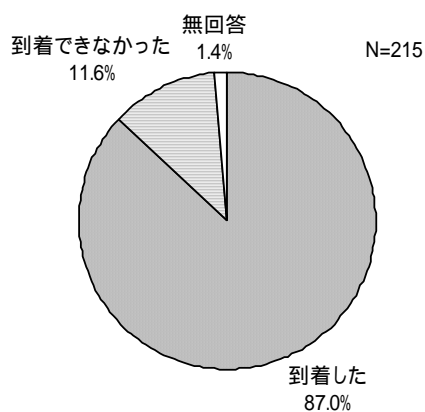


避難する際の移動手段は、「車」が58.6%と6割近くを占め最も多く、次に「徒歩」が34.0%で続いている。

問 8 - 6 あなたは津波が来る前に目的地へ到着しましたか。(単数回答)

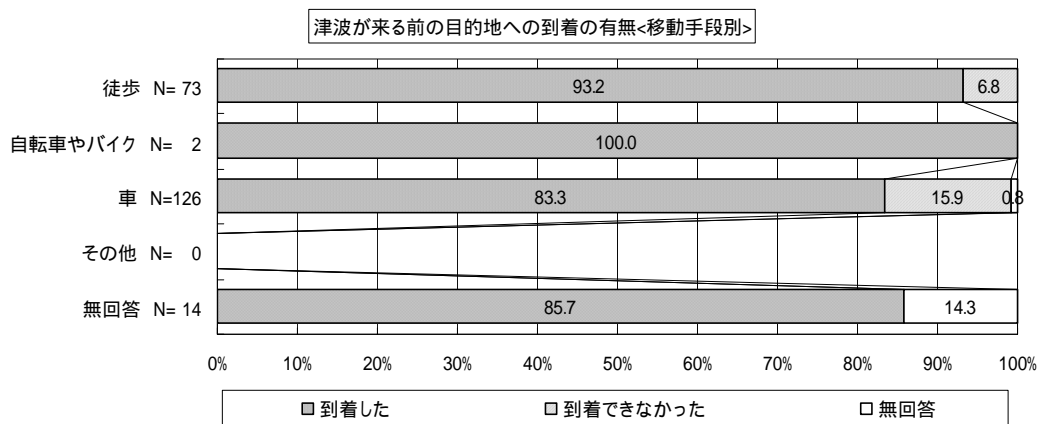
津波到達前に避難した(215人)にお聞きしています(問8で「避難した」を選んだ方)

津波が来る前の目的地への到着の有無



津波が来る前に目的地に「到着した」人は87.0%と9割近くを占めている。

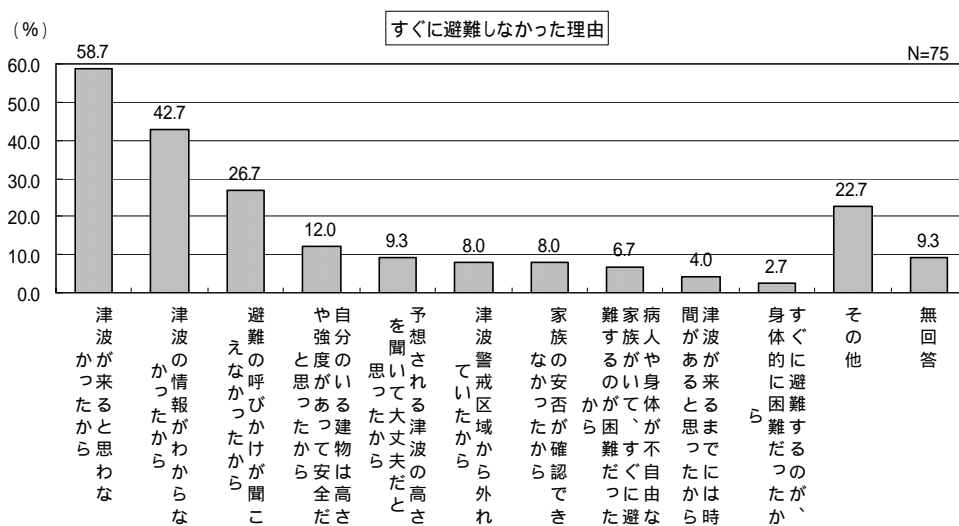
参考 移動手段別、津波が来る前の目的地への到着の有無（問 8 - 5 - 1 × 問 8 - 6 クロス集計）



サンプル数が少ないため、参考値として参照されたい。

問 8 - 7 あなたがすぐに避難しなかった理由はどれですか。（複数回答）

津波到達後に避難した、又は避難しなかった方（75人）にお聞きしています（問 8 で「津波の襲来を見て避難した」「避難しなかった」を選んだ方）

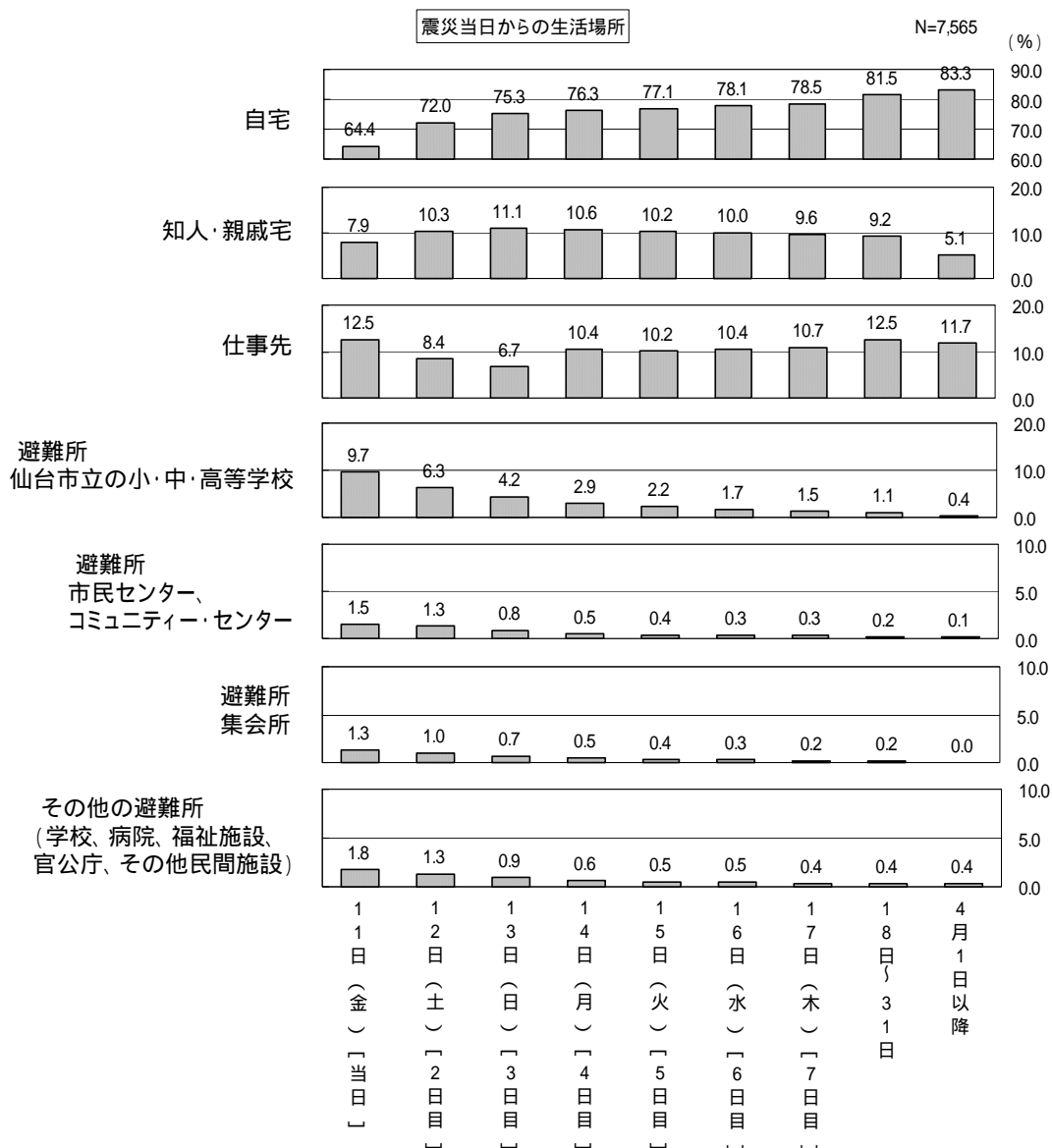


すぐに避難しなかった理由は、「津波が来ると思わなかった」が 58.7% で最も多く、「津波の情報がわからなかったから」が 42.7%、「避難の呼びかけが聞こえなかったから」が 26.7% で続いている。

2 震災後の生活 生活場所

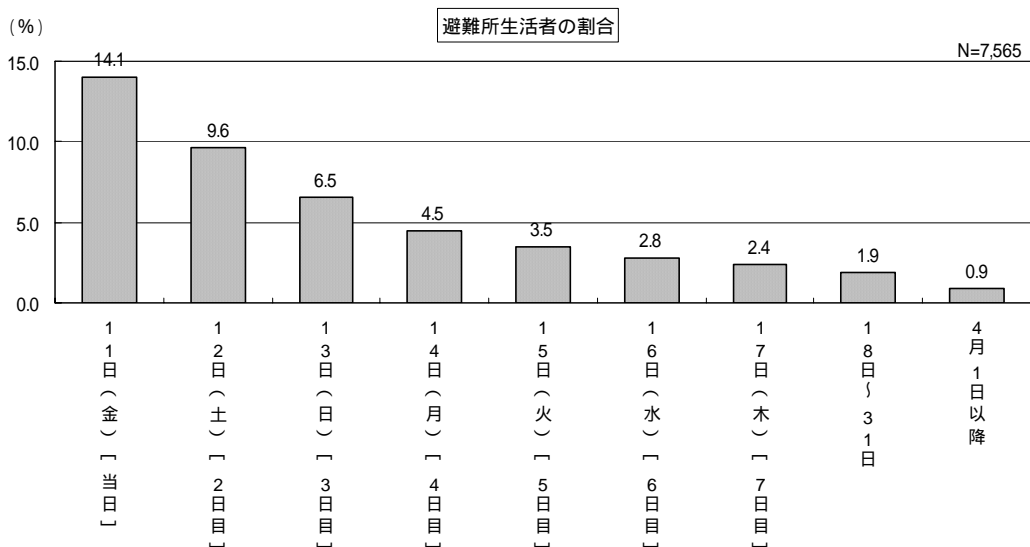
問9 3月11日の震災当日からの生活場所。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



震災当日からの生活場所は、“自宅”は日が経つにつれ、増加しており、“知人・親戚宅”、“仕事先”はほぼ横ばい、～の各避難所は、減少している。

問 9 日別、避難所生活者の割合（問 9 でそれぞれ日別に ~ の避難所に 1 つでも を付けた方の割合）

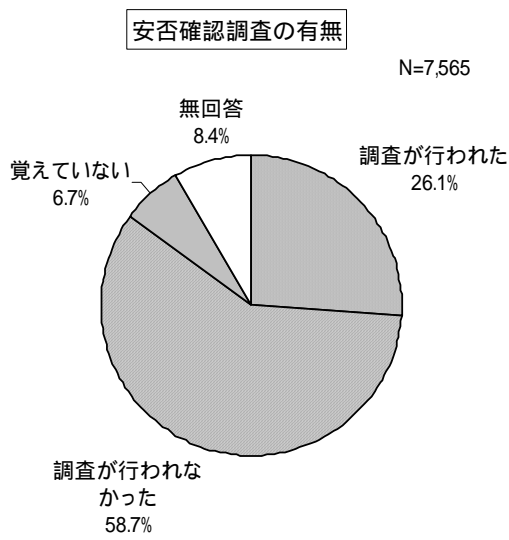


日別の避難者の割合をみると、「11 日 (金) [当日]」が 14.1%となっており、1 割以上の方が地震当日避難所を訪れたことになる。2 日目以降は減少傾向がみられ、4 月 1 日以降は 1%を切る。

2 震災後の生活 安否確認

問 10 避難所以外で生活している時期に、安否確認は行われましたか。（単数回答）

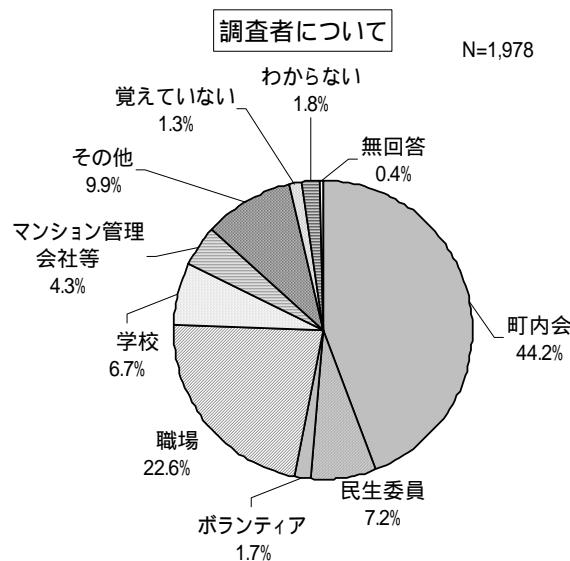
全員の方（7,565 人）にお聞きしています



安否確認について、「調査が行われた」が 26.1%、一方、「調査が行われなかった」が 58.7%となっている。

問 10- 2 安否確認の調査はどなたが行っていましたか。(単数回答)

安否確認の調査を受けた方(1,978人)にお聞きしています(問10で「調査が行われた」を選んだ方)

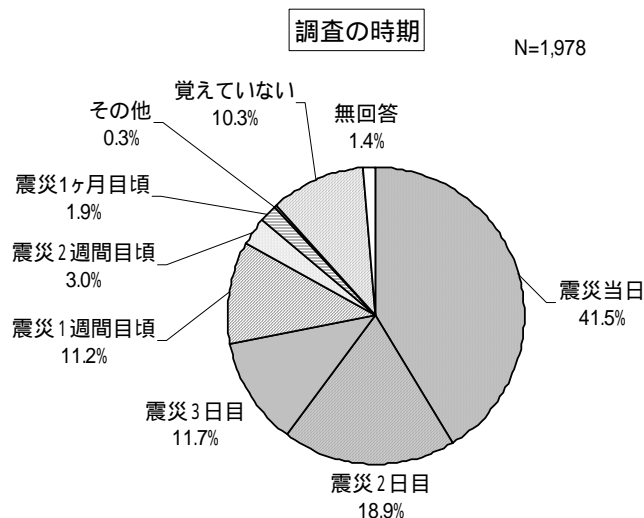


が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

安否確認の調査は、「町内会」が44.2%で最も多く、次に「職場」が22.6%が続いている。

問 10- 3 安否確認はいつごろから行われましたか。(単数回答)

安否確認の調査を受けた方(1,978人)にお聞きしています(問10で「調査が行われた」を選んだ方)

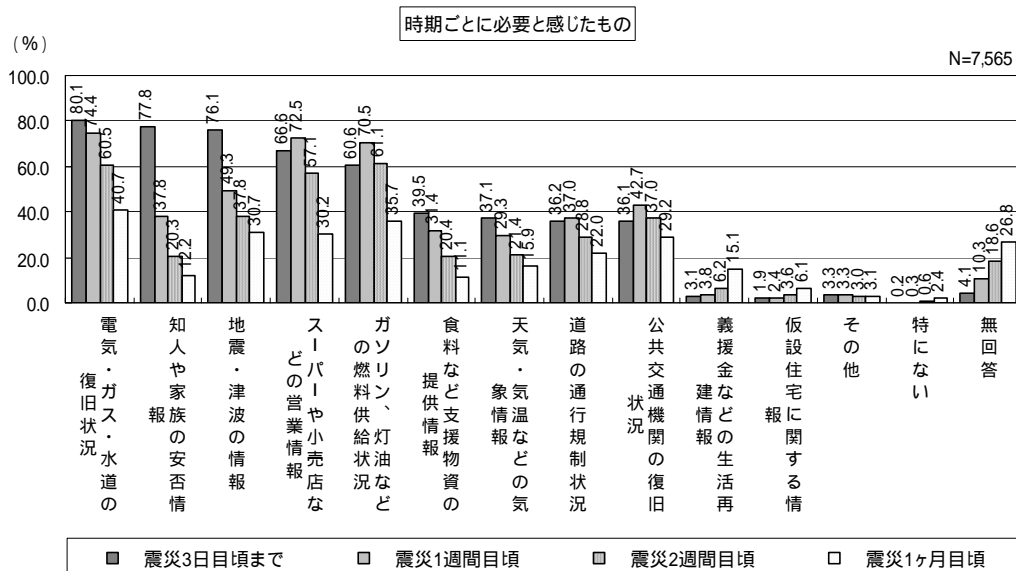


安否確認の調査を受けた時期は、「震災当日」が41.5%と最も多くなっている。

2 震災後の生活 ライフラインと情報

問 11 避難所や自宅で生活する中で、特に必要と感じた情報はどれですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



時期ごとの必要と感じた情報の上位5位

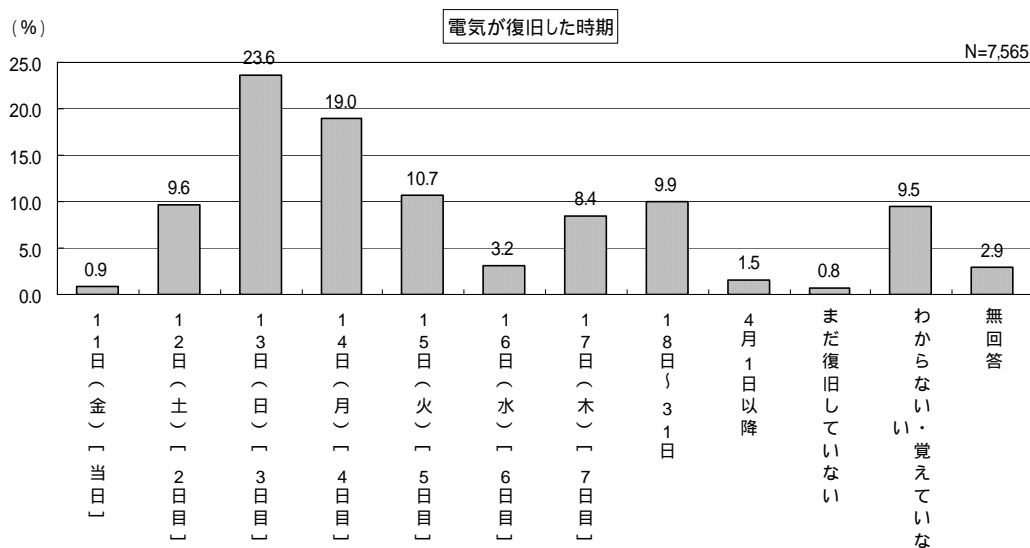
順位	震災3日目頃まで	震災1週間目頃	震災2週間目頃	震災1ヶ月目頃
1位	電気・ガス・水道の復旧状況 80.1%	電気・ガス・水道の復旧状況 77.4%	ガソリン、灯油などの燃料提供状況 61.1%	電気・ガス・水道の復旧状況 40.7%
2位	知人や家族の安否情報 77.8%	スーパーや小売店などの営業情報 72.5%	電気・ガス・水道の復旧状況 60.5%	ガソリン、灯油などの燃料提供状況 35.7%
3位	地震・津波の情報 76.1%	ガソリン、灯油などの燃料提供状況 70.5%	スーパーや小売店などの営業情報 57.1%	地震・津波の情報 30.7%
4位	スーパーや小売店などの営業情報 66.5%	地震・津波の情報 49.3%	地震・津波の情報 37.8%	スーパーや小売店などの営業情報 30.2%
5位	ガソリン、灯油などの燃料提供状況 60.6%	公共交通機関の復旧状況 42.7%	公共交通機関の復旧状況 37.0%	公共交通機関の復旧状況 29.2%

特に必要と感じた情報は、いずれの時期も「電気・ガス・水道の復旧状況」が1、2位となっており、最も必要と感じた情報の一つとなっている。

また、時期の経過で見ると、概ね時間が経つにつれ、必要とされる情報は減少する傾向がみられるが、一方で、「スーパーや小売店などの営業情報」、「ガソリン、灯油などの燃料提供状況」、「公共交通機関の復旧状況」については“震災3日目頃まで”より“震災1週間目頃”で増加し、「義援金などの生活再建情報」、「仮設住宅に関する情報」については時間の経過とともに増加しており、時間が経過するにつれて必要とされる情報の変化がみられる。

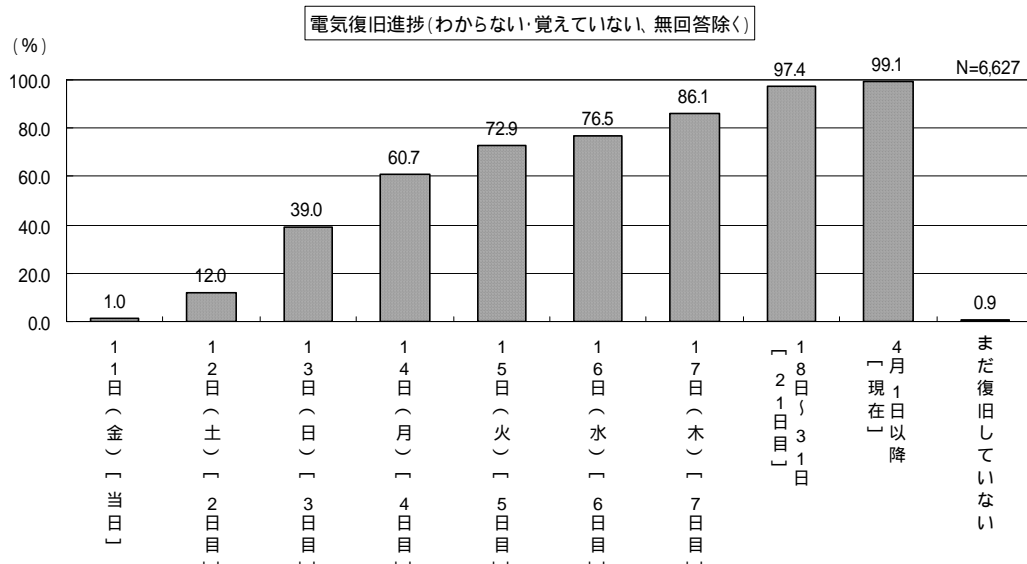
問 12 あなたのお住まいの地域で、電気が復旧したのはいつ頃ですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



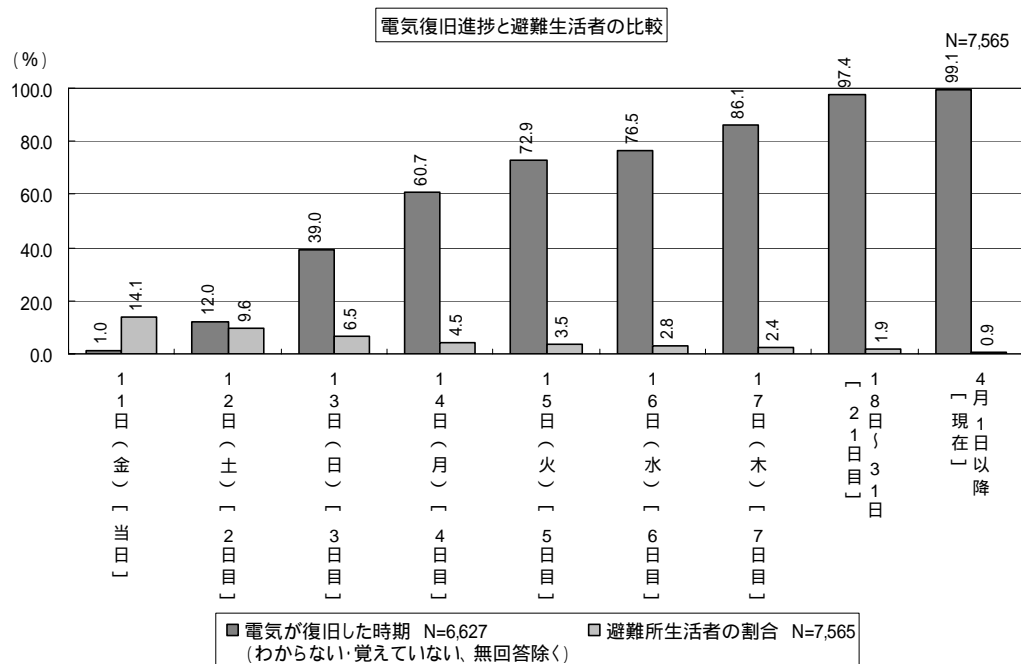
電気が復旧した時期は、「13日(日)[3日目]」が23.6%で最も多い。

問 12 電気復旧進捗(わからない・覚えていない、無回答除く)



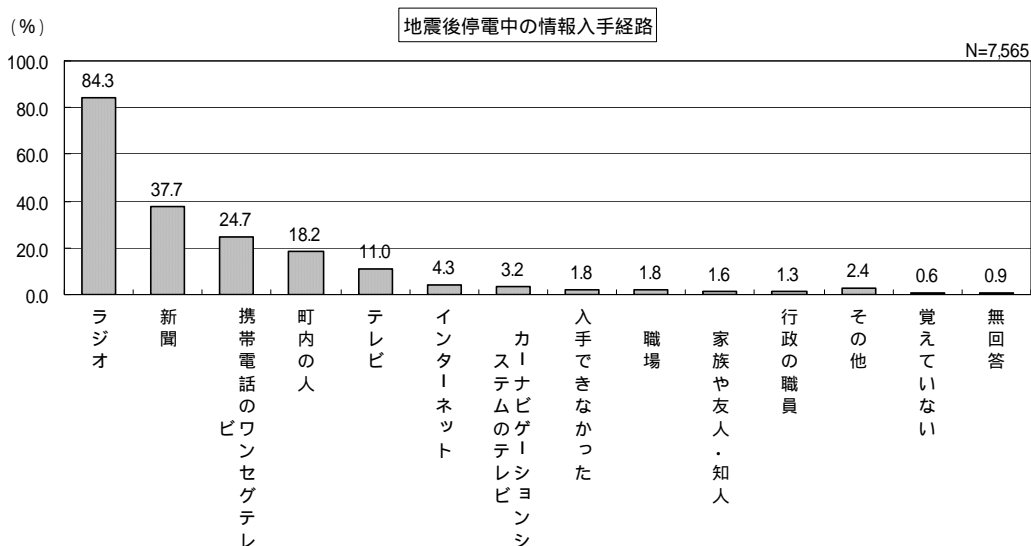
電気の復旧進捗状況(わからない・覚えていない、無回答を除くサンプルで推計)をみると、「3日目」(39.0%)ではほぼ4割、「4日目」(60.7%)で6割復旧しており、1週間後の「7日目」(86.1%)では8割以上が復旧している。

電気復旧進捗と避難生活者の比較（問 12 と問 9 の比較）



問 13 地震後の停電中、あなたは必要な情報を何から入手しましたか。(複数回答)

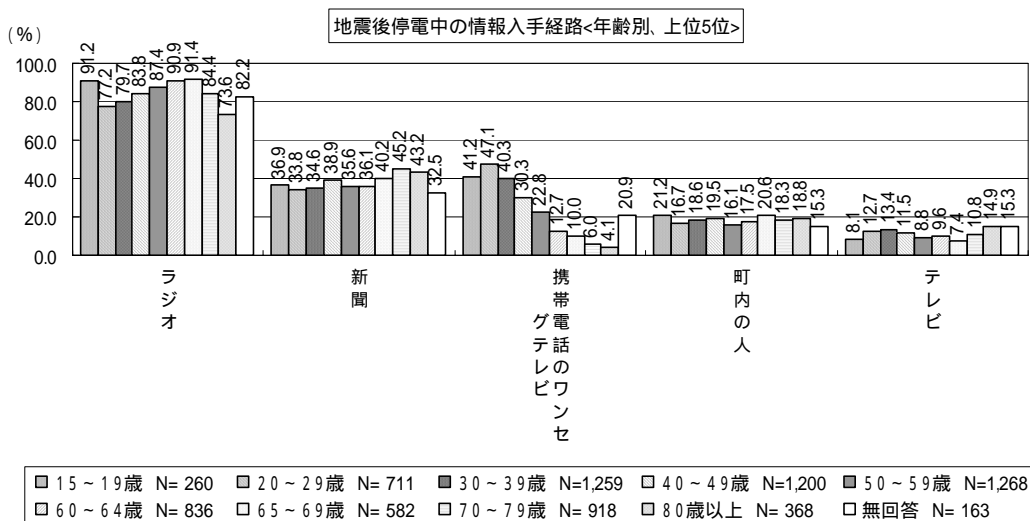
全員の方(7,565人)にお聞きしています



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

震災後の停電中に必要な情報は、第1位が「ラジオ」で84.3%と圧倒的に他の情報入手経路を引き離して多い。

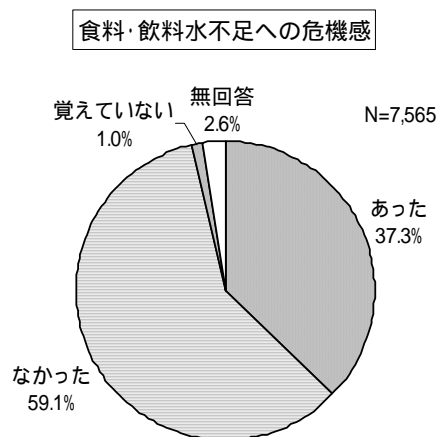
年齢別、震災後停電中の情報入手経路（問 13 × 年齢別クロス集計、上位 5 位）



年齢別でみると、「携帯電話のワンセグテレビ」が概ね年齢が低くなるにつれ、多くなっている。

問 14 食料・飲料水が足りなくなり、生活が維持できないと感じましたか。（単数回答）

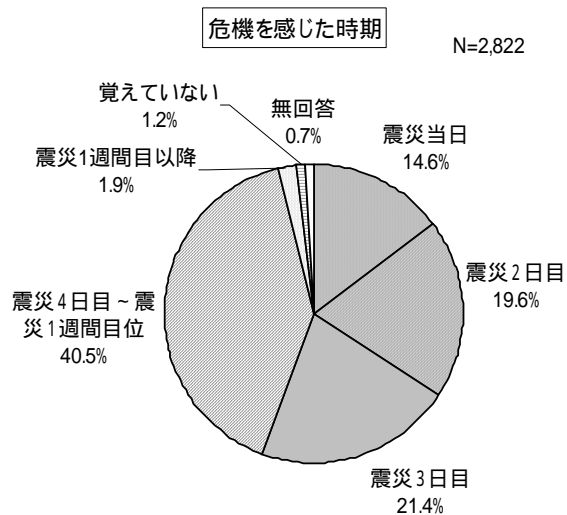
全員の方（7,565 人）にお聞きしています



食料・飲料水が足りなくなり、生活が維持できないと感じた人が、37.3%となっており、4 割近くの人が、食料等の危機感を持ったことになる。

問 14 - 2 生活が維持できないと感じた時期はいつ頃ですか。(単数回答)

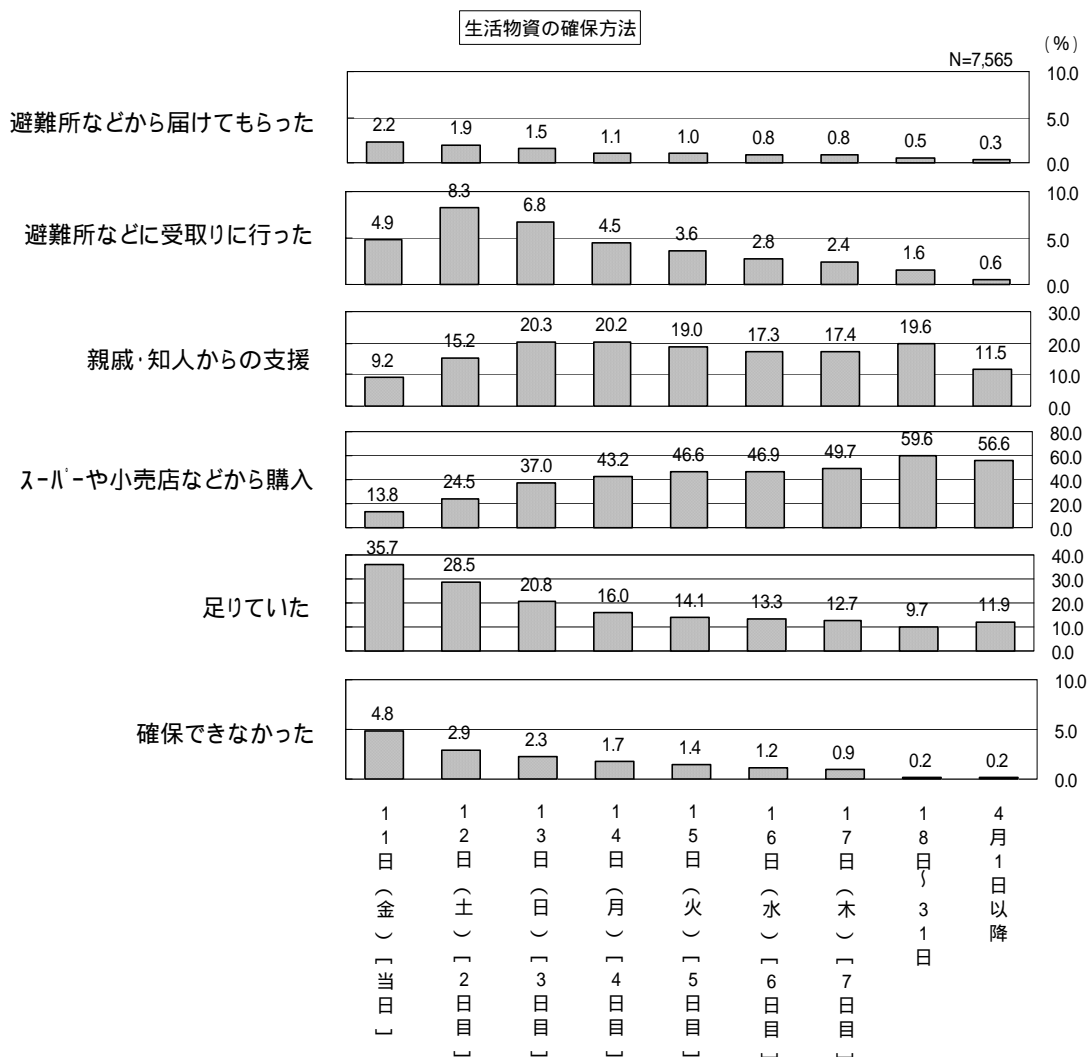
食料不足等の危機感があった方(2,822人)にお聞きしています(問14で「あった」を選んだ方)



生活が維持できないと感じた時期は、「震災4日目～震災1週間目位」が40.5%を占め最も多くなっている。

問 15 生活物資が足りない場合には、どのように確保しましたか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています

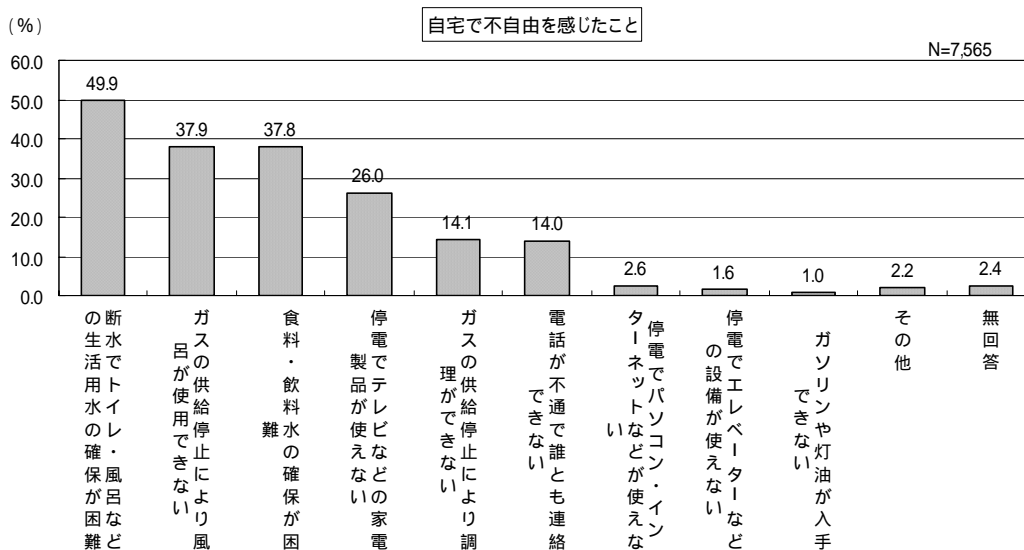


震災2日目までは「足りていた」とする人が最も多いものの、日毎に減少がみられ、2日目には「避難所などに受取りに行った」「親戚・知人からの支援」「スーパーや小売店などから購入」した人が増えている。3日目以降は「スーパーや小売店などから購入」した人が最も多く、日毎に増加している。

また、「確保できなかった」人は震災当日で4.8%であったが、震災7日目には0.9%と1%未満に減少している。

問 16 3月11日以降、自宅で生活する中で特に不自由を感じたこと。(複数回答)

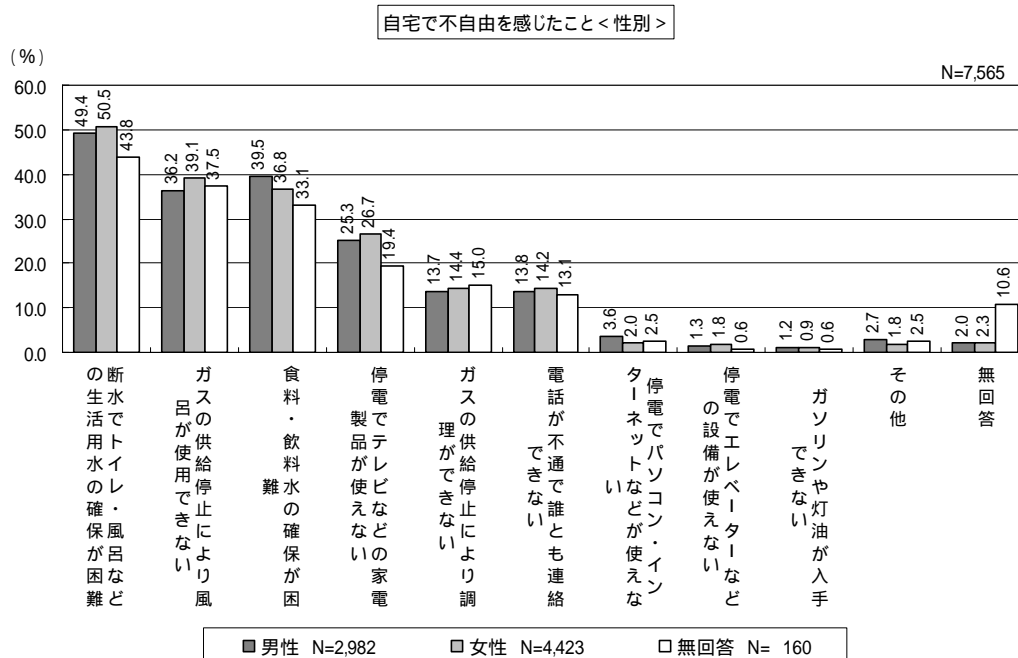
全員の方(7,565人)にお聞きしています



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

自宅で不自由を感じたことは、「断水でトイレ・風呂などの生活用水の確保が困難」で 49.9% とほぼ半数の人が挙げている。

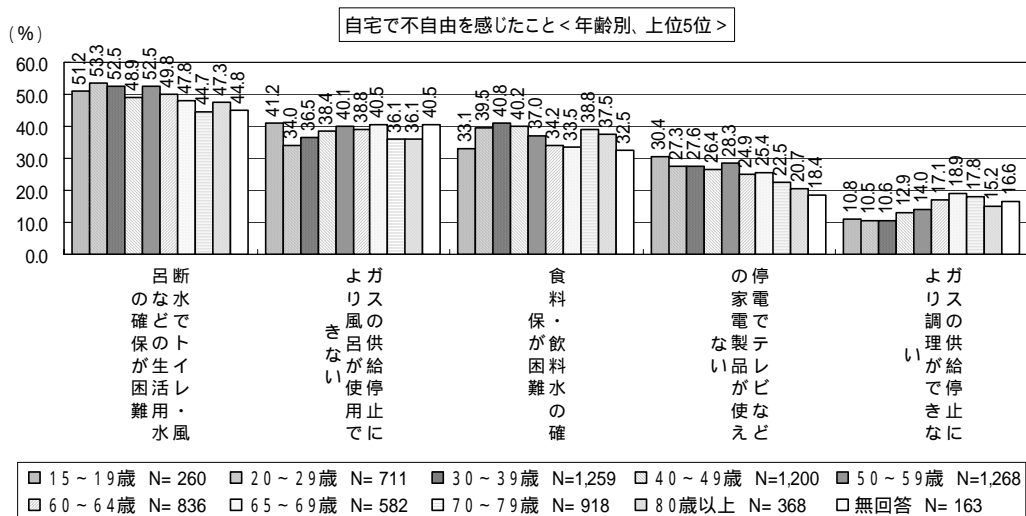
性別、自宅で不自由を感じたこと (問 16 × 性別クロス集計)



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

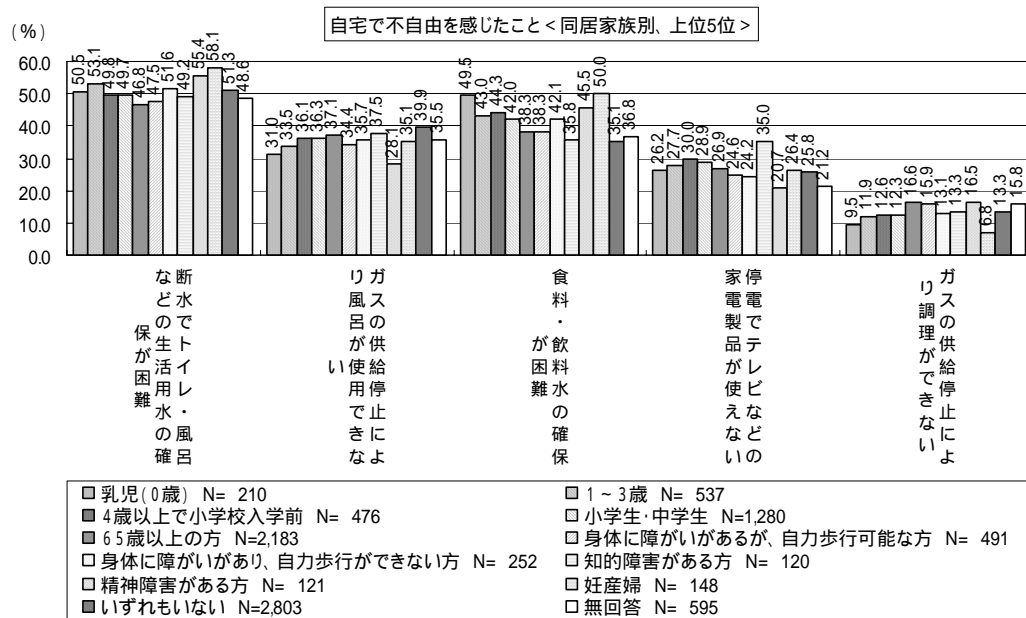
性別でみると、大きな差はみられない。

年齢別、自宅で不自由を感じたこと（問16×年齢別クロス集計）



年齢別でみると、大きな差はみられない。

同居家族別、自宅で不自由を感じたこと（問16×同居家族（複数回答）別クロス集計）

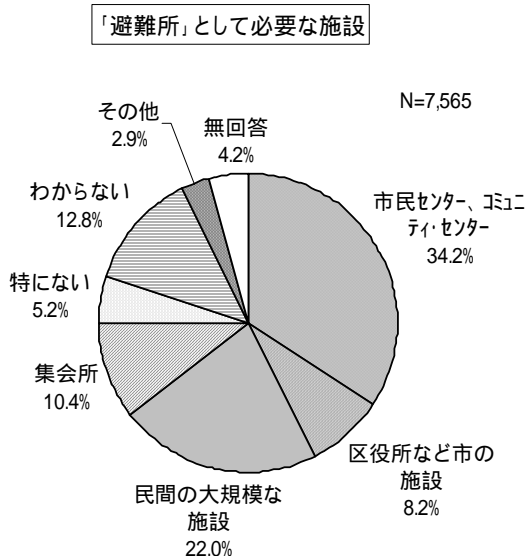


同居家族別にみると、「食料・飲料水の確保が困難」は、「いずれもない」世帯に比べてすべての世帯で上回っており、特に「乳児」「妊産婦」のいる世帯では約半数が回答している。

3 避難所に関する意識 避難所として必要な施設

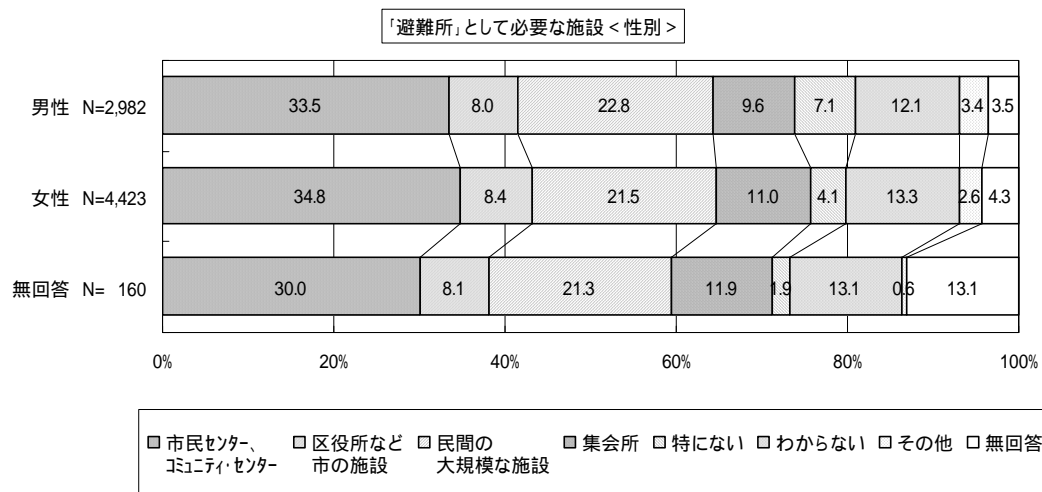
問 17 今後「避難所」として新たに考えるべきと思う施設はどれですか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



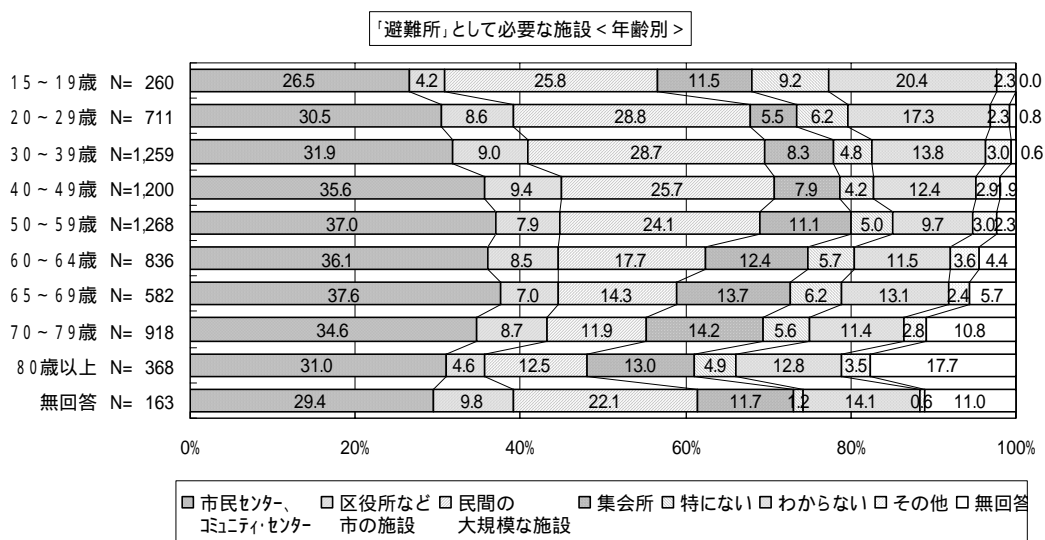
避難所として必要な施設は、「市民センター、コミュニティ・センター」が34.2%と最も多く、次いで「民間の大規模な施設」が22.0%となっている。

性別、「避難所」として必要と思う施設(問17×性別クロス集計)



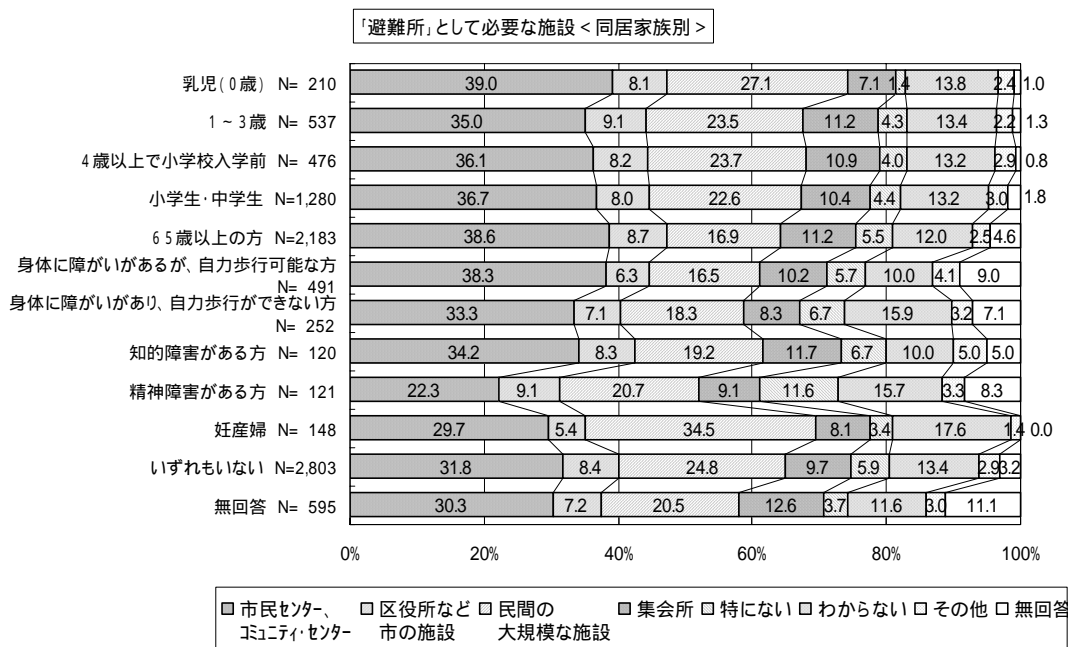
性別で見ると、大きな差はみられない。

年齢別、「避難所」として必要と思う施設（問 17 × 年齢別クロス集計）



年齢別でみると、「市民センター、コミュニティ・センター」は概ね年齢が高くなるにつれ、多くなる傾向がみられる。一方、「民間の大規模な施設」は概ね年齢が低くなるにつれ、多くなる傾向がみられる。

同居家族別、「避難所」として必要と思う施設（問 17 × 同居家族（複数回答）別クロス集計）

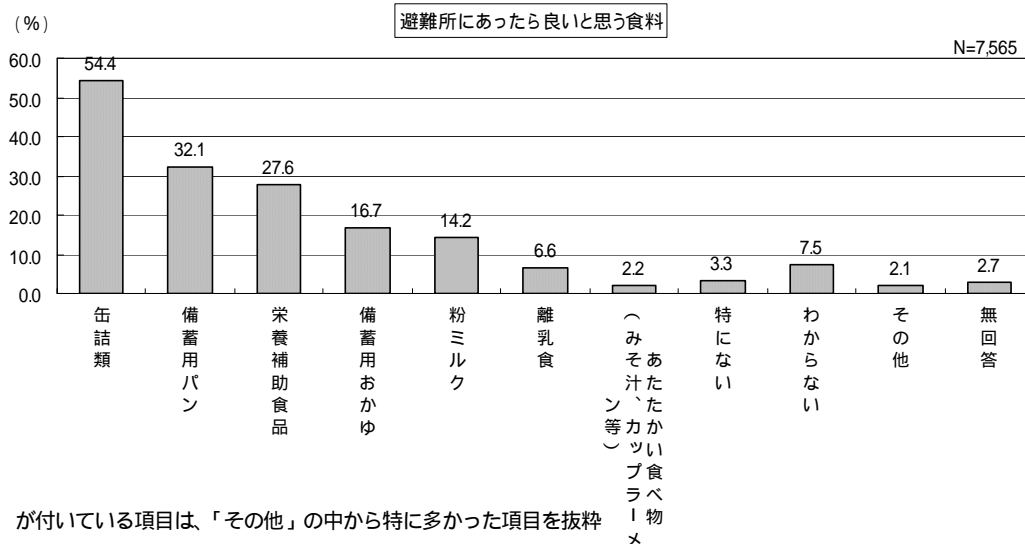


同居家族別にみると、「妊産婦」のいる世帯では「民間の大規模な施設」が最も多くなっている。

3 避難所に関する意識 避難所に必要な食料・物資

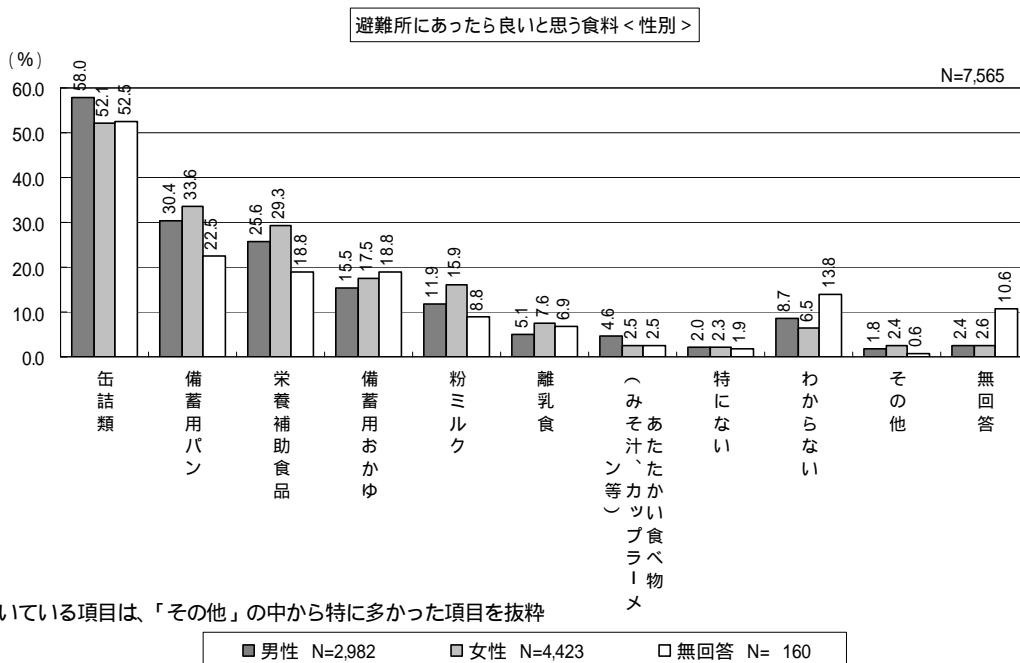
問 18 避難所の備蓄であつたら良いと思う食料はどれですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



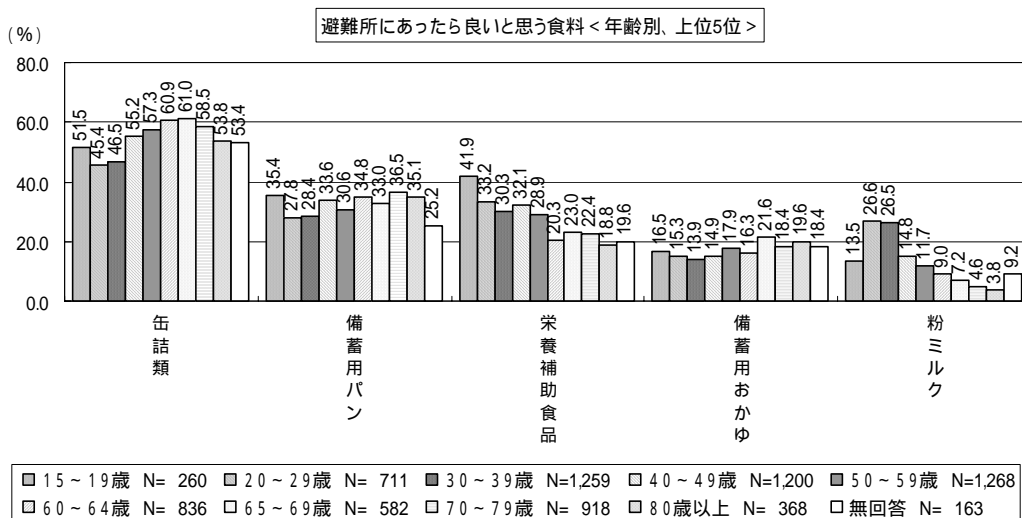
避難所にあつたら良いと思う食料は、「缶詰類」が 54.4%と半数以上の方が挙げており、最も多くなっている。

性別、避難所にあつたら良いと思う食料(問18×性別クロス集計)



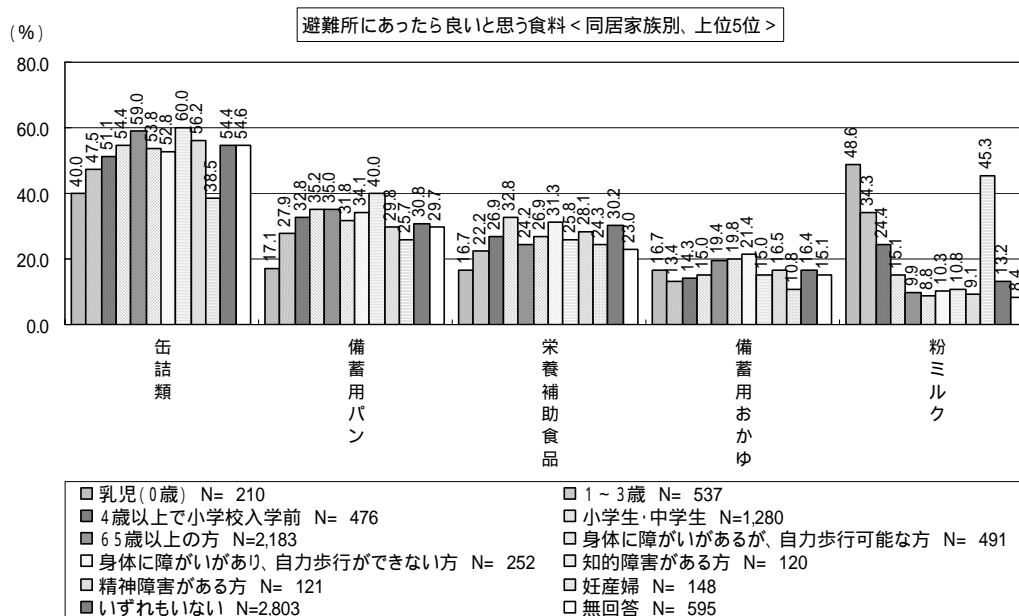
性別でみると、「缶詰類」は男性が女性をやや上回っている。他の項目については、概ね女性が男性をやや上回っている。

年齢別、避難所にあつたら良いと思う食料（問 18 × 年齢別クロス集計、上位 5 位）



年齢別でみると、「缶詰類」は“65～69歳”を中心に多くなっている。「栄養補助食品」、「粉ミルク」は概ね年齢が低くなるにつれ多くなっており、「粉ミルク」に関しては20～39歳が特に多い。

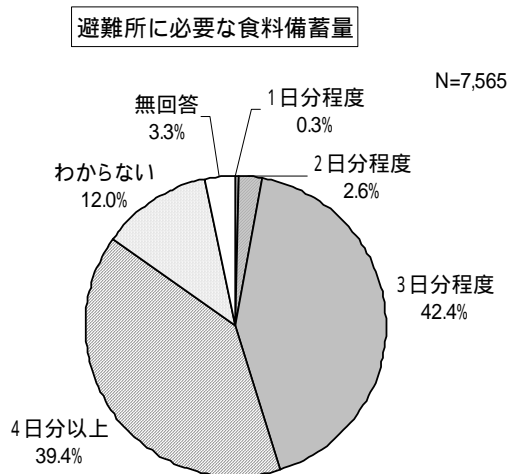
同居家族別、避難所にあつたら良いと思う食料（問 18 × 同居家族（複数回答）別クロス集計、上位 5 位）



同居家族別でみると、「粉ミルク」は“乳児(0歳)”、“妊産婦”のいる世帯で多くなっている。

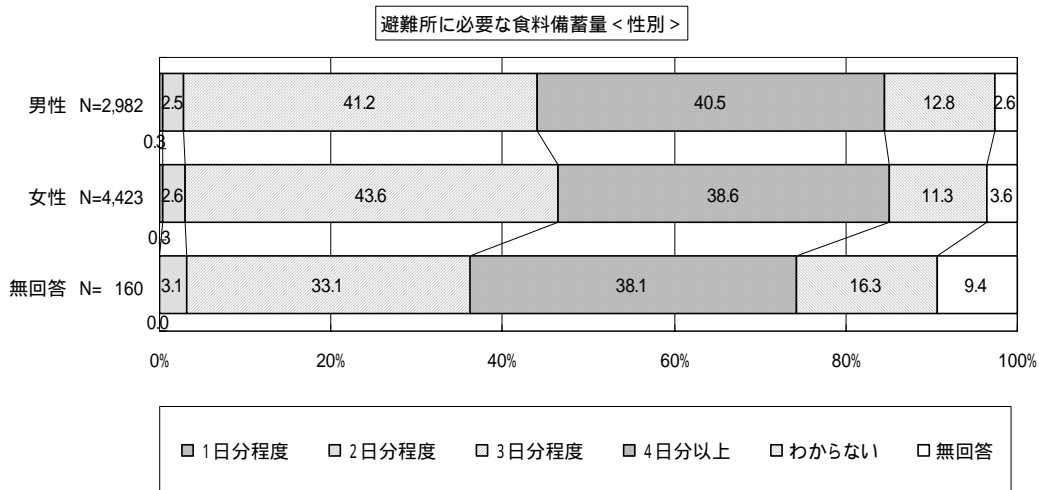
問 19 避難所には何日分の食料が必要だと思いますか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



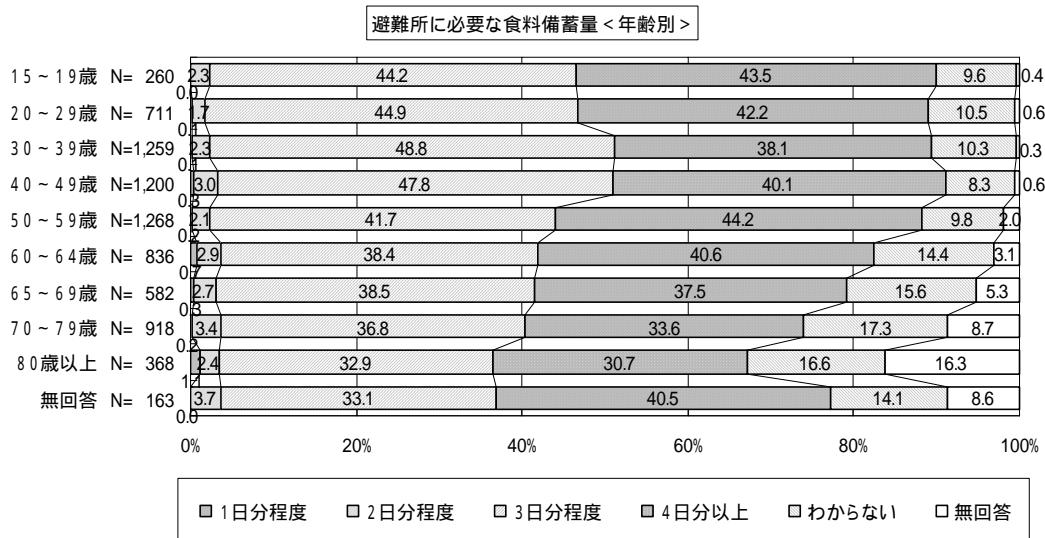
避難所に必要な食糧備蓄量は、「3日分程度」が42.4%と最も多く、次に「4日分以上」が39.4%で続いている。

性別、避難所に必要な食料備蓄量 (問 19 × 性別クロス集計)



性別でみると、大きな差はみられない。

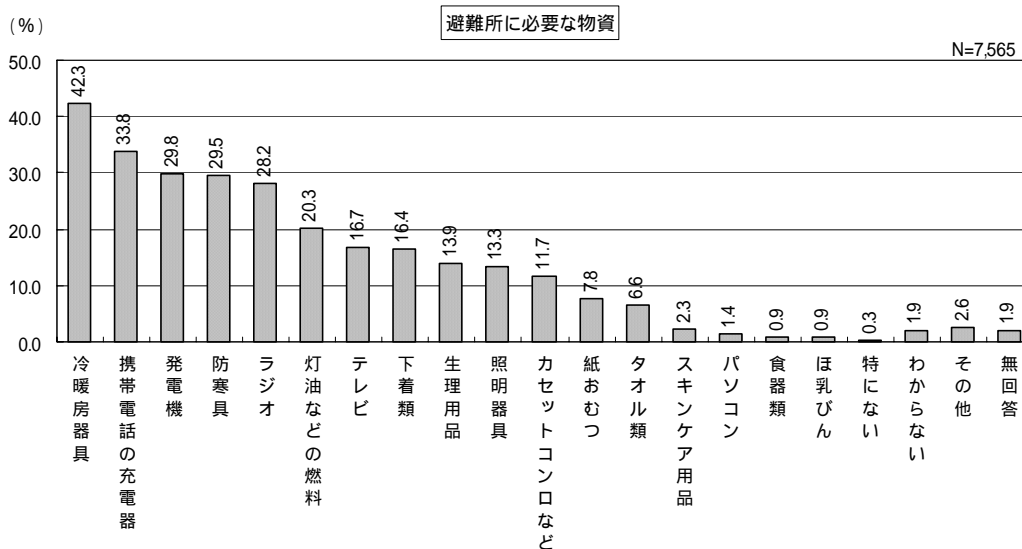
年齢別、避難所に必要な食料備蓄量（問 19 × 年齢別クロス集計）



年齢別でみると、いずれの年齢帯でも「3日分程度」と「4日以上」が同程度の割合となっている。

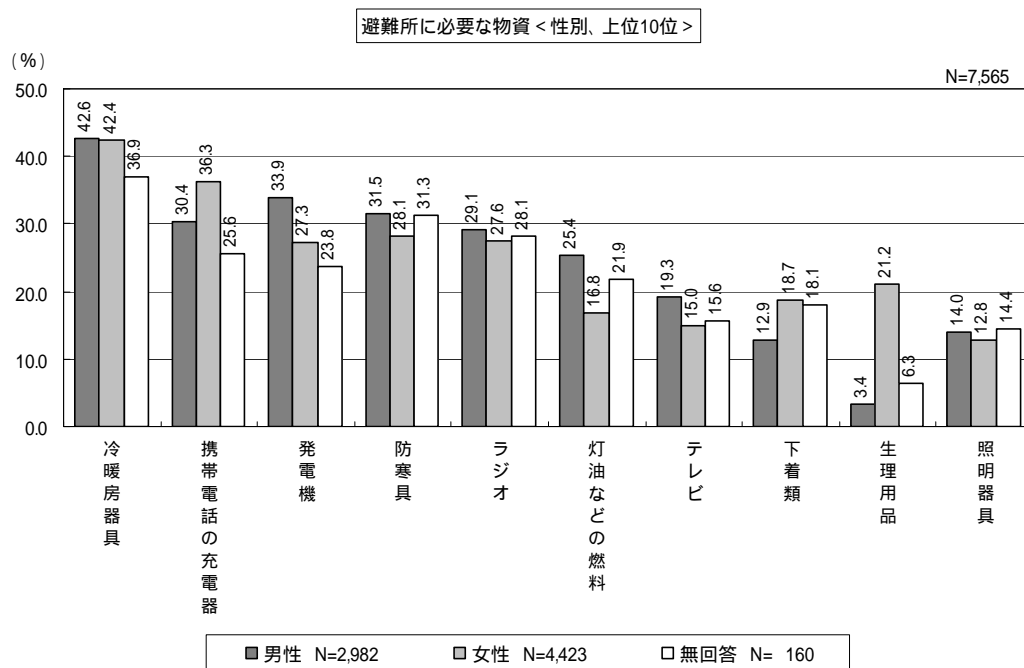
問 20 避難所で生活する上で、特に必要と思う「物資」はどれですか。（複数回答）

全員の方（7,565人）にお聞きしています



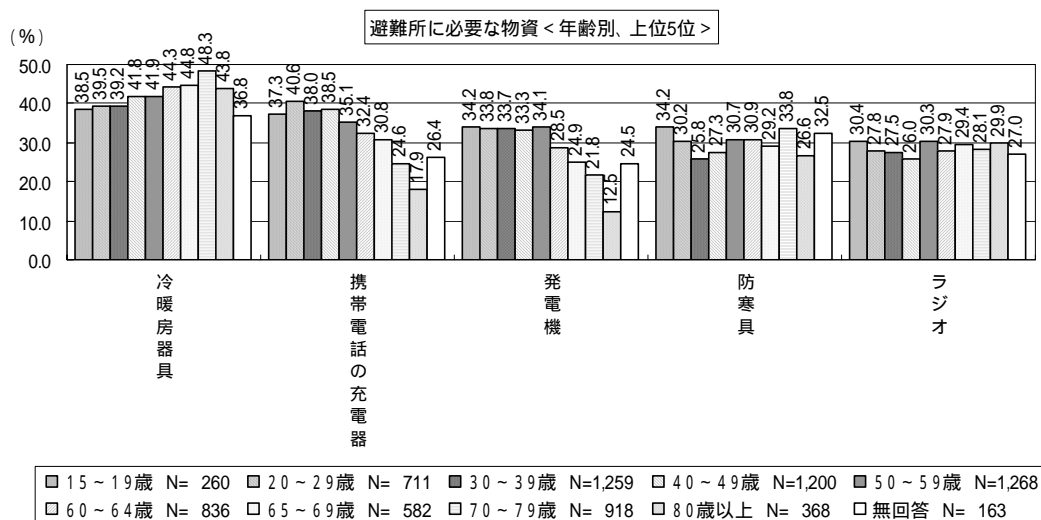
避難所に必要と思う物資は、「冷暖房器具」が42.3%と最も多く、次に「携帯電話の充電器」（33.8%）、「発電機」（29.8%）、「防寒具」（29.5%）、「ラジオ」（28.2%）が3割前後で続いている。

性別、避難所に必要な物資（問 20 × 性別クロス集計、上位 10 位）



性別でみると、「発電機」、「灯油などの燃料」が男性で多く、「携帯電話の充電器」、「下着類」が女性で多くなっている。

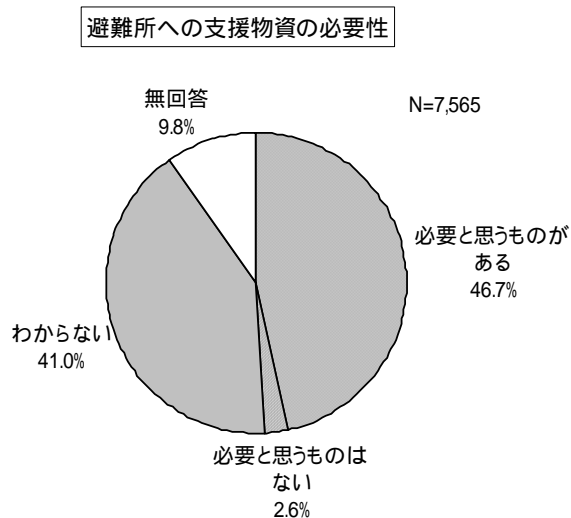
年齢別、避難所に必要な物資（問 20 × 年齢別クロス集計、上位 5 位）



年齢別でみると、「冷暖房器具」は概ね年齢が高くなるにつれ、多くなる傾向がみられ、「携帯電話の充電器」は概ね年齢が低くなるにつれ、多くなる傾向がみられる。

問 21 - 1 今後避難所生活をする場合、支援物資として必要と思うもの。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



避難所への支援物資の必要性は、「必要と思うものがある」が46.7%で最も多く、「わからない」が41.0%で続いている。

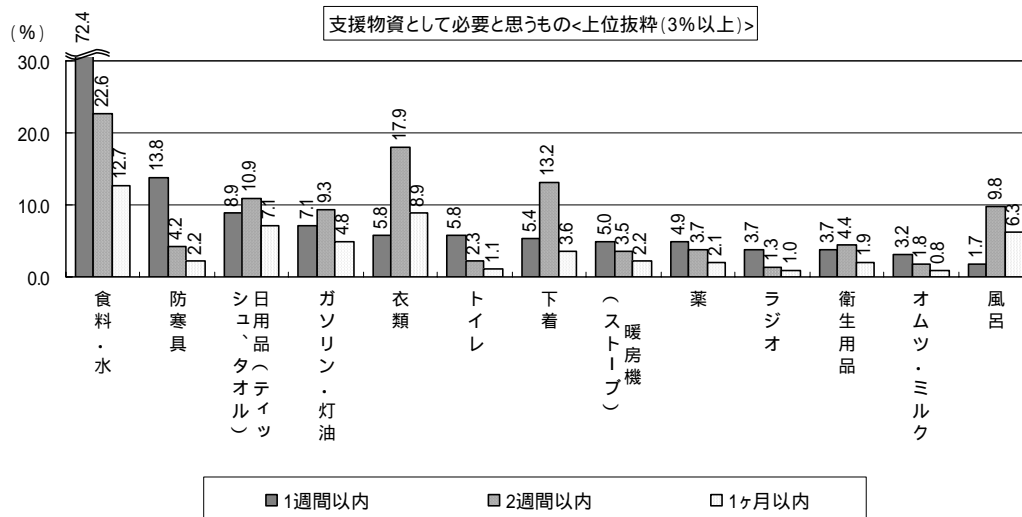
問 21 - 2 支援物資として必要と思うものの具体的記述内容。(自由記述)

支援物資として必要があると答えた方(3,538人)にお聞きしています(問21-1で「必要と思うものがある」を選んだ方)

問21-1で今後避難所で生活する場合、支援物資として「必要と思うものがある」と答えた3,538人に、具体的に必要と思うものを、「震災から1週間以内」、「震災から2週間以内」、「震災から1ヶ月以内」の3つの時期に分けて自由記述形式でたずねた。記述内容を項目別に分類し、とりまとめたところ以下ようになった。

支援物資として必要と思うもの

項目	1週間以内		2週間以内		1ヶ月以内	
	%	件数	%	件数	%	件数
1 食料・水(食料その1)	72.4	2,557	22.6	799	12.7	449
2 防寒具	13.8	486	4.2	147	2.2	76
3 日用品(ティッシュ、タオル)	8.9	313	10.9	384	7.1	249
4 ガソリン・灯油	7.1	250	9.3	328	4.8	170
5 衣類	5.8	206	17.9	633	8.9	316
6 トイレ	5.8	205	2.3	80	1.1	40
7 下着	5.4	192	13.2	467	3.6	127
8 暖房機(ストーブ)	5.0	175	3.5	125	2.2	78
9 薬	4.9	173	3.7	132	2.1	75
10 ラジオ	3.7	129	1.3	46	1.0	36
11 衛生用品	3.7	131	4.4	154	1.9	66
12 オムツ・ミルク	3.2	114	1.8	62	0.8	27
13 発電機	2.5	87	1.8	65	0.8	28
14 情報源	2.0	71	1.4	51	1.3	47
15 乾電池	2.0	71	1.2	41	0.3	12
16 充電器	1.9	68	1.1	39	0.5	19
17 風呂	1.7	60	9.8	347	6.3	222
18 テレビ	1.3	47	1.5	52	2.9	102
19 カセットコンロ	1.3	47	1.4	48	0.7	24
20 野菜・果物・お菓子(食料その2)	1.0	34	1.1	40	0.7	25
21 懐中電灯・ロウソク	0.8	29	0.1	3	0.0	0
22 テント	0.7	26	0.4	13	0.4	14
23 パーテーション(プライバシー)	0.6	22	2.1	75	2.4	83
24 新聞・雑誌	0.4	13	0.6	21	0.8	28
25 嗜好品(食料その3)	0.3	9	0.6	20	0.5	19
26 現金	0.2	7	0.3	10	1.3	47
27 その他	7.1	251	6.1	215	9.3	329
無回答	4.0	142	23.9	844	47.2	1,668
全体	100.0	3,531	100.0	3,531	100.0	3,531



時期の経過でみると、概ね時間が経つにつれ、必要とされるものは減少する傾向がみられるが、一方で、「1週間以内」より「2週間以内」で増えているものは、「日用品」、「ガソリン、灯油」、「衣類」、「下着」、「衛生用品」、「風呂」となっており、生活に必要な物資の変化がみられる。

問 22 仙台市では今回の震災を踏まえ、「避難所への避難が必要であったのに、何らかの理由で避難できず自宅で生活された方々」に対して、行政や地域の支援のあり方について検討を行っています。

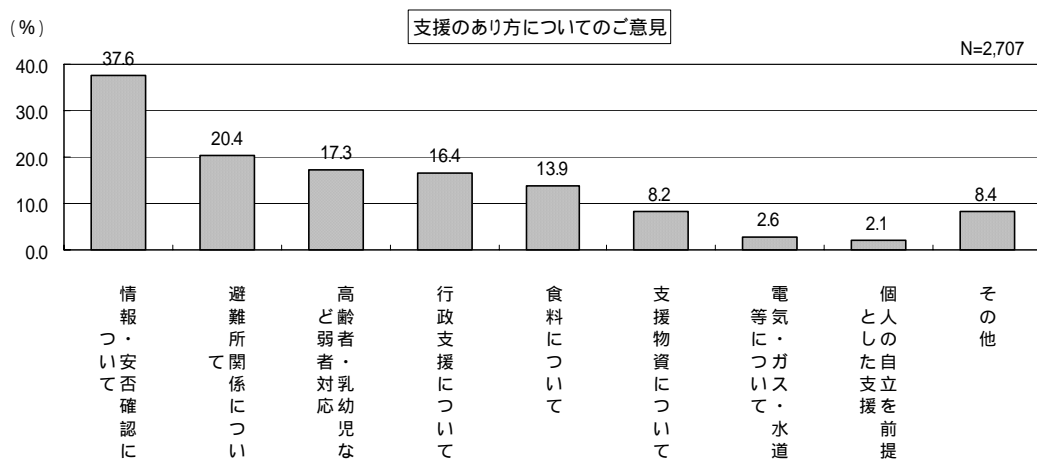
そういった方々への支援のあり方について、ご意見があれば記入してください。(自由記述)

全員の方(7,565人)にお聞きしています

全員の方(7,565人)に自由記述形式でたずねたところ、2,707人から、延べ3,435の意見をいただいた。意見を項目別に分類し、とりまとめたところ以下ようになった。

支援のありかたについてのご意見

項目	%	件数
情報・安否確認について	37.6	1,018
避難所関係について	20.4	552
高齢者・乳幼児など弱者対応	17.3	469
行政支援について	16.4	443
食料について	13.9	377
支援物資について	8.2	221
電気・ガス・水道等について	2.6	71
個人の自立を前提とした支援	2.1	56
その他	8.4	228
全体	100.0	2,707



自由記述抜粋

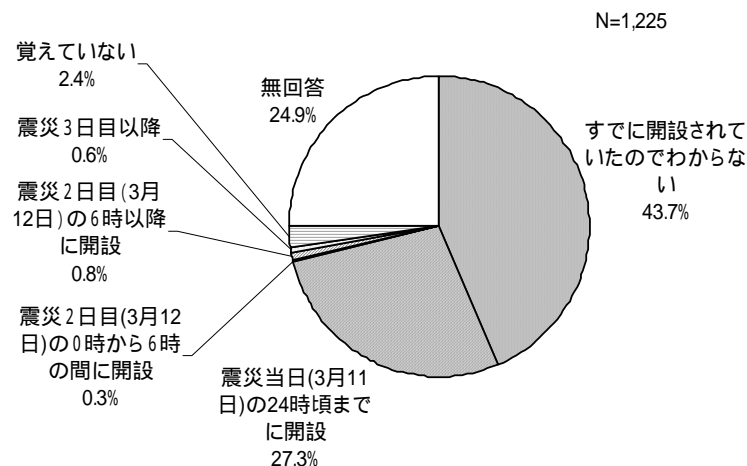
1. 情報・安否確認について
 - ・一人住まいの方の把握、自力避難の困難な方の把握、そういった方への支援体勢の確立。また避難所へ行ったが、食料等がなく、人も多く、自分が行くとむしろ迷惑かと思った。
 - ・各地区のすみずみ迄、広報車を走らせて情報を知らせる事を毎日行って欲しいと思いました。
 - ・支援物資、食料等の配布情報が欲しい。広報車（スピーカー付）、配給チケット等の配布！
2. 避難所関係について
 - ・震災当日近くの小学校に行ったが、収容できる人数をはるかに超えた人数が集まっていて、食料や毛布も足りない状況で、やむをえず自宅に帰った。
 - ・市内の避難所は人がたくさんになり、物資もなくなり、機能していなかった。
 - ・避難所がせますぎて、寝るスペースがなかった。広い、多人数に対応出来るスペースの避難所を確保して欲しい。
3. 高齢者・乳幼児など弱者対応
 - ・病気や障害などの理由で避難所に行けない方々のため、専用の避難所を設けてはどうか。
 - ・乳幼児や体の不自由な方々へのサポートについての枠組みがあればよい。
 - ・身体の不自由な方、お年の方の支援、ネットワークの確立。
4. 行政支援について
 - ・避難所に行かなくても支援物資を手に入れられるような方法を考えて欲しい。
 - ・水、食料等、生活物資の支援と、復興への金銭的援助。
 - ・避難所に立ち寄れば、食料品等を分けていただけるシステムがあればと思います。
5. 食料について
 - ・給水所が遠すぎて、水の確保がむずかしく自宅で生活出来ず、知人の世話を受けた。
 - ・食料品などの支給（受取り）も避難者同様に行った方が良いと思います。
 - ・食料などを各家に配ってほしい。情報もたりなかったし、何の支援もなかった。4時間スーパーに並んで、1人1個のカップラーメンと500mlのお茶しか買えなかった。
6. 支援物資について
 - ・避難所にいなければ、支援物資がもらえないのは、おかしい。自宅にいる人にも支援すべき。
 - ・避難所以外に支援物資の配布場所、情報の提供場所が設置されるとよい。
 - ・各家庭を見回って欲しい。物資も運んで欲しい。
7. 電気・ガス・水道等について
 - ・水、ガス、電気等の復旧情報が欲しい。
 - ・「トイレ用の水に」と思い、避難所小学校のプールの水をペットボトルにわけてもらえないかと思い行きましたが、「この水は避難所用の水だ」とわけてもらえませんでした。おかしいと思います。
 - ・車があってもガソリンがなく、近くのガソリンスタンドは緊急車両のみ給油可能という事で大変不便を感じた。
8. 個人の自立を前提とした支援
 - ・自治体に過度に依存するような過保護行政は好ましくない。
 - ・基本は自衛だと思います。自宅で食料や生活必需品の備蓄を7～10日分は確保しておくことが必要だと思い知らされました。
 - ・食事が出るというので避難所へ行った人の話を聞いたが、安易に利用すればいいというのではなく、まず自分で日頃から問題意識を持ち、個々の努力が必要である。
9. その他
 - ・仙台市だけでは支援をするのが大変だと思います。もっと大きな力を持っている方々に協力していただきたいです。
 - ・早い物勝ちの状況。自宅で生活できるのに、ずるい人ほど早く避難所に行く、人間的に許せない。
 - ・ボランティアだけでなく、地域の支援を制度化することはできないか。

4 避難所の生活 避難した避難所の状況

問 23 あなたが避難した施設が、避難所として開設されたのはいつですか。(単数回答)

避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でもつけた方)

避難した施設が開設された時期

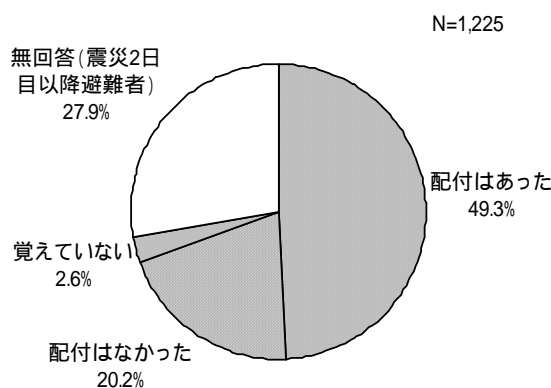


避難した施設が開設された時期は、「すでに開設されていたのでわからない」が43.7%で最も多く、次に「震災当日(3月11日)の24時頃までに開設」が27.3%と続いている。

問 24 3月11日の震災当日、あなたに水や食料の配付はありましたか。(単数回答)

避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でもつけた方)

震災当日の水や食料の配付状況

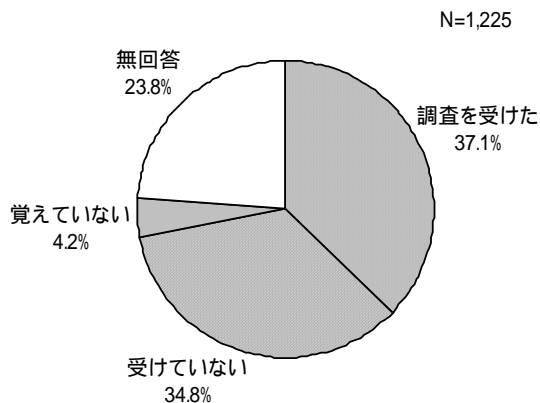


震災当日の水や食料の配給状況は、「配付があった」が49.3%、「配付はなかった」が20.2%となっている。

問 25 あなたは、避難所で名前や住所などの調査を受けましたか。(単数回答)

避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でも をつけた方)

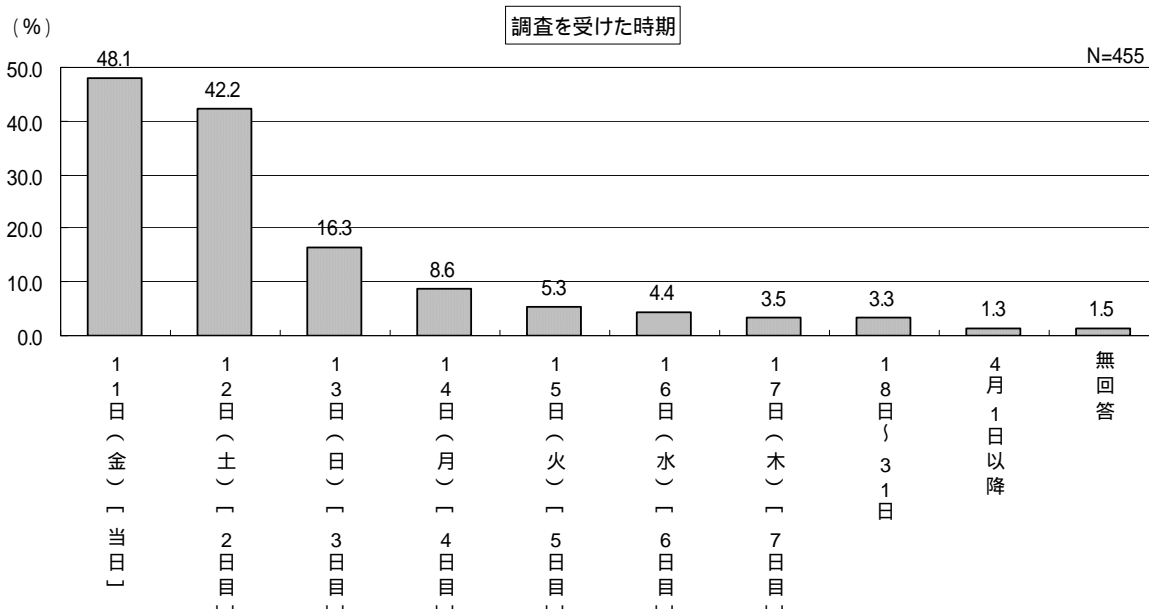
避難所での避難者情報調査



避難所での避難者情報について、「調査を受けた」が37.1%、一方「受けていない」が34.8%と同程度の割合となっている。

問 25 - 2 名前や住所の調査を受けた時期。(複数回答)

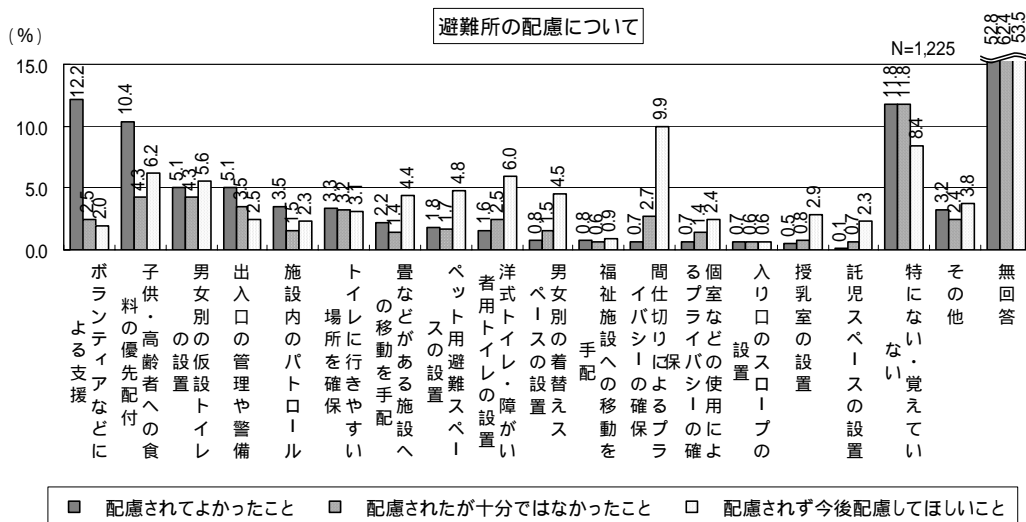
調査を受けた方(455人)にお聞きしています(問25で、「調査を受けた」を選んだ方)



調査を受けた時期は、「当日」が48.1%と最も多く、次に「2日目」が42.2%となっており、日が経つにつれ減少している。

問 26 あなたが避難した避難所での配慮についておたずねします。(複数回答)

避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でも つけた方)



避難所での配慮について上位5位

順位	配慮されてよかったこと	配慮されたが十分ではなかったこと	配慮されず今後配慮してほしいこと
1位	ボランティアなどによる支援 12.2%	子供・高齢者への食料の優先配付 4.3%	間仕切りによるプライバシーの確保 9.9%
2位	子供・高齢者への食料の優先配付 10.4%	男女別の仮設トイレの設置 4.3%	子供・高齢者への食料の優先配付 6.2%
3位	男女別の仮設トイレの設置 5.1%	出入口の管理や警備 3.5%	洋式トイレ・障害者用トイレの設置 6.0%
4位	出入口の管理や警備 5.1%	トイレに行きやすい場所の確保 3.2%	男女別の仮設トイレの設置 5.6%
5位	施設内のパトロール 3.5%	ボランティアなどによる支援 2.5%	ペット用避難スペースの設置 4.8%
		洋式トイレ・障害者用トイレの設置 2.5%	

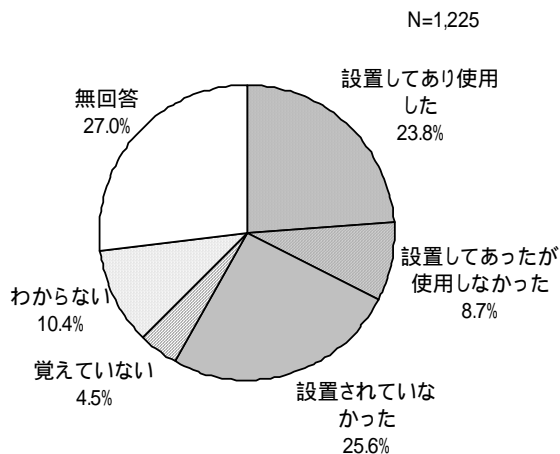
“ 配慮されてよかったこと ” は「ボランティアなどによる支援」(12.2%) が最も多い。
 “ 配慮されたが十分ではなかったこと ” は「子供・高齢者への食料の優先配付」(4.3%) 「男女別の仮設トイレの設置」(4.3%) が同率で最も多い。
 “ 配慮されず今後配慮してほしいこと ” は「間仕切りによるプライバシーの確保」(9.9%) が最も多い。
 「子供・高齢者への食料の優先配付」については、“ ” 全てで1位、または2位となっている。

4 避難所の生活 簡易組み立てトイレについて

問 27 あなたが避難した避難所の「簡易組み立てトイレ」の設置状況。(単数回答)

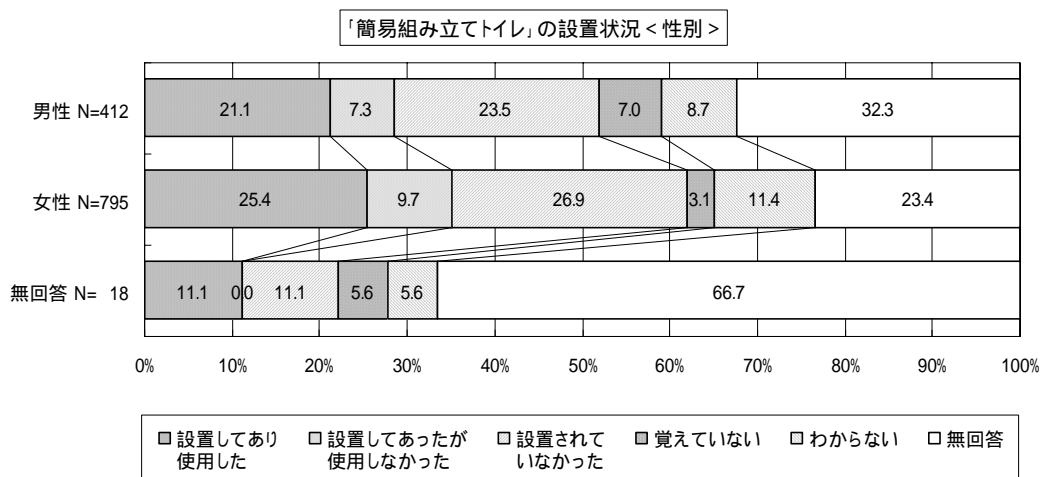
避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でもつけた方)

「簡易組み立てトイレ」の設置状況



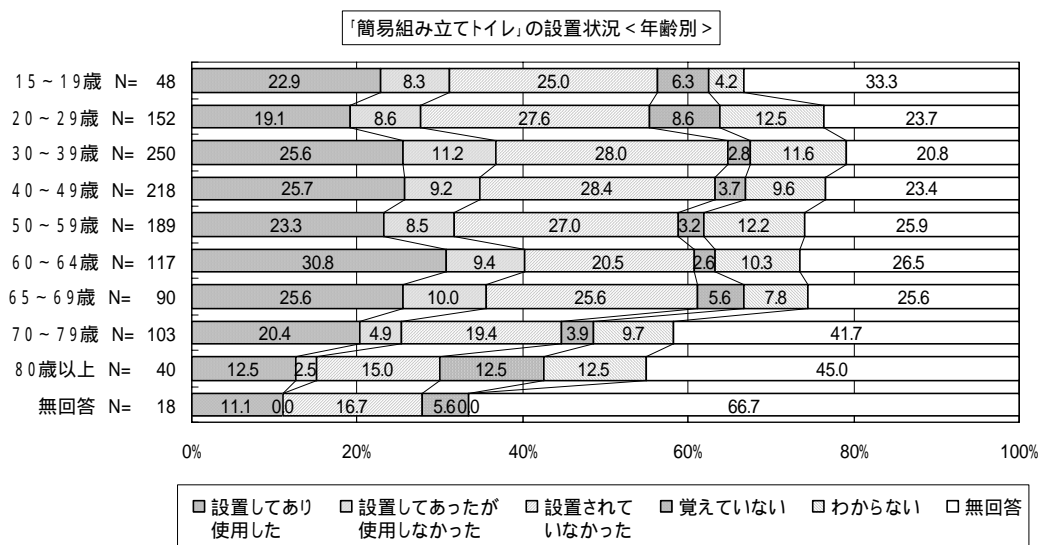
避難所のトイレが使用できない場合に設置する、簡易組み立てトイレの設置状況は、「設置してあり使用した」が23.8%、「設置してあったが使用しなかった」が8.7%となっており、これらを併せた『設置していた』が32.5%となる。

性別、「簡易組み立てトイレ」の設置状況(問27×性別クロス集計)



性別で見ると、大きな差はみられない。

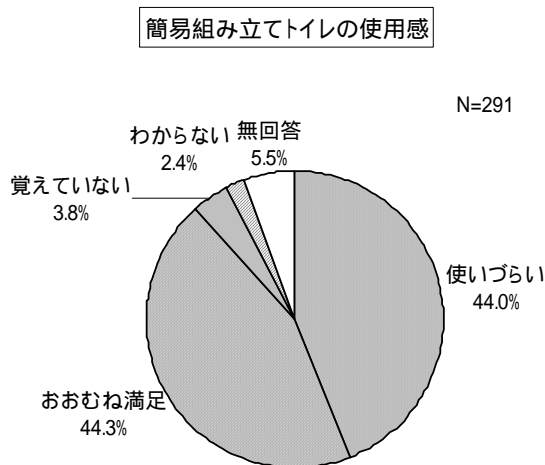
年齢別、「簡易組み立てトイレ」の設置状況（問 27 × 年齢別クロス集計）



年齢別でみると、「設置してあり使用した」が“60～64歳”で30.6%と多くなっている。

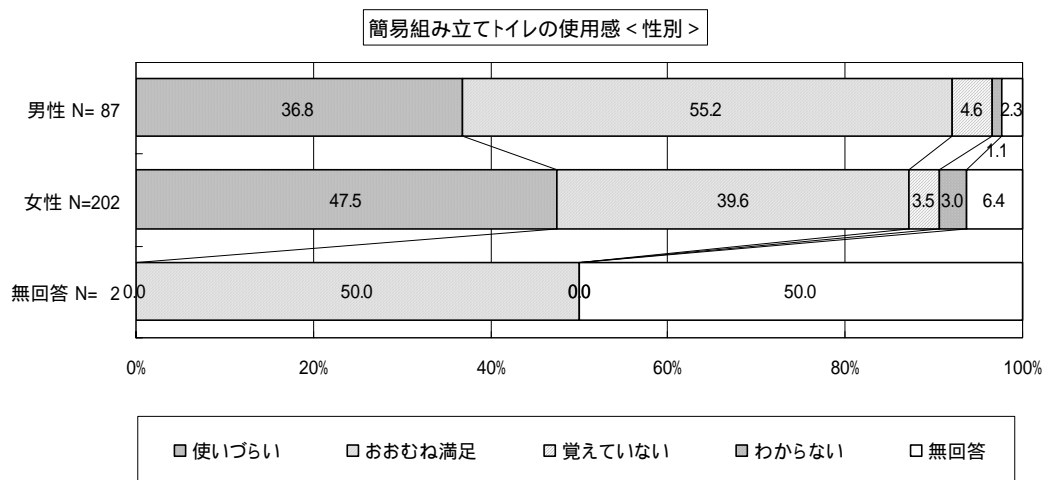
問 27 - 2 簡易組み立てトイレを使用して感じたことは何ですか。（単数回答）

簡易組み立てトイレを使用した方（291人）にお聞きしています（問27で、「設置してあり使用した」を選んだ方）



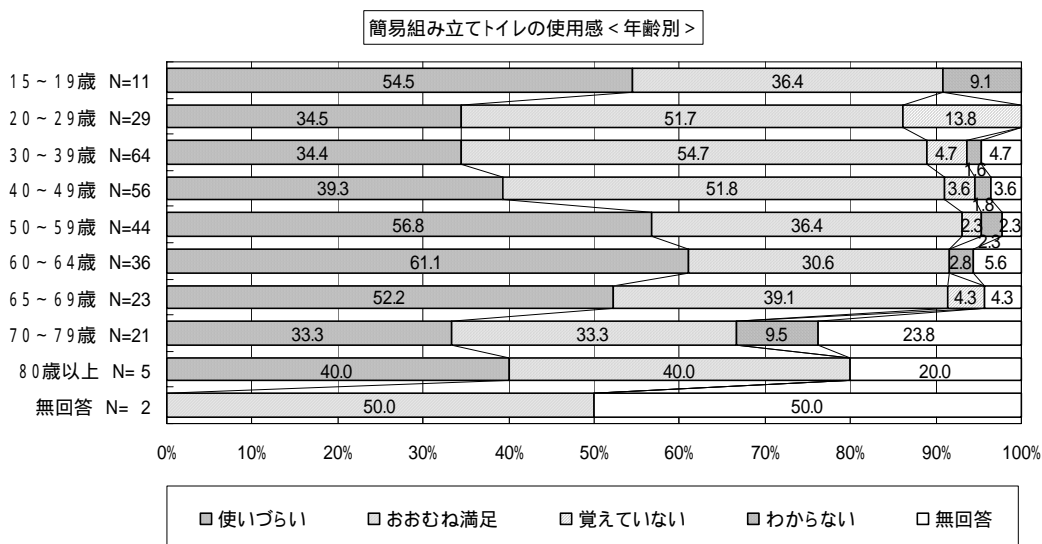
簡易組み立てトイレの使用感は、「使いづらい」(44.0%)と「おおむね満足」(44.3%)が同程度の割合となっている。

性別、簡易組み立てトイレの使用感（問 28 × 性別クロス集計）



性別でみると、男性が女性より「おおむね満足」と答えた割合が多い。

参考 年齢別、簡易組み立てトイレの使用感（問 28 × 年齢別クロス集計）



サンプル数が少ないため、参考値として参照されたい。

問 27 - 2 - 2 特に改善すべきと思う点は何ですか。(自由記述)

簡易組み立てトイレを使用した方(291人)にお聞きしています(問27で、「設置してあり使用した」を選んだ方)

簡易組み立てトイレを使用した方(291人)に、特に改善すべきと思う点を自由記述形式でたずねたところ、60人からの意見をいただいた。具体的な記述内容は以下のとおりである。

自由記述抜粋

1. トイレの構造について

- ・高齢者や身体に障がいがある方には、階段や手摺をつけるなどの改善が必要だと思う。
- ・段差や高さがあり、小さい子、身体に障がいがある方、高齢者には危険。
- ・いくら簡易とはいえ、きちんとしたカギを付けて欲しい。

2. トイレの照明について

- ・灯りがなく、夜間使用するのが大変だった。
- ・照明がなく、夜間はドアを閉めると完全な暗闇になるため不便だった。
- ・中が見えないところに、あかり取りの窓があるとよい。

3. 衛生面について

- ・多くの人を使用するので、かなり汚物でいっぱいでした。
- ・においがきつかったので、消臭効果の機能をつけて欲しい。
- ・トイレットペーパーを持っていなく不自由をした。

4. プライバシーについて

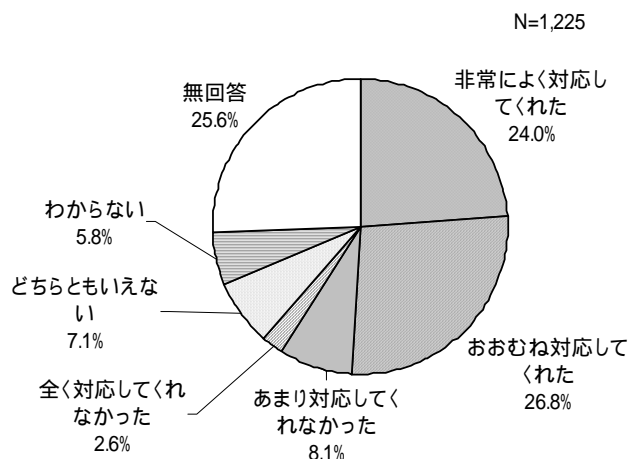
- ・入口をカーテン式ではなく、スライド式にしてほしい。
- ・男女別になるとなお良いと思う。
- ・ドアをもっときっちり閉めたい。使用中に他人に開けられた。

4 避難所の生活 避難所の運営等

問 28 避難所での運営者側の対応について、感じたことはどれですか。(単数回答)

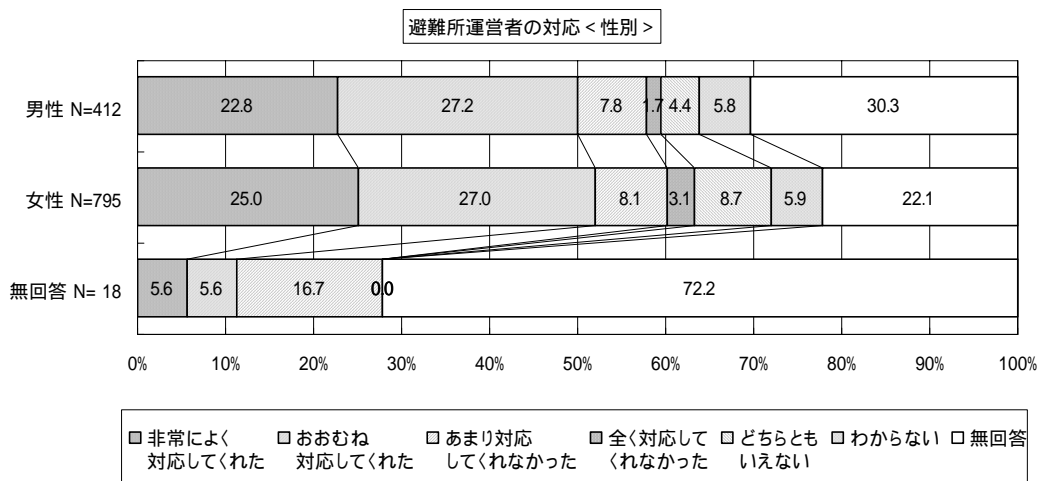
避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でもつけた方)

避難所運営者の対応



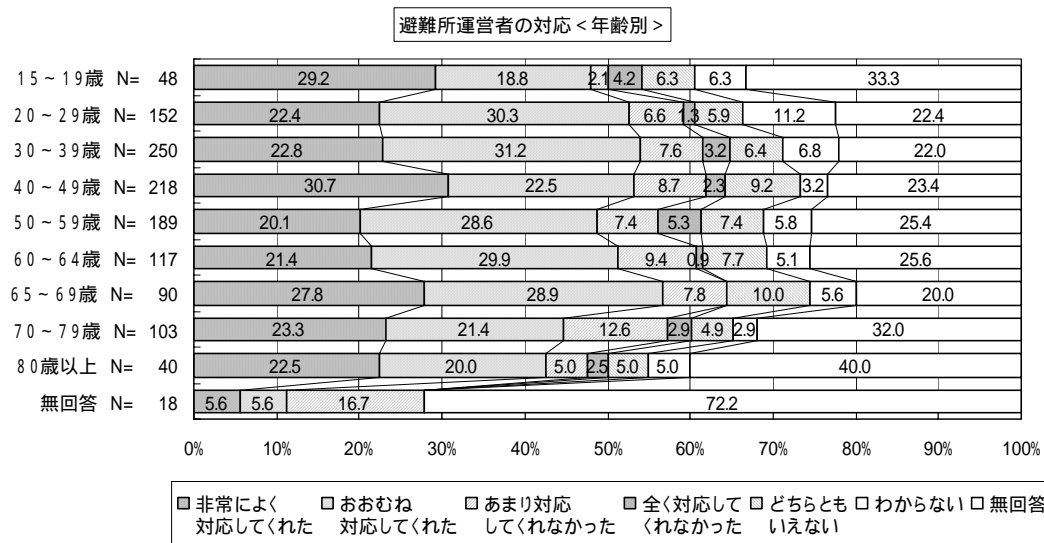
避難所運営者の対応については、「非常によく対応してくれた」が24.0%、「おおむね対応してくれた」が26.8%となっており、これらを併せた『よく対応してくれた』が50.8%と半数を占める。

性別、避難所運営者の対応(問28×性別クロス集計)



性別で見ると、大きな差はみられない。

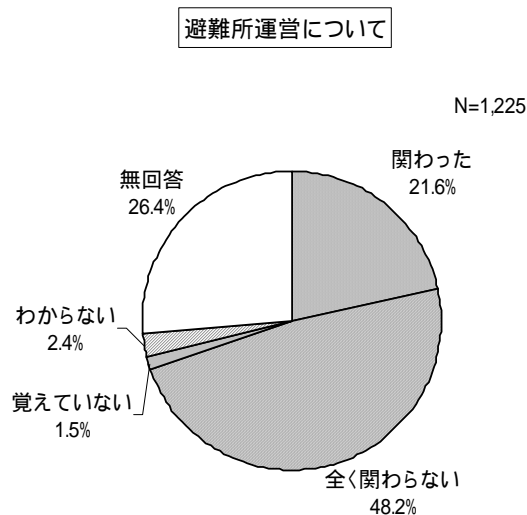
年齢別、避難所運営者の対応（問 28 × 年齢別クロス集計）



年齢別でみると、特徴的な傾向はみられない。

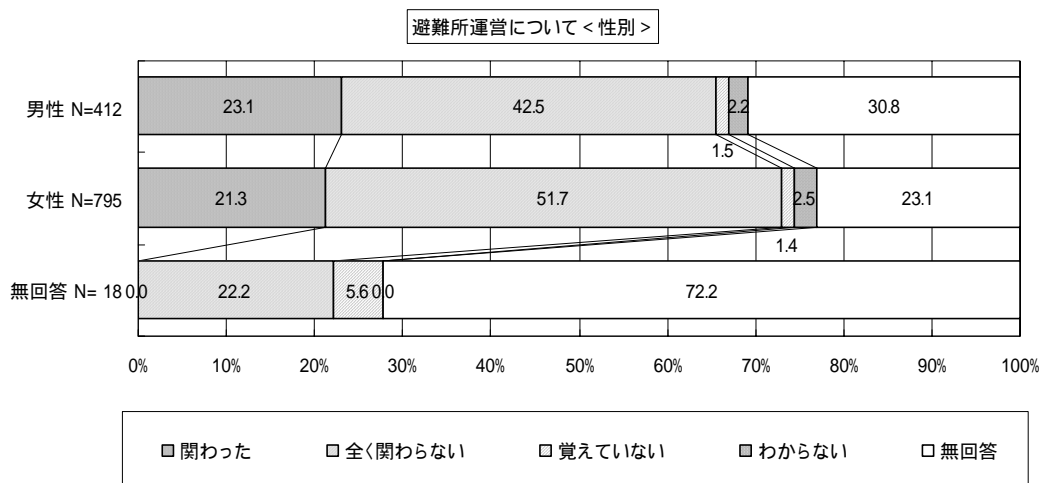
問 29 あなたは何らかの形で避難所運営に関わりましたか。（単数回答）

避難所生活経験がある方（1,225 人）にお聞きしています（問9で、「避難施設」に1日でも をつけた方）



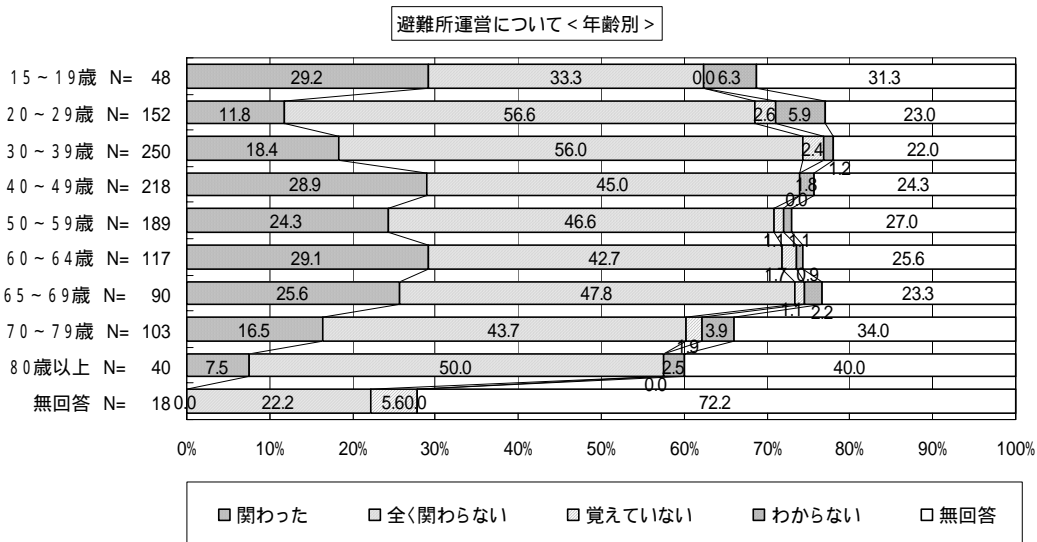
避難所の運営について、「関わった」人は21.6%と2割台にとどまっている。一方、「全く関わらない」人が48.2%と半数近くを占めている。

性別、避難所運営について（問 29 × 性別クロス集計）



性別で見ると、「全く関わらない」は女性が男性より多くなっている。

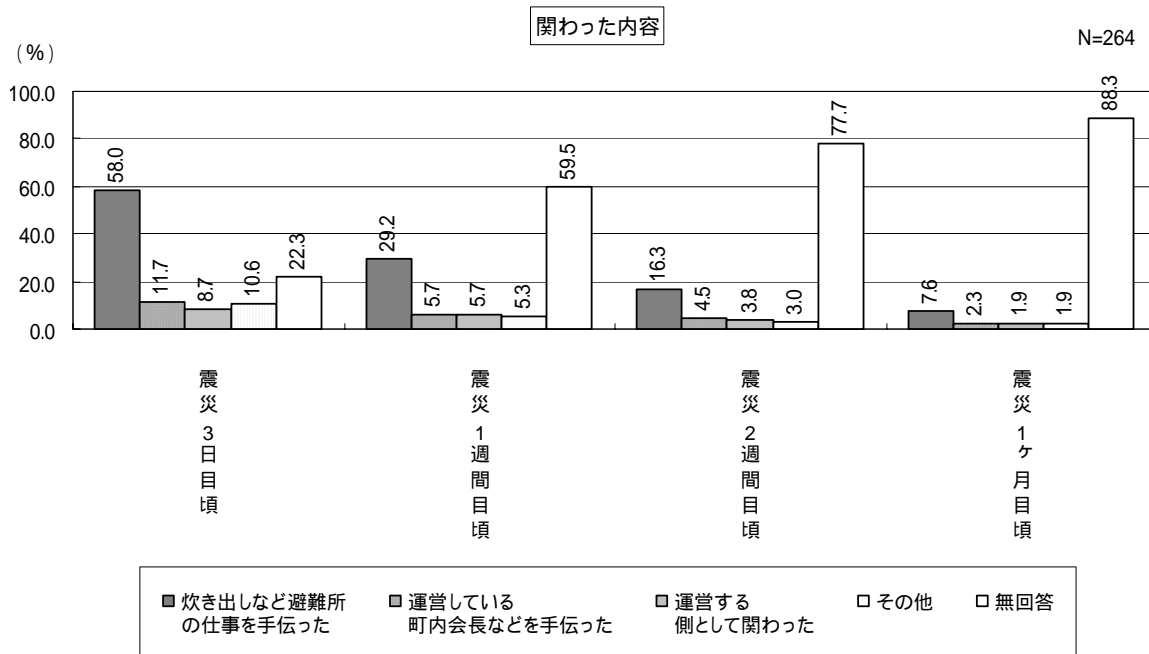
年齢別、避難所運営について（問 29 × 年齢別クロス集計）



年齢別で見ると、「関わった」が20～39歳、70歳以上で、他の年齢帯より少なくなっている。

問 29 - 2 いつ頃、どんなことに関わりましたか。(複数回答)

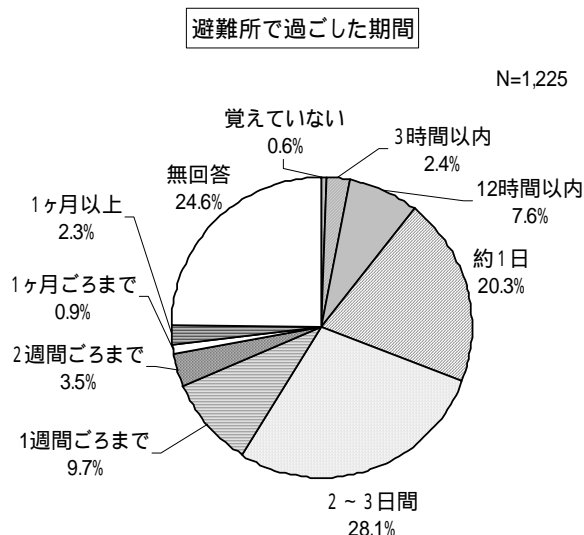
避難所運営に関わった方(264人)にお聞きしています(問29で、「関わった」を選んだ方)



関わった内容は、どの時期も「炊き出しなど避難所の仕事を手伝った」が最も多く、“震災3日目頃”では58.0%となっており、半数を超えている。

問 30 あなたは避難所でどの位の期間を過ごしましたか。(単数回答)

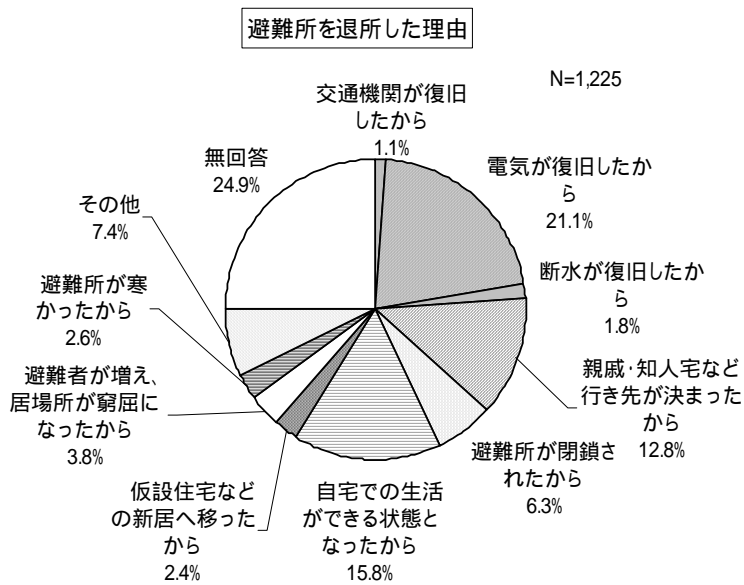
避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でもつけた方)



避難所で過ごした期間は、「2~3日間」が28.1%と最も多くなっている。なお、避難してから3日間までの滞在と答えた人の合計は58.4%となっている。

問 31 あなたが避難所を出られた理由はどれですか。(単数回答)

避難所生活経験がある方(1,225人)にお聞きしています(問9で、「避難施設」に1日でも をつけた方)



避難所を退所した理由は、「電気が復旧したから」が21.1%と最も多く、次に「自宅で生活できる状態となったから」が15.8%で続いている。

問 32 仙台市では、「避難所」の運営を町内会など地域の方々と協力して行うことと
していましたが、今回の震災時には行政のマンパワーが不足したこともあり、
市民の皆様にご迷惑をおかけしております。

今後、「避難所の運営」は、どこが主体となり行われるべきと思われますか。
あなたが思うことを記入してください。(自由記述)

全員の方(7,565人)にお聞きしています

全員の方(1,225人)に自由記述形式でたずねたところ、340人から意見をいただいた。具体的な
記述内容は以下のとおりである。

自由記述抜粋

1. 行政主体による避難所の運営について

- ・区役所が主体となり、市民センター、コミュニティ、小・中・高との連携をとり、町内会との協力を得るようにする。
- ・行政でやることは限られていると思うので、地域、町内会とのつながりをはっきり明記しておくべきだと思う。
- ・避難所にいる職員の方々が中心になるとは思いますが、その方々と町内会との連携が必要だと思います。
- ・行政が主体となる必要があるが、その地域の方々と会議などを密に行い、具体的な運営組織を構築していくことが必要だと思います。

2. 町内会等の主体による避難所の運営について

- ・町内会が行うべきだと思います。行政では地域の知識が不足していると思います。
- ・基本的には町内会でやるのが良いが、その他に市職員が管理統括をすべきである。
- ・各地域内で、リーダーシップを取れる人材を行政側で常に把握していた方が、情報を伝えやすいし、混らんを未然に防げると思う。
- ・絶対地域の人でやるべき。自分の身は自分で守る。行政に頼りっきりで、今のままでは今回と同じで後手後手になると思う。

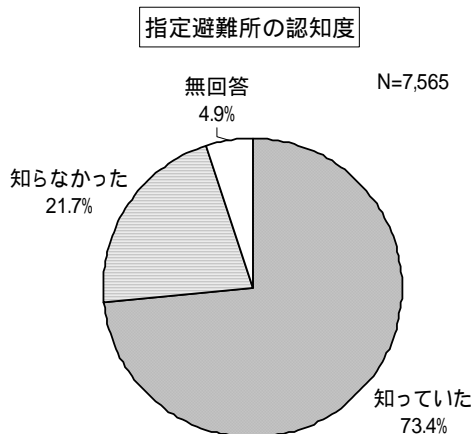
3. その他

- ・他の市町村と連携して、何かあったときに協力し合うしくみ作りが必要かと思う。運営する側も被害にあっていると、思うように進まないと思う。
- ・健康な人はだれであれ協力すべきだと思います。若い人には力仕事、食料配分は主婦など、ニーズに応じてニーズの必要な人を優先に、独自に判断する事が緊急時は大切だと思います。公平性にとらわれずに、必要な人に必要なものを。
- ・今回は全員が被災者ですので、運営そのものが困難だったと思います。

5 その他 指定避難所

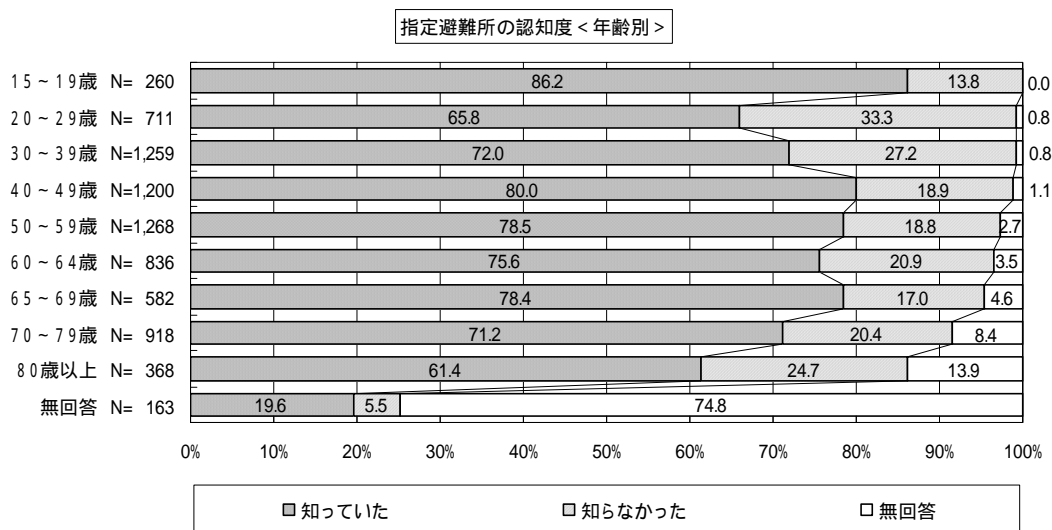
問 33 あなたはお住まいの地域にある指定避難所を知っていましたか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



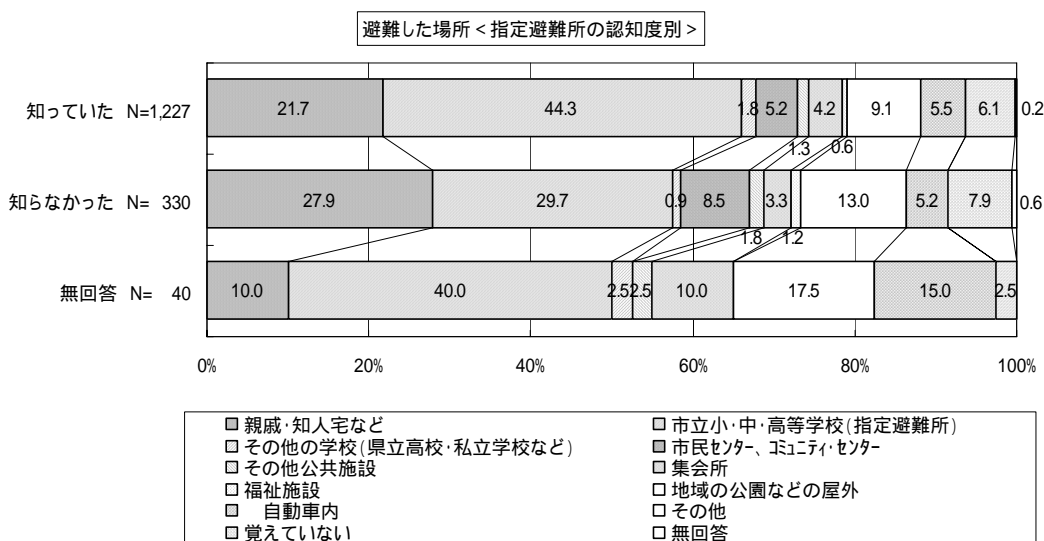
指定避難所の認知度は、「知っていた」が73.4%、一方、「知らなかった」が21.7%となっている。

年齢別、指定避難所の認知度(問33×年齢別クロス集計)



年齢別でみると、「知っていた」が20~29歳、80歳以上で6割台と、他の年齢帯より少なくなっている。

指定避難所の認知度別、避難した場所（問 6-2 × 問 33 クロス集計）

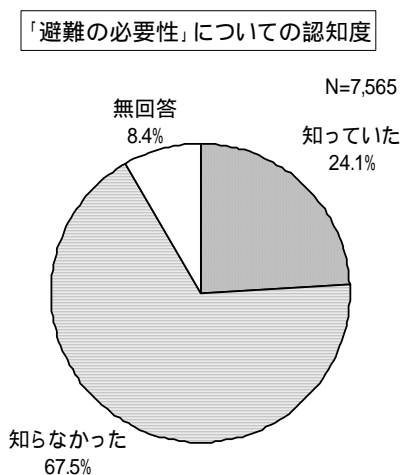


指定避難所の認知度別に避難した場所をみると、「知っていた」人は「知らなかった」人より「市立小・中・高等学校（指定避難所）」に避難した割合が多い。

5 その他 津波警戒区域

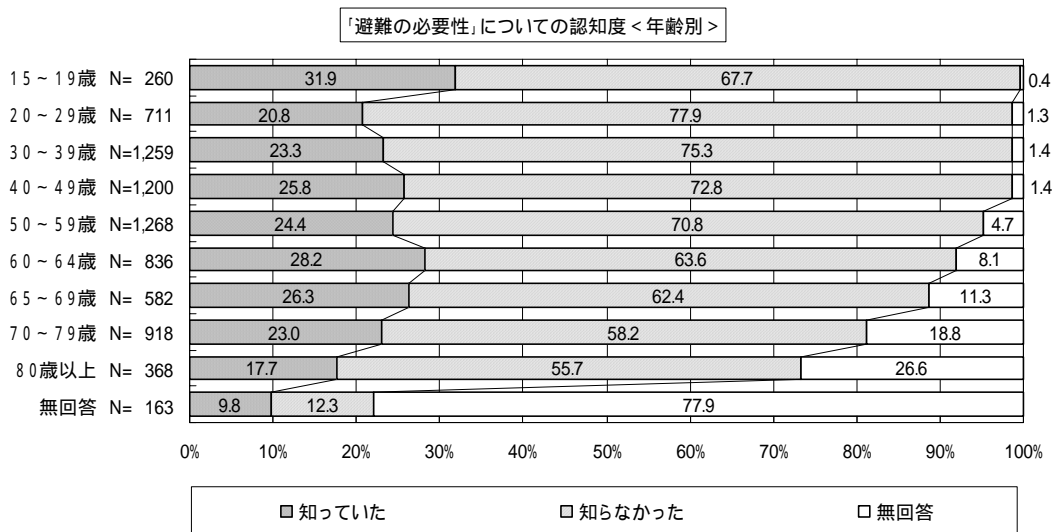
問 34 仙台市では、沿岸部の地域を「津波警戒区域」として設定し、津波・大津波警報が発表された時の「避難の必要性」を呼びかけてきましたが、あなたは知っていましたか。（単数回答）

全員の方（7,565 人）にお聞きしています



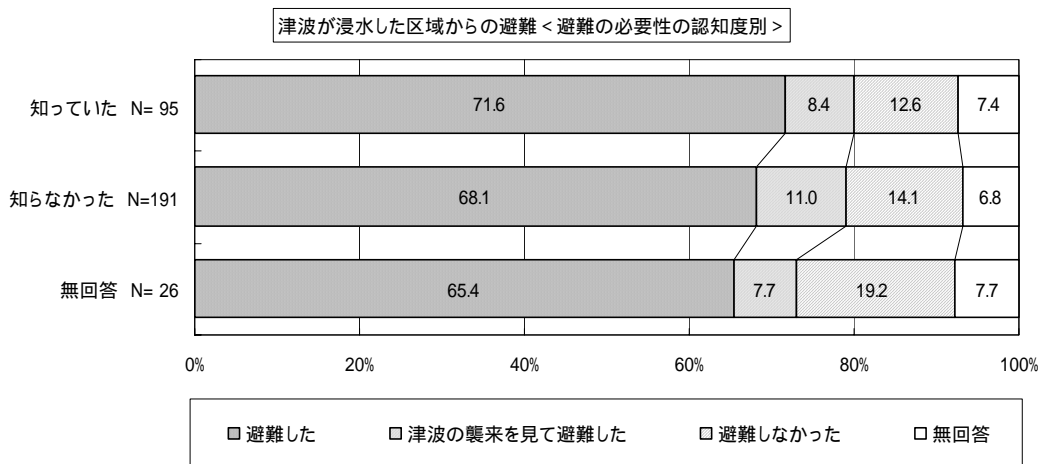
避難の必要性については、「知らなかった」が67.5%で3分の2を占めている。

年齢別、「避難の必要性」についての認知度（問 34 × 年齢別クロス集計）



年齢別でみると、「知っていた」が15～19歳で31.9%と最も多く、20～29歳では20.8%と10ポイント以上の差がみられる。

「避難の必要性」についての認知度別、津波が浸水した区域からの避難
(問 8 × 問 34 クロス集計)

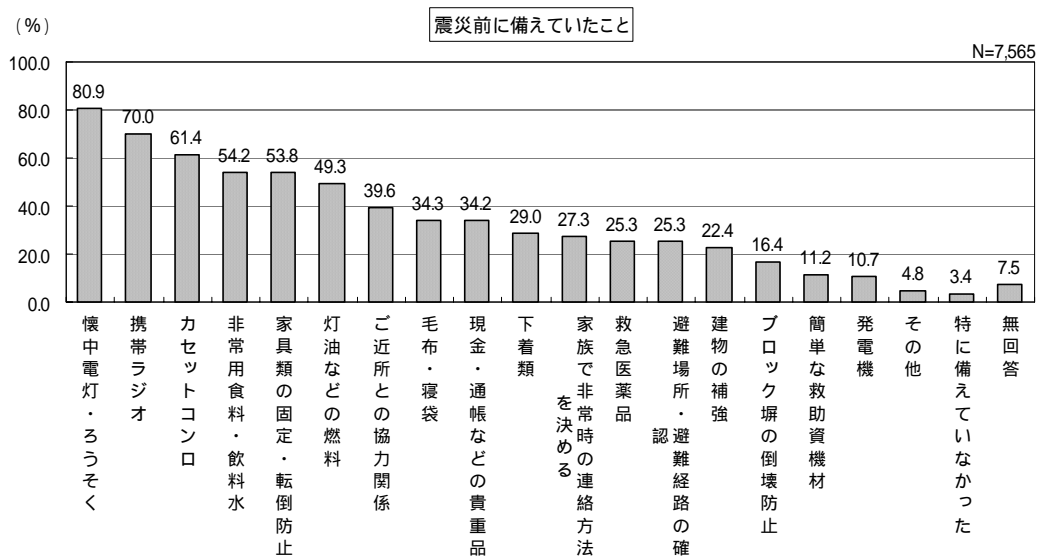


津波が浸水した区域からの避難を、避難の必要性の認知度別でみると、大きな差はみられない。

5 その他 震災などに対する備え

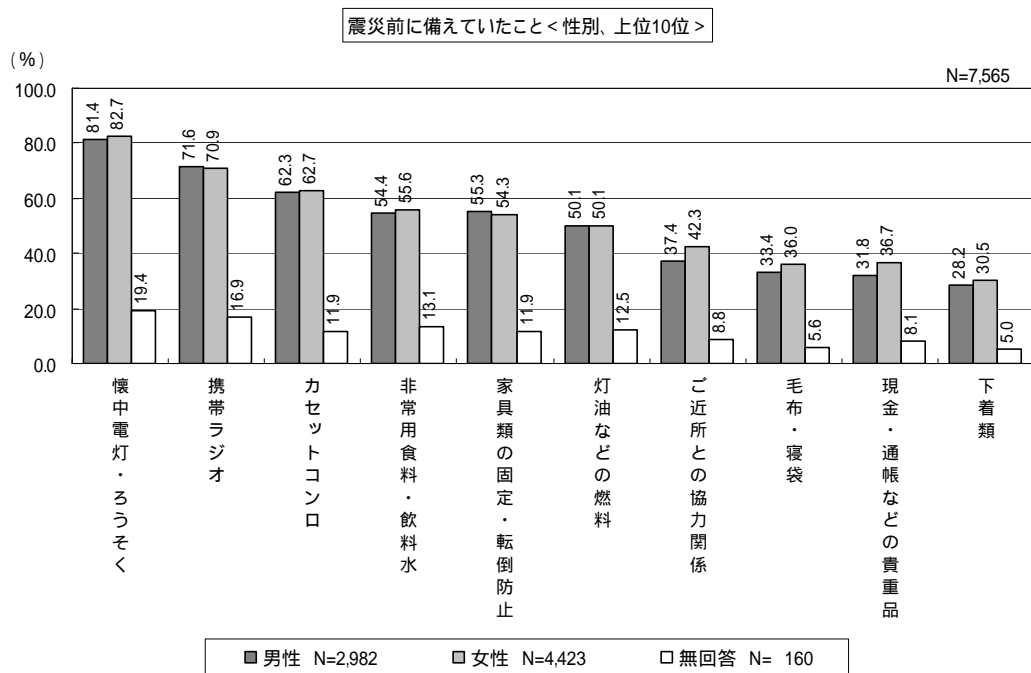
問 35 あなたの家庭で、震災以前に備えていたことやものは、どれですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



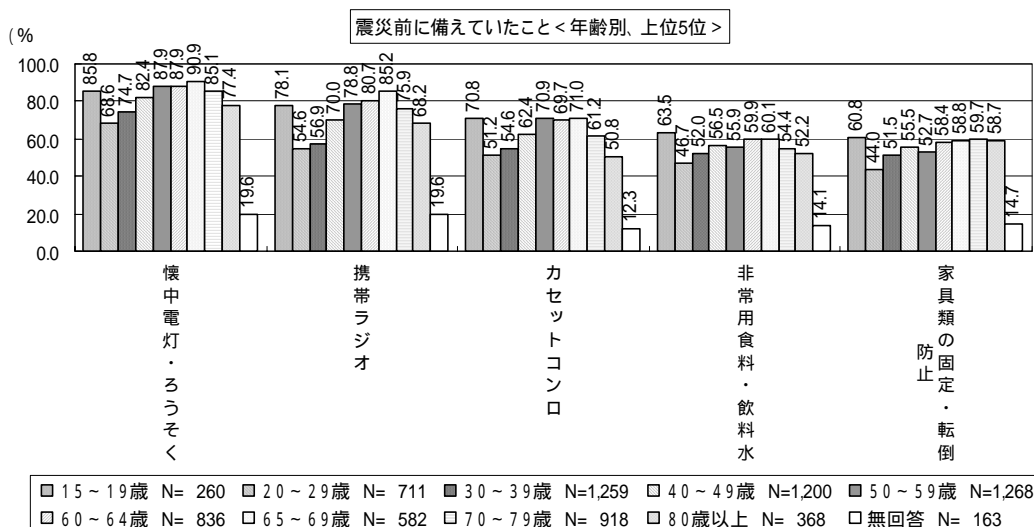
震災前に備えていたものは、第1位「懐中電灯・ろうそく」(80.9%)、第2位「携帯ラジオ」(70.0%)、第3位「カセットコンロ」(61.4%)の順に多くなっている。

性別、震災前に備えていたこと(問35×性別クロス集計)



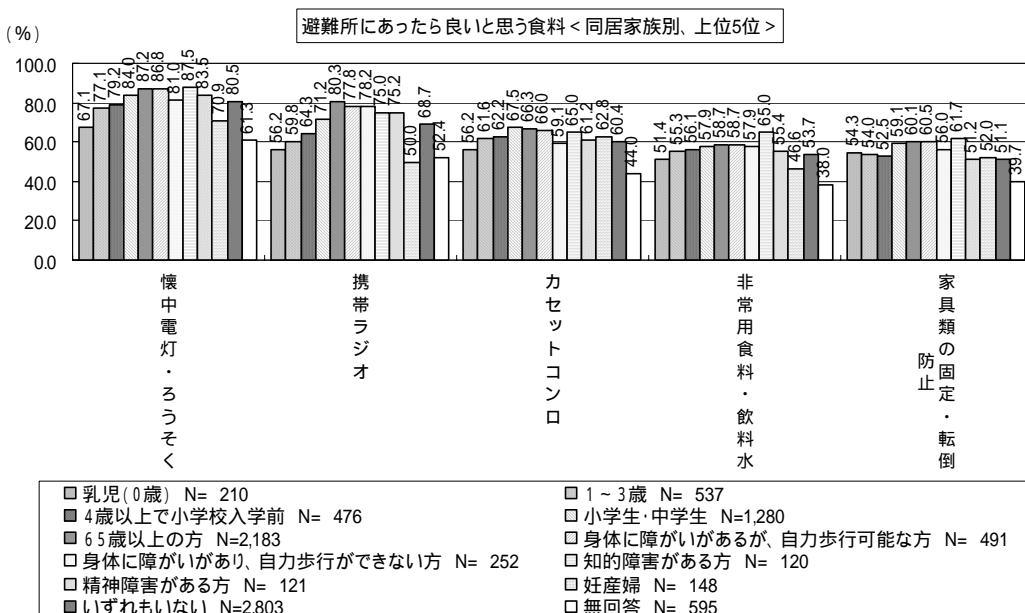
性別で見ると、大きな差はみられない。

年齢別、震災前に備えていたこと（問 35 × 年齢別クロス集計、上位 5 位）



年齢別でみると、全般的に20~39歳で、他の年齢帯より備えていたものが少ない傾向がみられる。

同居家族別、震災前に備えていたこと（問 35 × 同居家族別クロス集計（複数回答）、上位 5 位）

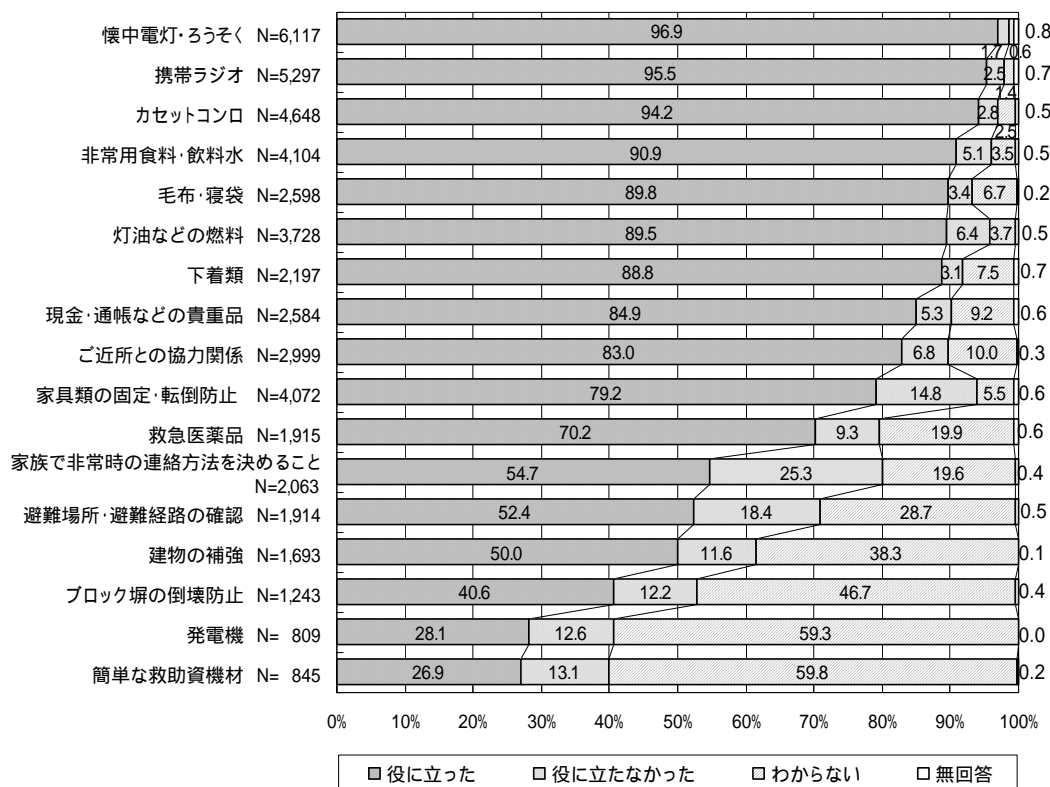


同居家族別でみると、「非常用食品・飲料水」は「妊産婦」がいる世帯で多くなっている。

問 35 - 2 行っていた備えについて役に立ったかどうかをお答えください。(単数回答)

それぞれ備えていたもの別にお聞きしています

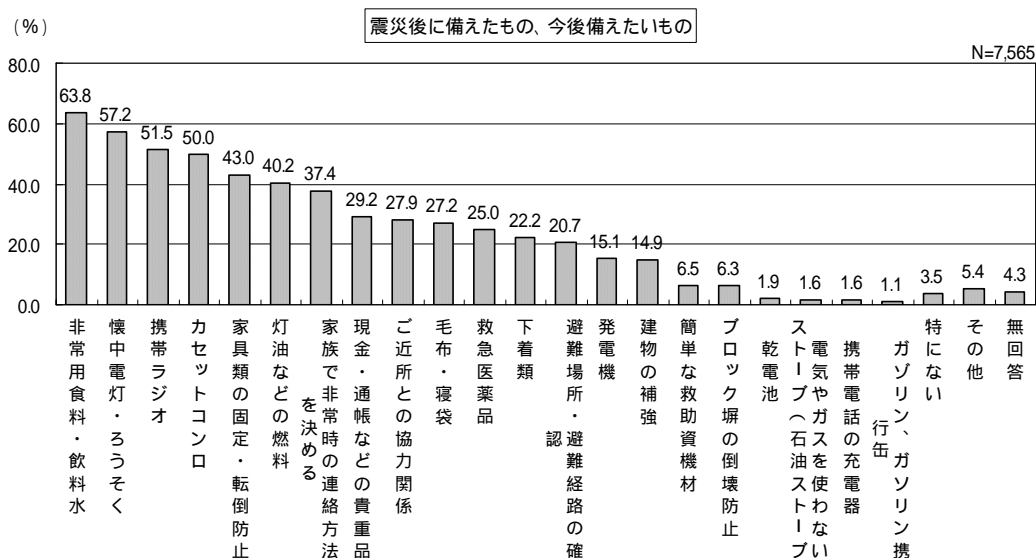
行っていた備えの役立ち度



行っていた備えが役に立ったかどうかについて、「懐中電灯・ろうそく」(96.9%)、「携帯ラジオ」(95.5%)、「カセットコンロ」(94.2%)、「非常用食料・飲料水」(90.9%)はいずれも9割以上の人が「役に立った」と答えている。
一方、「役に立たなかった」は「家族で非常時の連絡方法を定めること」が25.3%と最も多い。

問 36 あなたの家庭で、震災後に備えたものや、今後備えたいと思っているものはどれですか。(複数回答)

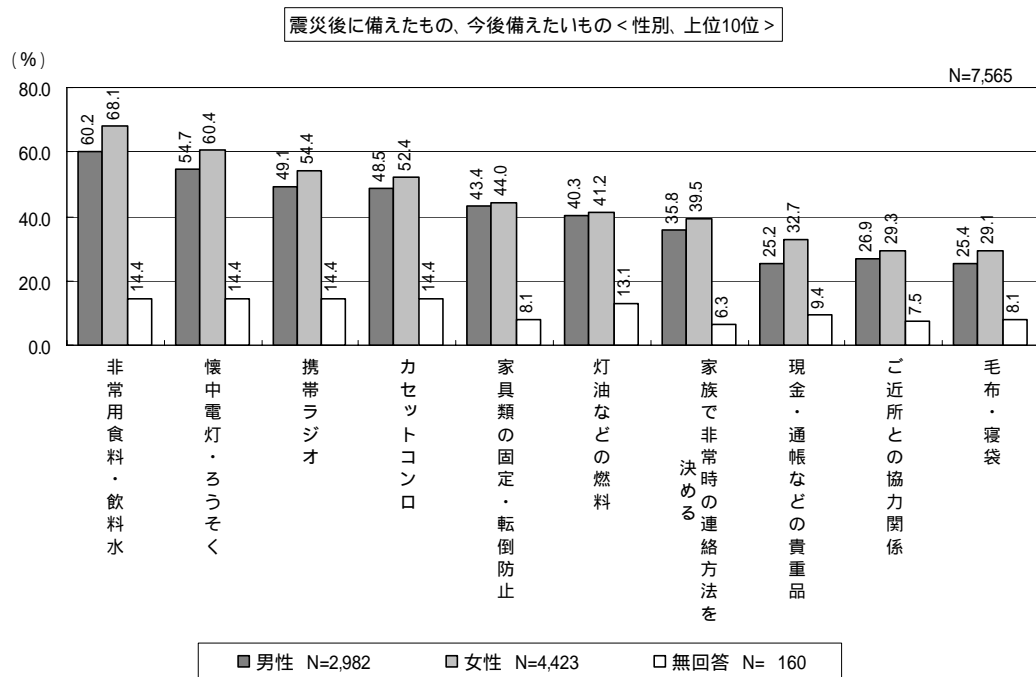
全員の方(7,565人)にお聞きしています



が付いている項目は、「その他」の中から特に多かった項目を抜粋

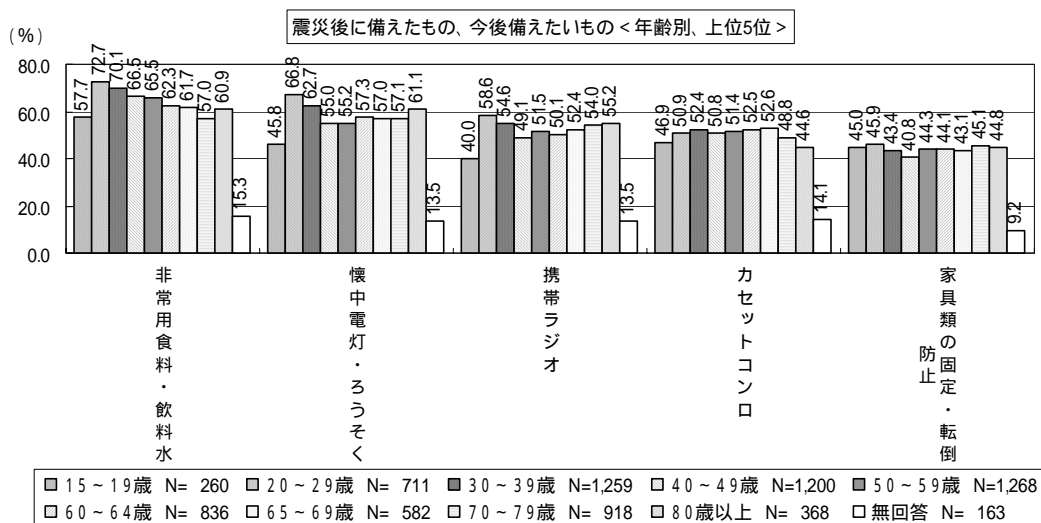
震災後に備えたもの、今後備えたいものは、「非常用食料・飲料水」が63.8%と最も多く、次いで「懐中電灯・ろうそく」が57.2%で続いている。

性別、震災後に備えたもの、今後備えたいもの(問36×性別クロス集計)



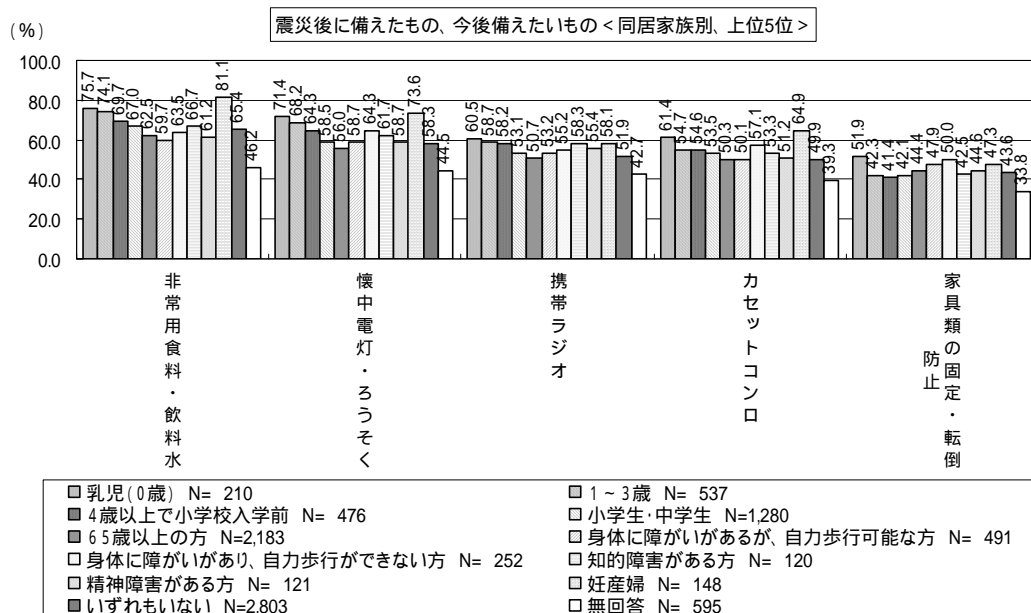
性別で見ると、上位10位、全ての項目で女性が男性を上回っている。

年齢別、震災後に備えたもの、今後備えたいもの（問 36 × 年齢別クロス集計）



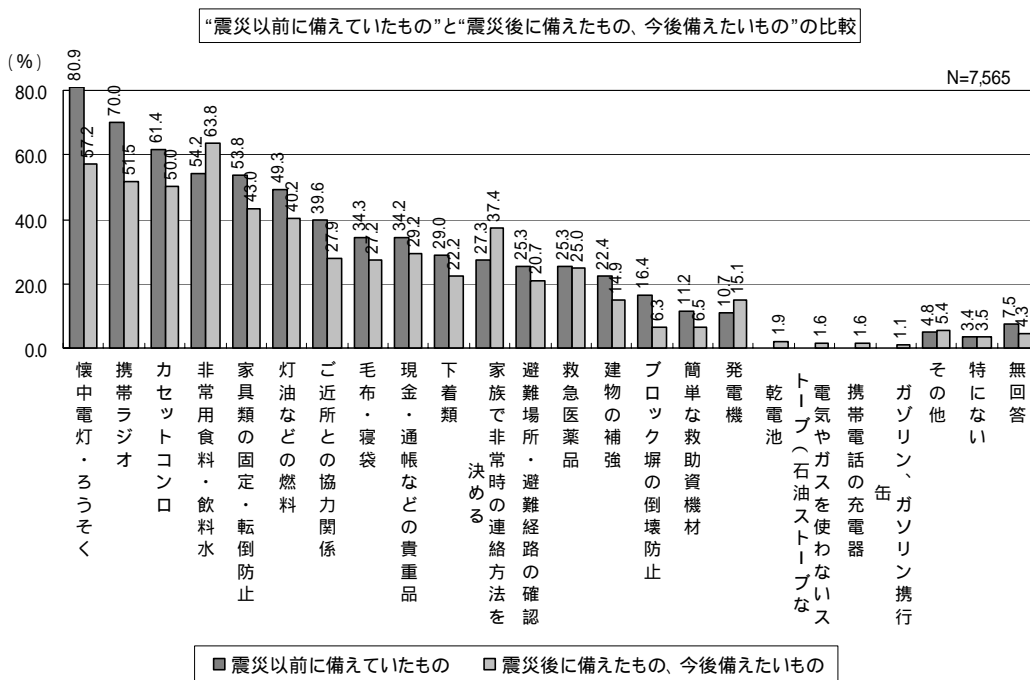
年齢別でみると、大きな特徴はみられない。

同居家族別、震災後に備えたもの、今後備えたいもの（問 36 × 同居家族（複数回答）別クロス集計、上位 5 位）



同居家族別でみると、「非常用食料・飲料水」が「妊産婦」で多くなっている。

“震災以前に備えていたもの”と“震災後に備えたもの、今後備えたいもの”の比較
 (問35と問36の比較)

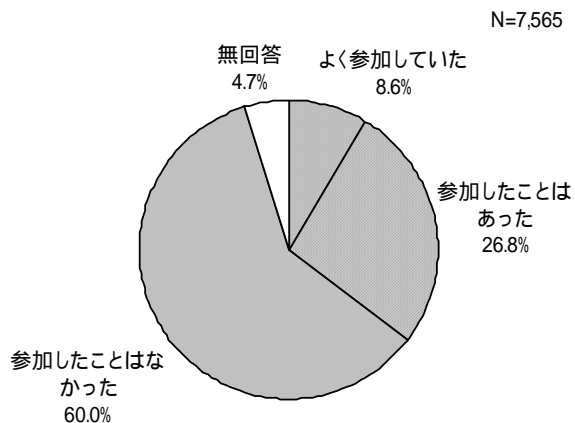


震災前に備えていたこと(問35)に比べて増加した項目は「非常用食料・飲料水」、「家庭で非常時の連絡方法を定める」、「発電機」となっている。

問 37 あなたは震災前に、町内会が行う防災訓練や行政などが行う講習会に参加したことがありますか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています

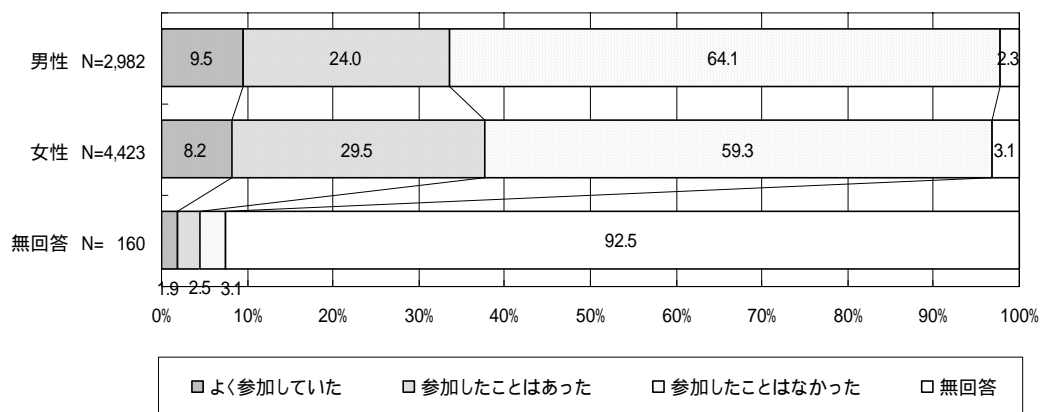
防災訓練や講習会への参加経験



防災訓練や講習会への参加経験は、「よく参加していた」(8.6%)と「参加したことはあった」(26.8%)を併せた『参加経験がある』が35.4%となっている。

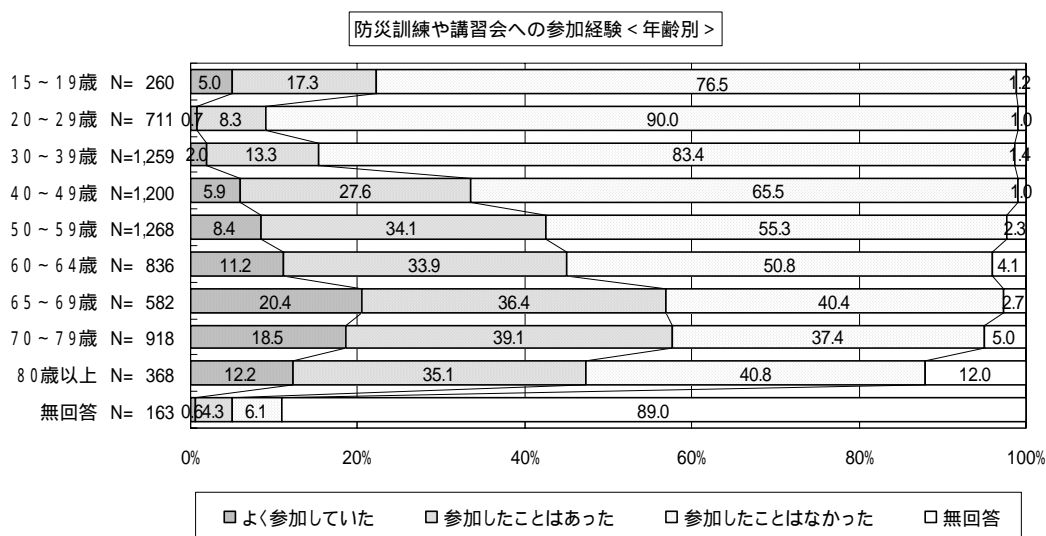
性別、防災訓練や講習会への参加経験(問37×性別クロス集計)

防災訓練や講習会への参加経験<性別>



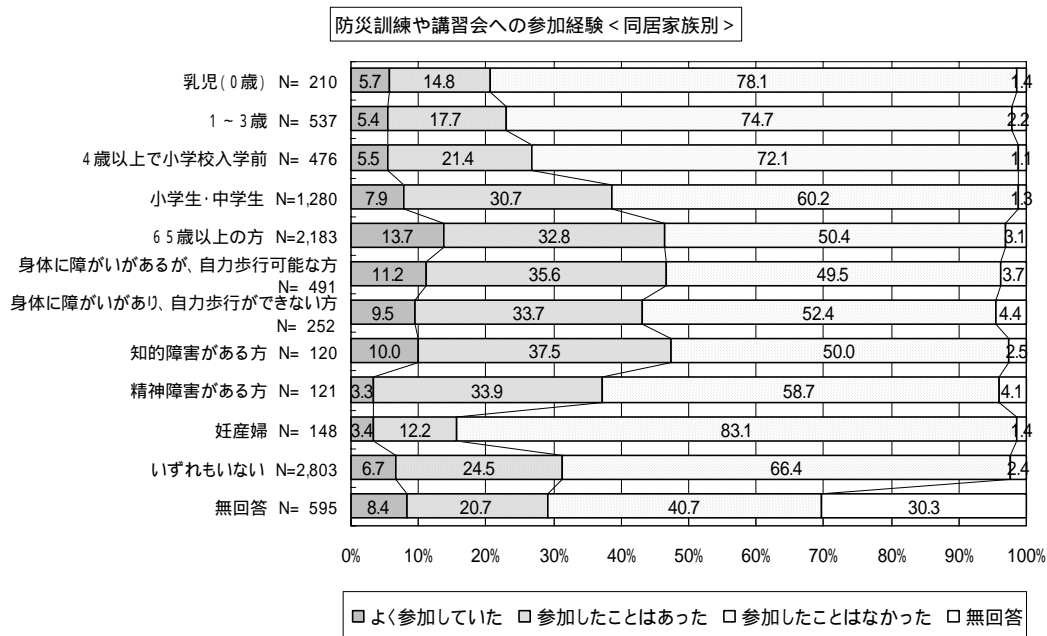
性別で見ると、大きな差はみられない。

年齢別、防災訓練や講習会への参加経験（問 37 × 年齢別クロス集計）



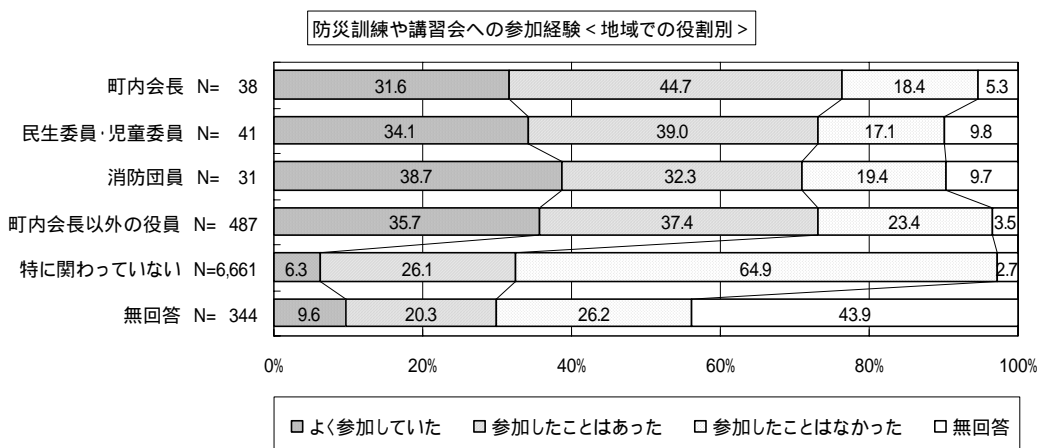
年齢別でみると、概ね年齢が高くなるにつれ、参加経験が多くなる傾向がみられる。

同居家族別、防災訓練や講習会への参加経験（問 37 × 同居家族（複数回答）別クロス集計、上位 5 位）



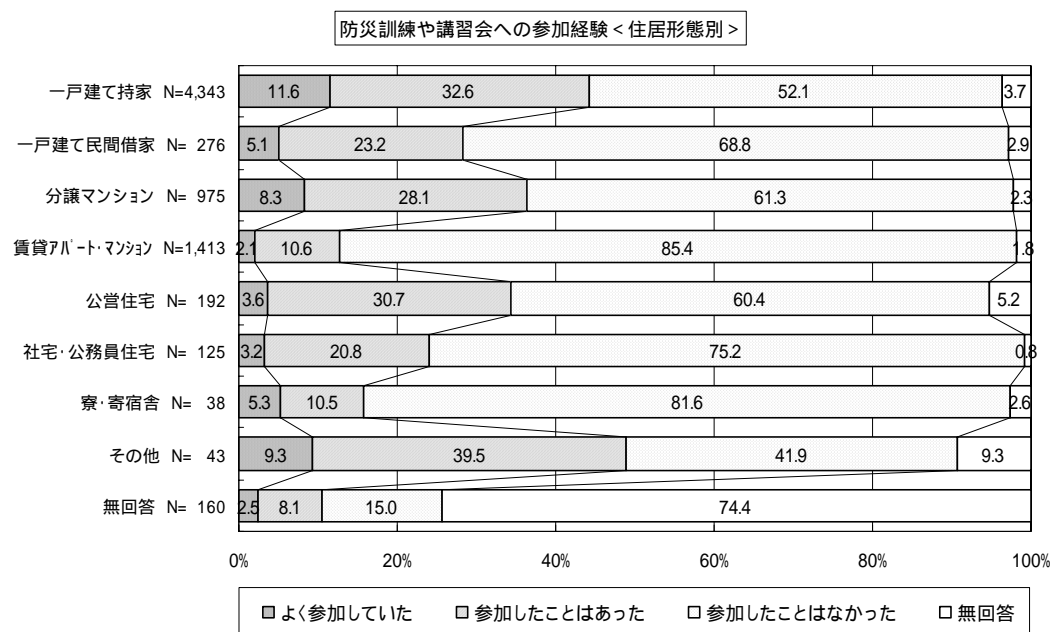
同居家族別でみると、何らかの障がいがある方がいる世帯の参加経験が多くなっている。

地域での役割別、防災訓練や講習会への参加経験（問 37 × 活動別クロス集計）



活動での役割別で見ると、何らかの活動に関わっている方は、特に関わっていない方と比べ、参加経験が多くなっている。

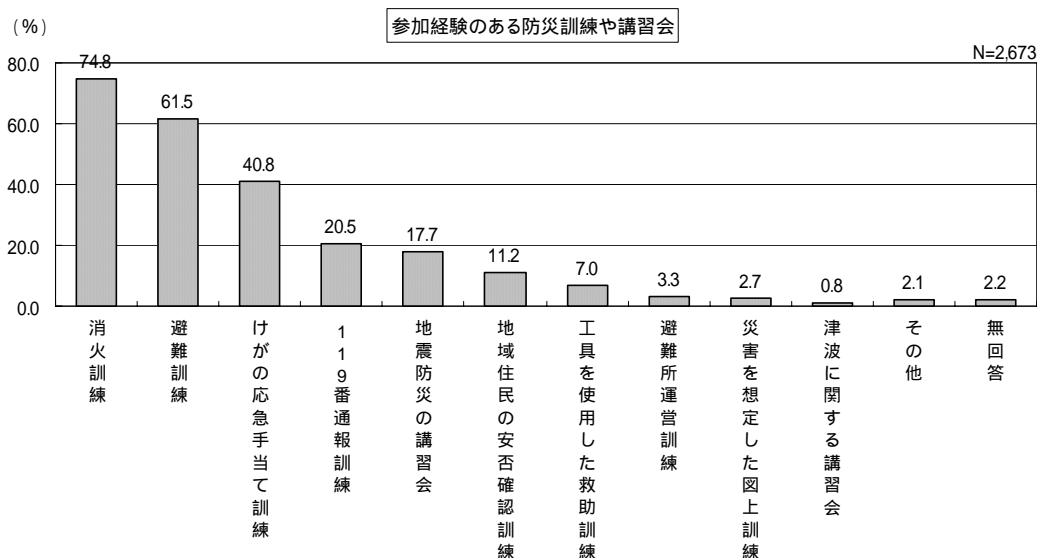
住居形態別、防災訓練や講習会への参加経験（問 37 × 住居形態別クロス集計）



住居形態別で見ると、“一戸建て持ち家”の方の参加経験が多くなっている。一方、“賃貸アパート・マンション”、“寮・寄宿舎”にお住まいの方の参加経験が少ない。

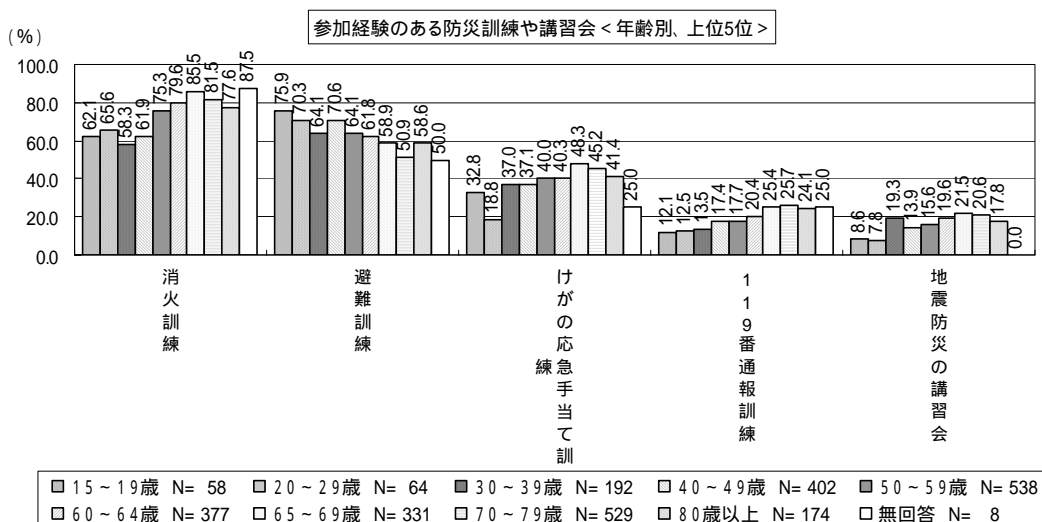
問 37 - 2 あなたが参加したことのある訓練や講習会はどれですか。(複数回答)

訓練や講習会の参加経験がある方(2,673人)にお聞きしています(問37で、「よく参加していた」「参加したことはあった」を選んだ方)



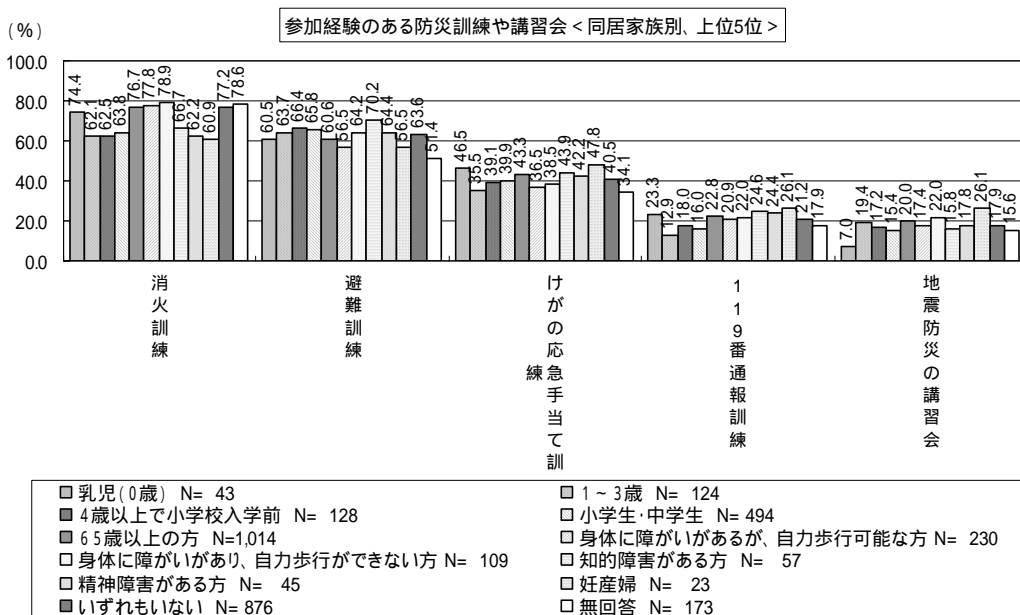
参加経験のある防災訓練や講習会は、「消火訓練」が74.8%と最も多く、次に「避難訓練」が61.5%で続いている。

年齢別、参加経験のある防災訓練や講習会 (問37-2 × 年齢別クロス集計)



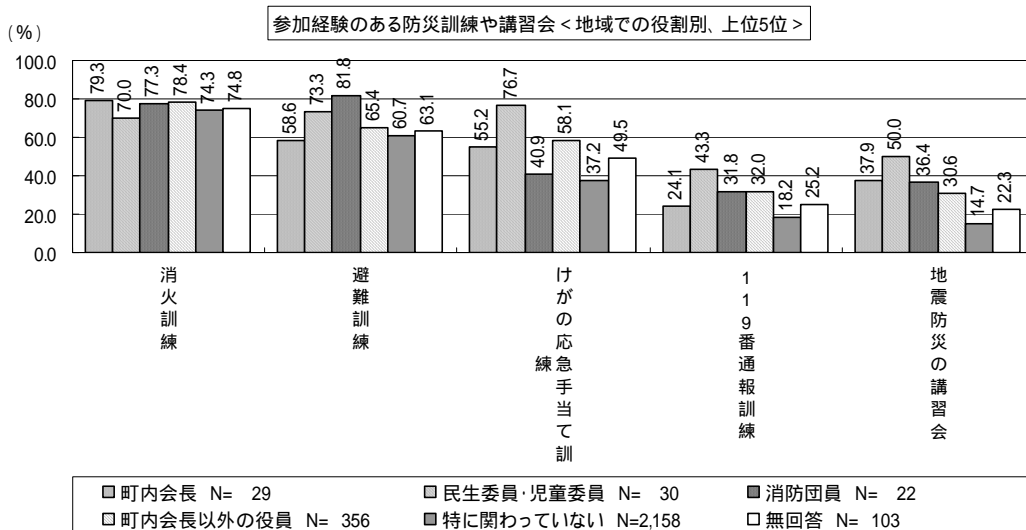
年齢別でみると、「消火訓練」、「けがの応急手当て訓練」、「119番通報訓練」は、概ね年齢が高くなるにつれ、多くなる傾向がみられる。一方、「避難訓練」は、概ね年齢が低くなるにつれ多くなっている。

同居家族別、参加経験のある防災訓練や講習会（問 37-2 × 同居家族（複数回答）別
クロス集計、上位 5 位）



同居家族別でみると、特徴的な傾向はみられない。

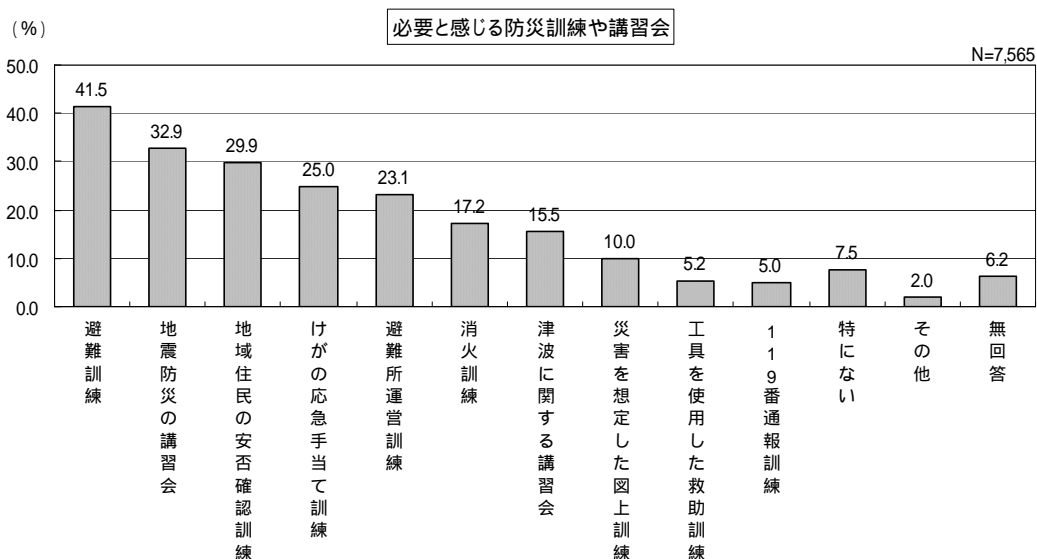
地域での役割別、参加経験のある防災訓練や講習会（問 37-2 × 活動別クロス集計）



地域での役割別でみると、「けがの応急手当訓練」、「119番通報訓練」、「地震防災の講習会」は「民生委員・児童委員」で多くなっている。

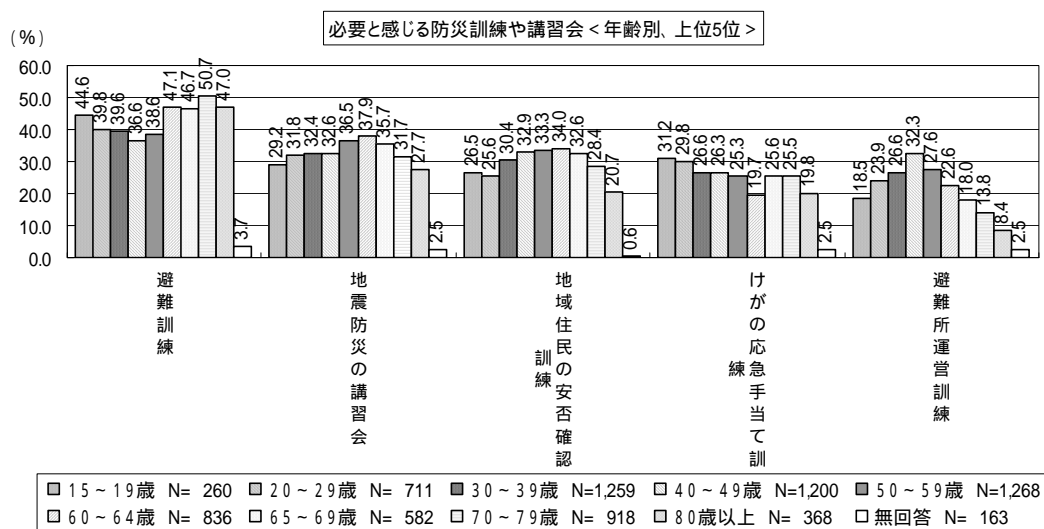
問 37 - 3 今回の震災を経験して、必要と感じる訓練や講習会はどれですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



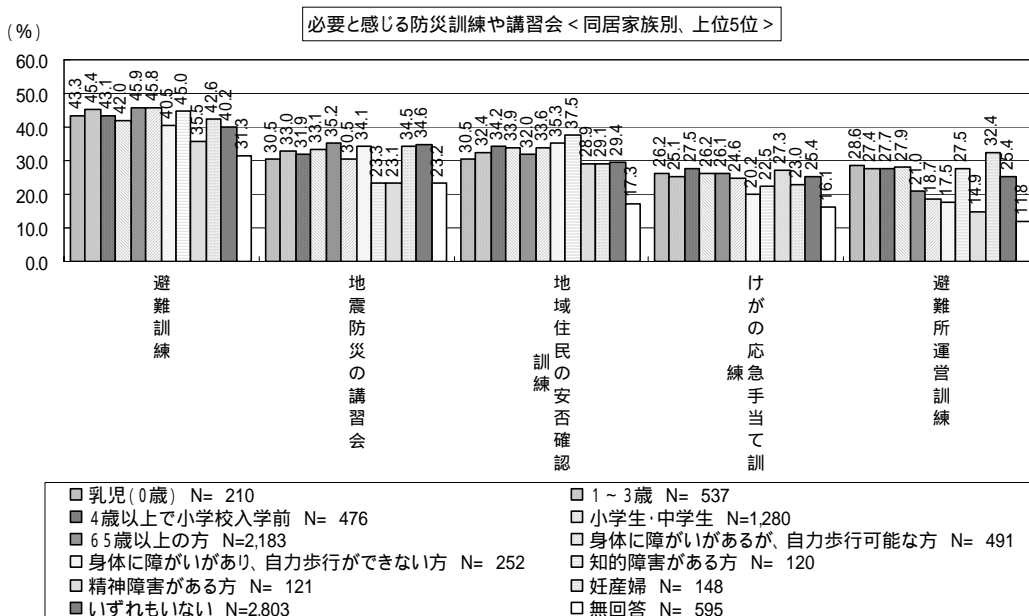
必要と感じる防災訓練や講習会は、「避難訓練」が 41.5%と最も多く、次に「地震防災の講習会」(32.9%)、「地域住民の安否確認訓練」(29.9%)が3割前後で続いている。

年齢別、必要と感じる防災訓練や講習会 (問 37-3 × 年齢別クロス集計)



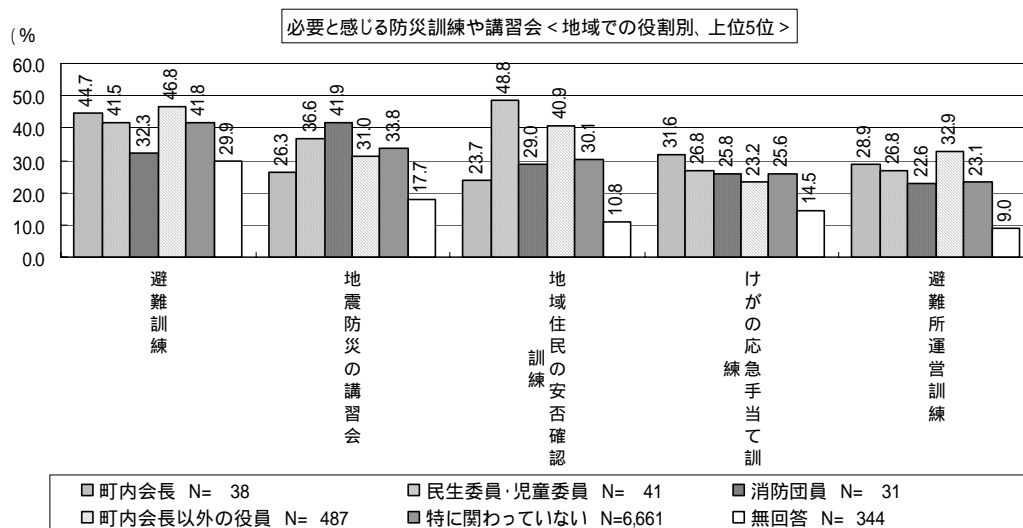
年齢別でみると、「避難所運営訓練」は、「40~49歳」を中心に多くなっている。

同居家族別、必要と感じる防災訓練や講習会（問 37-3 × 同居家族（複数回答）別
クロス集計、上位 5 位）



同居家族別でみると、特徴的な傾向はみられない。

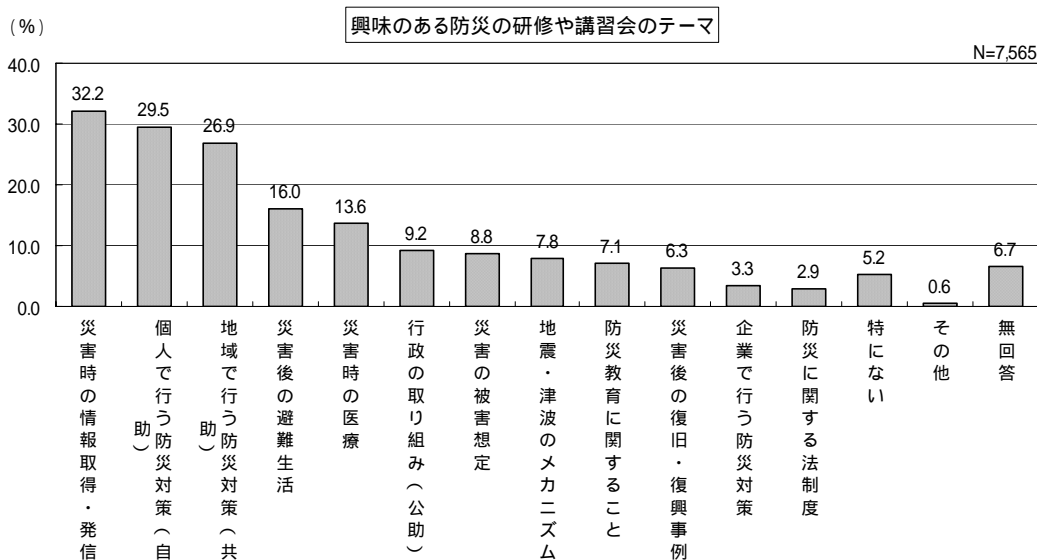
地域での役割別、必要と感じる防災訓練や講習会（問 37-3 × 活動別クロス集計）



地域での役割別にみると、「地域住民の安否確認訓練」は、「民生委員・児童委員」で多くなっている。

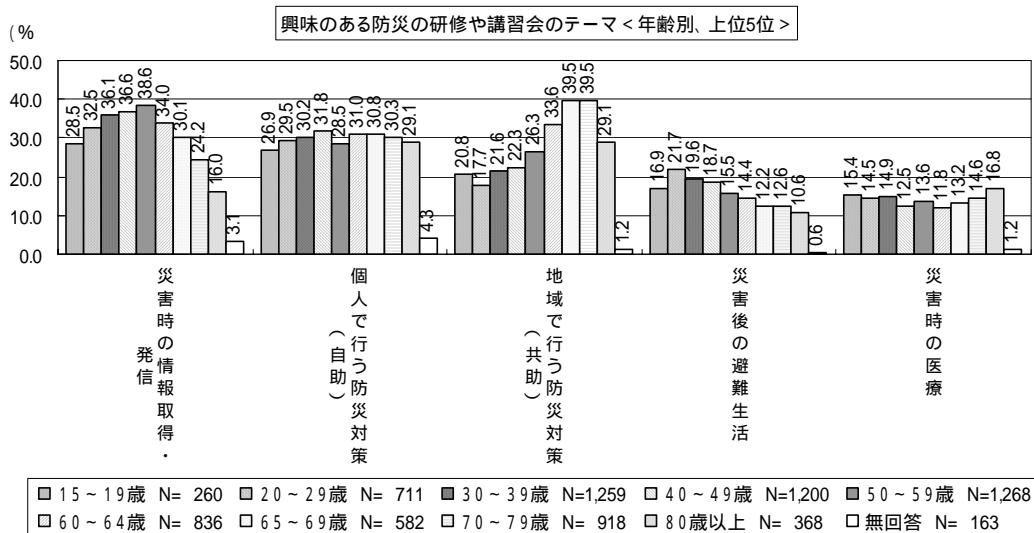
問 38 あなたが興味のある防災に関する研修や講習会はどれですか。(複数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



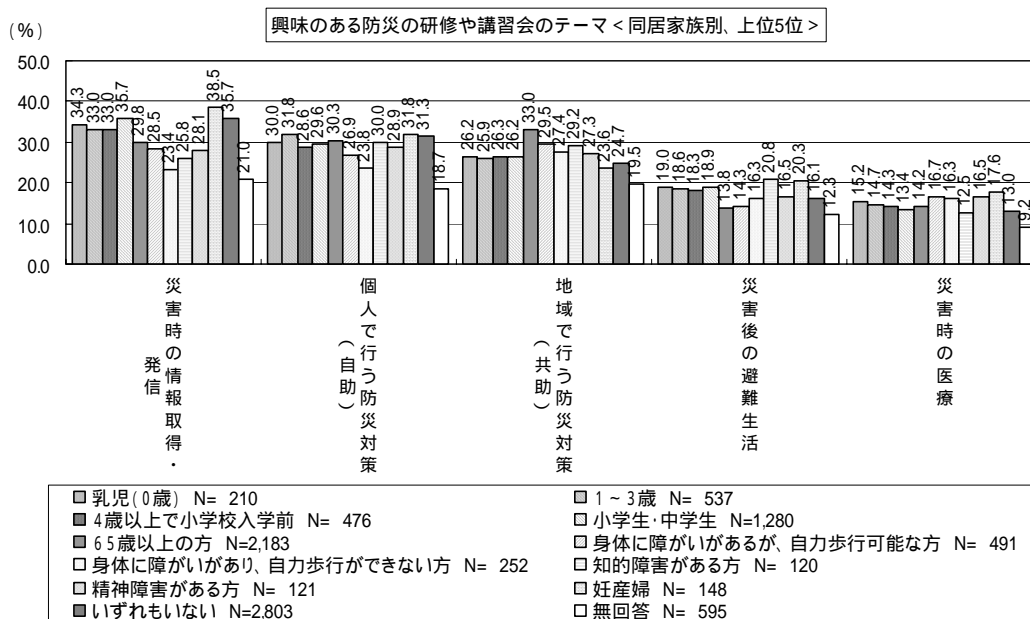
興味のある防災の研修や講習会のテーマは、「災害時の情報取得・発信」(32.2%)、「個人で行う防災対策(自助)」(29.5%)、「地域で行う防災対策(共助)」(26.9%)で、それぞれ2割以上の人に挙げられている。

年齢別、興味のある防災の研修や講習会のテーマ(問38×年齢別クロス集計)



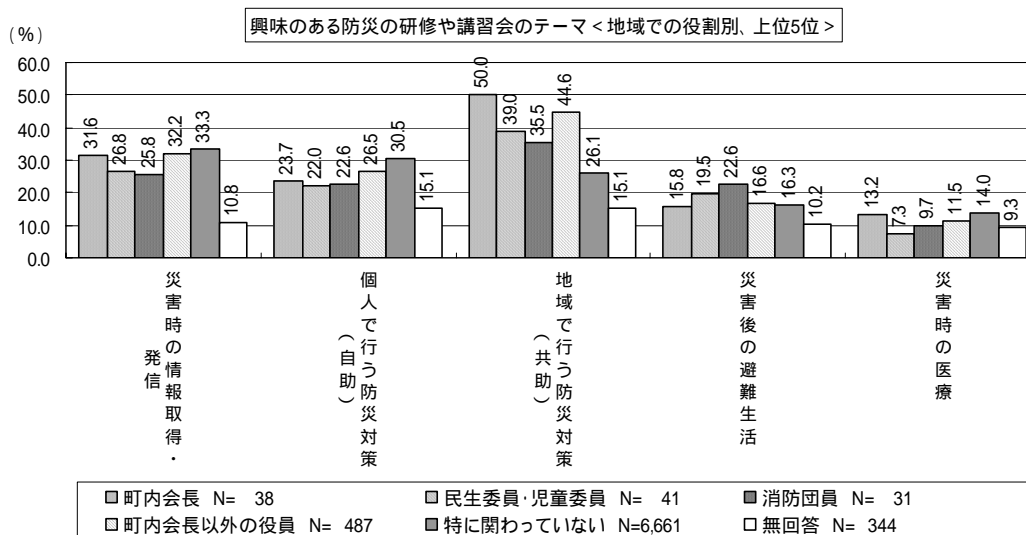
年齢別にみると、「地域で行う防災対策(共助)」は、65~79歳で多くなっている。

同居家族別、興味がある防災の研修や講習会のテーマ（問38×同居家族（複数回答）別
クロス集計、上位5位）



同居家族別で見ると、「地域で行う防災対策（共助）」は、「65歳以上の方」がいる世帯で多くなっている。

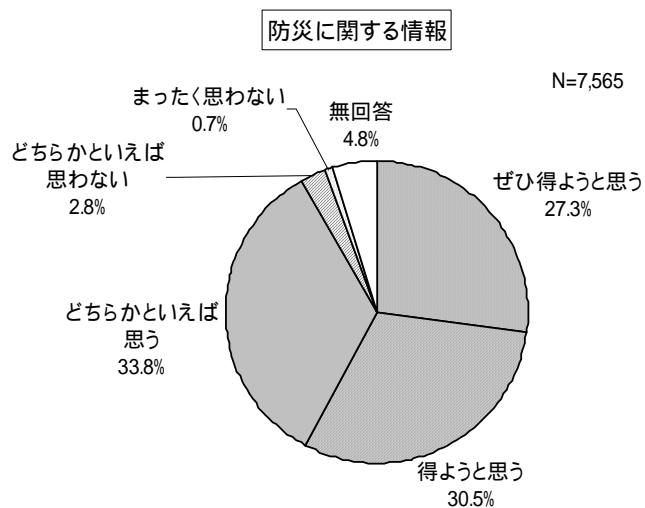
地域での役割別、興味がある防災の研修や講習会のテーマ（問38×活動別クロス集計、上位5位）



地域での役割別にみると、「地域で行う防災対策（共助）」は、「町内会長」、「町内会長以外の役員」で多くなっている。

問 39 防災に関する情報・知識を機会があれば得たいと思いますか。(単数回答)

全員の方(7,565人)にお聞きしています



防災に関する情報は、「ぜひ得ようと思う」(27.3%)と「得ようと思う」(30.5%)、「どちらかといえば思う」(33.8%)を併せた『得ようと思う』が91.6%と9割を占めている。

仙台市 東日本大震災に関する市民アンケート調査

調査ご協力のお願い

このたびの東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、日頃から市政に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、仙台市では、一日も早い復興を目指すとともに、今後の防災対策につきましても見直しに向けて全力で取り組んでいるところでございます。そこで、このたびの震災の経験を、今後の防災対策に最大限に活かすために、アンケート調査を実施することといたしました。

本アンケートは、3月11日に発生いたしました東日本大震災における皆様の行動や生活状況、その中で感じたことなどをお伺いし、その調査結果から、今後の仙台市の取り組みや対策を検討するためのものでございます。

ご多用中のところ恐れ入りますが、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成23年11月

仙台市長 奥山 恵美子

1. 本アンケートは、本年3月11日に発生いたしました東日本大震災に関して、震災以前から震災後の生活状況などについて伺ってまいります。
2. 本アンケートは、市民の皆様の中から無作為に選出された方々に送付しております。質問につきましては、宛名のご本人様がお答えください。
3. アンケートの回答方法は、次のとおりとなっております。
 - ・ 選択肢の中で、あてはまる番号や組み合わせに○をつけるもの
 - ・ 選択肢の中で、あてはまる番号を選んで記入するもの
 - ・ 自由記述で回答を記入するもの
4. 選択式の質問につきましては、あなた（宛名のご本人様）のお考えや、事実に最も近いと思われるものを選んでください。

ご記入いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、

平成23年12月22日（木）までに郵便ポストに投函してください。（切手は不要です）

本アンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

（平日 午前9時～午後4時まで）

仙台市消防局防災安全課（青葉区役所内 災害情報センター）

TEL：022-225-7211（青葉区役所代表） E-mail：syo018030@city.sendai.jp

1 地震後の避難行動

3月11日地震発生後の、あなたの行動などについてお聞きします。

問1. 3月11日の地震が発生した時、あなたはどこにいましたか。(○は1つ)

1. 青葉区 2. 宮城野区 3. 若林区 4. 太白区 5. 泉区 6. 仙台市外

全員問2へ

問2. 3月11日の地震直後、あなたは地震や津波に関する情報を何から入手しましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 屋外の警報装置からの音声 5. ラジオ 9. その他
2. 消防・警察など行政の広報 6. テレビ (具体的に:
3. 近所の方や地域の方から 7. 家族などからの電話・メール
4. 仕事先の同僚や知人から 8. 携帯電話のワンセグテレビ 10. 情報を入手していない

全員問3へ

問3. 3月11日の地震が発生した時にあなたがいた場所は、今回の震災で津波により浸水しましたか。

(○は1つ)

1. 浸水した

→ 3ページ 問7へ

2. 浸水しなかった

問4. 3月11日の地震が発生した時、あなたは具体的にどこにいましたか。(○は1つ)

1. 自宅又は隣近所

→ 2ページ 問6へ

2. 仕事先

3. 学校(専門学校含む)

4. 市の施設

5. 商業施設(スーパー・デパートなど)

6. 電車の中(JR・地下鉄など)

7. 車の中(バス・タクシーを含む)

8. その他(具体的に:

※「2」～「8」を選んだ方は問5へ進んでください。

問5. 3月11日の地震当日、自宅や自宅近くの避難所など、本来の目的地へ行くことができない「帰宅困難者」となる方がいました。あなたは帰宅困難者に該当しますか。(○は1つ)

1. 該当する

2. 該当しない

→ 2ページ 問6へ

問5-2. 問5で「1」を選んだ方にお聞きします。

帰宅困難者となった理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

1. 移動手段が無かったから

4. 津波の被害で帰宅できなかったから

2. 仕事先で仕事をしなければならなかったから

5. その他(具体的に:

3. 電話が繋がらず迎えを呼べなかったから

全員問5-3へ

問5-3. あなたは目的地に行くまでどこで過ごしましたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 親戚・知人宅など | 4. 市役所・区役所など公共施設 |
| 2. 仕事先 | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 付近の避難所として開設されていた施設 | |

全員問5-4へ

問5-4. 帰宅困難を経験して、あればよかった、または、市などで今後整備を進めてほしいと思うことはありますか。(特に思うもの2つまで○)

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 駅などの付近にある避難所への案内標識 | 7. 公共施設などを一時避難スペースとして開放 |
| 2. 市内の避難所マップ | 8. 民間の大規模な施設に一時避難できる取組み |
| 3. 帰宅困難者用のルール・手引き | 9. その他(具体的に:) |
| 4. 避難所への誘導や駅などでの情報提供 | 10. 特になし |
| 5. 報道機関(テレビ・ラジオなど)からの支援情報 | |
| 6. 防災無線などによる帰宅支援情報 | |

全員5ページ「震災後の生活」の間9へ

問6. 問4で「1」を選んだ方、又は、問5で「2」を選んだ方にお聞きします。

3月11日当日に、あなたはどこかに避難しましたか。

1. 避難した

2. 避難しなかった・できなかった

→3ページ 問6-3へ

問6-2. 問6で「1」を選んだ方にお聞きします。

避難した場所はどこですか。また、避難した理由は何ですか。

(場所はあてはまるもの1つに○、理由はあてはまるものすべてに○)

避難場所 (○は1つ)	1. 親戚・知人宅など 2. 市立小・中・高等学校(指定避難所) 3. 2以外の学校(県立高校・私立学校など) 4. 市民センター、コミュニティ・センター 5. 2~4以外の公共施設 6. 集会所 7. 福祉施設 8. 地域の公園などの屋外 9. その他(具体的に:) 10. 覚えていない
理 由 (○はいくつでも)	1. 町内会や家庭内でその場所に避難することを決めていたから 2. 警察や市の職員などに避難するよう呼びかけられたから 3. 町内会など地域の人に避難するよう呼びかけられたから 4. 近所の人がある所に避難すると言っていたから 5. 自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから 6. 停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから 7. まだ余震が続くと思ったから 8. その他(具体的に:)

全員5ページ「震災後の生活」の間9へ

問6-3. 問6で「2」を選んだ方にお聞きします。

避難しなかった・できなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅が安全だと思った・避難の必要がなかったから
2. 避難場所までの移動が困難だったから
3. 病人や身体が不自由な家族がいて、避難するのが困難だったから
4. どこに向かえばよいのかわからなかったから
5. 家族の安否が確認できなかったから
6. 避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから
7. その他(具体的に: _____)

全員5ページ「震災後の生活」の間9へ

※問7～問8-7は、問3で「1」を選んだ方のみお答えください。

問7. 問3で「1」を選んだ方にお聞きします。

3月11日の地震が発生したとき、あなたは具体的にどこにいましたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------------|
| 1. 自宅又は隣近所 | 5. 商業施設(スーパー・デパートなど) |
| 2. 仕事先 | 6. 電車の中(JR・地下鉄など) |
| 3. 学校(専門学校含む) | 7. 車の中(バス・タクシーを含む) |
| 4. 市の施設 | 8. その他(具体的に: _____) |

全員問8へ

問8. 3月11日の地震がおさまった後、あなたは津波が来る前に避難しましたか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|-----------------|------------|
| 1. 避難した | 2. 津波の襲来を見て避難した | 3. 避難しなかった |
|---------|-----------------|------------|

4ページ 問8-7へ

問8-2. 問8で「1」を選んだ方にお聞きします。

あなたが避難を始めたのはいつ頃ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 地震直後(地震から10分後位まで) | 3. 地震から60分後位まで |
| 2. 地震から30分後位まで | 4. 覚えていない |

全員問8-3へ

問8-3. あなたが避難した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. すぐに津波が来ると思ったから
2. 以前から町内会や家庭内で避難することを決めていたから
3. 以前から仕事先で避難することを決めていたから
4. 屋外の警報装置から津波の警報や避難の呼びかけが流れていたから
5. 消防車やパトカーなどの広報車が避難を呼びかけていたから
6. 町内会など地域の人に避難するよう呼びかけられたから
7. 近所の人が避難していたから
8. 自宅建物が壊れ、中で生活することができなかったから
9. 停電や断水など、自宅で生活するのが不安な状態だったから
10. まだ余震が続くと思ったから
11. その他(具体的に: _____)

全員問8-4へ

問8-4. あなたはどこに避難しましたか、または向かいましたか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 親戚・知人宅など | 8. 津波避難ビルなどの近くの高い建物(1～7以外) |
| 2. 市立小・中・高等学校(指定避難所) | 9. 地域の公園など |
| 3. 2以外の学校(県立高校・私立学校など) | 10. 高台など |
| 4. 市民センター、コミュニティ・センター | 11. 場所は決めず県道塩釜亘理線より西側の内陸部へ |
| 5. 2～4以外の公共施設 | 12. 場所は決めず仙台東部道路より西側の内陸部へ |
| 6. 集会所 | 13. その他(具体的に:) |
| 7. 福祉施設 | |

全員問8-5へ

問8-5. あなたは誰と避難しましたか。また、避難する際の移動手段は何でしたか。

(それぞれあてはまるもの1つに〇)

一緒に避難した方	1. あなた1人	5. 地域住民(歩行が困難な方含む)
	2. 家族や知人	6. 仕事先の同僚
	3. 家族や知人(歩行が困難な方含む)	7. 仕事先の同僚(歩行が困難な方含む)
	4. 地域住民	8. その他(具体的に:)
移動手段	1. 徒歩	3. 車
	2. 自転車やバイク	4. その他(具体的に:)

全員問8-6へ

問8-6. あなたは津波が来る前に目的地に到着しましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|-------------|
| 1. 到着した | 2. 到着できなかった |
|---------|-------------|

全員5ページ「震災後の生活」の間9へ

問8-7. 問8で「2」「3」を選んだ方にお聞きします。

あなたがすぐに避難しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 津波の情報がわからなかったから
2. 避難の呼びかけが聞こえなかったから
3. 予想される津波の高さを聞いて大丈夫だと思ったから
4. 津波が来ると思わなかったから
5. 津波警戒区域から外れていたから
6. 自分のいる建物は高さや強度があつて安全だと思ったから
7. 津波が来るまでには時間があると思ったから
8. すぐに避難するのが、身体的に困難だったから
9. 病人や身体が不自由な家族がいて、すぐに避難するのが困難だったから
10. 家族の安否が確認できなかったから
11. その他(具体的に:)

全員5ページ「震災後の生活」の間9へ

2 震災後の生活

震災後の市民の皆様の生活状況について、避難所で生活された方や自宅で生活された方など、全ての方にお聞きします。

問9. 3月11日震災当日から、あなたが主に生活した場所をお聞きします。

日付ごとの生活場所について、それぞれ該当する箇所に○をつけてください。

(同じ日付で複数の場所が該当する場合は複数に○も可能です。)

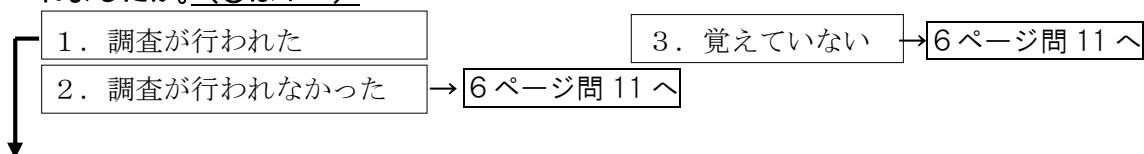
場所	11日 (金)	12日 (土)	13日 (日)	14日 (月)	15日 (火)	16日 (水)	17日 (木)	18日 ~ 31日	4月1日 以降
	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目		
①自宅									
②知人・親戚宅									
③仕事先									
④避難所 仙台市立の小・中・高等学校									
⑤避難所 市民センター、コミュニティー・センター									
⑥避難所 集会所									
⑦その他の避難所 (学校、病院、福祉施設、 官公庁、その他民間施設)									
⑧その他									

(具体的に：

)

全員問 10 へ

問 10. 震災後、避難所「以外」で生活している時期に、あなたに対して安否確認のための調査は行われましたか。(○は1つ)



問 10-2. 問 10 で「1」を選んだ方にお聞きします。

安否の確認は誰が行っていましたか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|---------------|-----------|
| 1. 町内会 | 3. ボランティア | 5. 覚えていない |
| 2. 民生委員 | 4. <u>その他</u> | 6. わからない |

(具体的に：

)

全員問 10-3 へ

問 10-3. 安否確認はいつごろから行われましたか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------------|---------------|
| 1. 震災当日 | 4. 震災1週間目頃 | 7. その他(震災 日目) |
| 2. 震災2日目 | 5. 震災2週間目頃 | 8. 覚えていない |
| 3. 震災3日目 | 6. 震災1ヶ月目頃 | |

全員問 11 へ

問 11. 避難所や自宅などで生活する中で、あなたが特に必要と感じた情報は何か。

下の表の各情報について、時期ごとに必要と感じたものすべてに○をつけてください。

情報 \ 時期	震災3日目頃まで	震災1週間目頃	震災2週間目頃	震災1ヶ月目頃
①知人や家族の安否情報				
②地震・津波の情報				
③天気・気温などの気象情報				
④電気・ガス・水道の復旧状況				
⑤道路の通行規制状況				
⑥公共交通機関の復旧状況				
⑦ガソリン、灯油などの燃料供給状況				
⑧スーパーや小売店などの営業情報				
⑨食料など支援物資の提供情報				
⑩仮設住宅に関する情報				
⑪義援金などの生活再建情報				
⑫その他				
⑬特になし				

(具体的に :

)

[全員問 12 へ](#)

問 12. 3月11日当時のあなたのお住まいの地域で、電気が復旧したのはいつ頃ですか。(○は1つ)

1. 震災()日目位 2. まだ復旧していない 3. わからない・覚えていない

[全員問 13 へ](#)

問 13. 震災後の停電中、あなたは必要な情報を何から入手しましたか。

入手した方法にあてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|---------------|---------------------|
| 1. ラジオ | 5. 新聞 | 9. 覚えていない |
| 2. テレビ | 6. 町内の人 | 10. 入手できなかった |
| 3. 携帯電話のワセガテレビ | 7. 行政の職員 | |
| 4. インターネット | 8. その他(具体的に : |) |

[全員問 14 へ](#)

問 14. あなたは、食料・飲料水が足りなくなり、生活が維持できないと感じたことはありましたか。

(○は1つ)

1. あった

2. なかった

3. 覚えていない

[7ページ 問 15 へ](#)

問 14-2. 問 14 で「1」を選んだ方にお聞きします。

生活が維持できないと感じた時期はいつ頃ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------|------------------|
| 1. 震災当日 | 4. 震災4日目～震災1週間目位 |
| 2. 震災2日目 | 5. その他(震災 日目) |
| 3. 震災3日目 | 6. 覚えていない |

[全員問 15 へ](#)

問 15. あなたは生活物資が足りない場合には、いつ頃、どのように確保しましたか。

震災後の日付ごとに、確保した方法としてあてはまるものに○をつけてください。

確保した方法	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	4月1日
	(金) 当日	(土) 2日目	(日) 3日目	(月) 4日目	(火) 5日目	(水) 6日目	(木) 7日目	31日	以降
①避難所などから届けてもらった									
②避難所などに受取りに行った									
③親戚・知人からの支援									
④スパ-や小売店などから購入									
⑤その他									
⑥足りていた									
⑦確保できなかった									
⑧覚えていない									

→ (具体的に：) 全員問 16 へ

問 16. 3月11日以降、自宅で生活する中で特に不自由を感じたことはなんですか。

(特にあてはまるものを2つまで○)

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 食料・飲料水の確保が困難 | 6. 停電でパソコン・インターネットなどが使えない |
| 2. 断水でトイレ・風呂などの生活用水の確保が困難 | 7. 停電でエレベーターなどの設備が使えない |
| 3. ガスの供給停止により風呂が使用できない | 8. 電話が不通で誰とも連絡できない |
| 4. ガスの供給停止により調理ができない | 9. その他 (具体的に：) |
| 5. 停電でテレビなどの家電製品が使えない | |

全員問 17 へ

問 17. 仙台市では、市立の小・中・高等学校を「避難所」として指定し、物資の備蓄などを行っていました。今回の避難生活を踏まえて、今後、「避難所」として新たに考えるべきと思う施設を次の中から選んでください。(特にあてはまるものを1つ○)

- | | | |
|-----------------------|----------|----------|
| 1. 市民センター、コミュニティ・センター | 4. 集会所 | 7. その他 |
| 2. 区役所など市の施設 | 5. 特にない | (具体的に：) |
| 3. 民間の大規模な施設 | 6. わからない | |

全員問 18 へ

問 18. 仙台市では、市立の小・中・高等学校を「避難所」として指定し、水やアルファ-米・クラッカー・ビスケットなどの食料を備蓄していました。

今回の経験を踏まえ、あなたが避難所で生活するとした場合に、上記以外の備蓄であったら良いと思う「食料」を選んでください。(特に思うもの2つまで○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------------|
| 1. 缶詰類 | 4. 栄養補助食品 | 7. 特にない |
| 2. 備蓄用パン | 5. 粉ミルク | 8. わからない |
| 3. 備蓄用おかゆ | 6. 離乳食 | 9. その他 (具体的に：) |

全員問 19 へ

問 19. 避難所には、何日分の食料が必要だと思いますか。(○は1つ)

(1人あたりの1日分の目安は、水1ℓ、アルファ米やクラッカーなどが3食分です。)

1. 1日分程度 3. 3日分程度 5. わからない
2. 2日分程度 4. 4日以上(日分程度)

全員問 20 へ

問 20. 今後あなたが、避難所で1週間程度生活するとした場合に、毛布以外に備蓄があったら良いと思う「物資」を次の中から選んでください。(特に必要と思うもの3つまで○)

1. テレビ 6. 照明器具 11. 防寒具 16. 生理用品
2. ラジオ 7. カセットコンロなど 12. タオル類 17. スキンケア用品
3. パソコン 8. 発電機 13. 食器類 18. 特にない
4. 携帯電話の充電器 9. 灯油などの燃料 14. ほ乳びん 19. わからない
5. 冷暖房器具 10. 下着類 15. 紙おむつ 20. その他 具体的に :

全員問 21 へ

問 21. 仙台市では、3月17日頃から自衛隊などの協力のもと、避難所への支援物資の配送を行いました。今後あなたが避難所で生活するとした場合、支援物資として必要と思うものはありますか。ある場合は、どのようなものですか。震災後の時期ごとにお答えください(自由記述)

1. 必要と思うものがある 2. 必要と思うものはない 3. わからない

※必要と思うものを具体的に記入してください。

震災から1週間以内	震災から2週間以内	震災から1ヶ月以内

全員問 22 へ

問 22. 仙台市では今回の震災を踏まえ、「避難所への避難が必要であったのに、何らかの理由で避難できず自宅で生活された方々」に対して、行政や地域の支援のあり方について検討を行っています。そういった方々への支援のあり方について、ご意見があれば記入してください。

ご意見(自由記述)

※ この欄で足りない場合は、記入した用紙などをアンケートと同封し送付してください。

※ 次ページからの「問 23～問 32」については、3月11日以降、避難所となった施設に避難された方にお聞きします。

(学校や市民センター、集会所など、避難所として開いていた全ての施設が該当します)

⇒避難所に避難された方(問9で、④～⑦の施設に1日でも○をつけた方) ⇒ 問 23 へ

⇒避難所に避難されなかった方 ⇒ 11 ページ「震災以前・震災後の取り組み」の問 33 へ

問 23. あなたが避難した施設が避難所として開設されたのはいつですか。(○は1つ)

- 1. すでに開設されていたのでわからない
- 2. 震災当日(3月11日)の24時頃までに開設
- 3. 震災2日目(3月12日)の0時から6時の間に開設
- 4. 震災2日目(3月12日)の6時以降に開設
- 5. 震災3日目を以降(月 日頃)に開設
- 6. 覚えていない

全員問 24 へ

問 24. 震災当日(3月11日)に避難所に避難した方に、当日の状況を伺います。

あなたに、水や食料の配付はありましたか。(○は1つ)

- 1. 配付があった
- 2. 配付はなかった
- 3. 覚えていない

全員問 25 へ

問 25. あなたは、避難所で名前や住所などの調査を受けましたか。

また、調査を受けた場合、いつ頃受けましたか。調査を受けた日に○をつけてください。

(あてはまる日すべてに○)

- 1. 調査を受けた
- 2. 受けていない
- 3. 覚えていない

	11日 (金)	12日 (土)	13日 (日)	14日 (月)	15日 (火)	16日 (水)	17日 (木)	18日 ~	4月1日 以降
	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	31日	
調査を受けた日									

全員問 26 へ

問 26. 震災から2週間以内に、あなたが避難した避難所で、生活環境に配慮してもらって良かったこと、今後配慮して欲しいなど、感じたことを下の表からそれぞれ3つまで選んでください。

- 1. 配慮されてよかったこと (番号)
- 2. 配慮されたが十分ではなかったこと (番号)
- 3. 配慮されず今後配慮してほしいこと (番号)

①間仕切りによるプライバシーの確保	⑩福祉施設への移動を手配
②個室などの使用によるプライバシーの確保	⑪畳などがある施設への移動を手配
③男女別の着替えスペースの設置	⑫トイレに行きやすい場所を確保
④男女別の仮設トイレの設置	⑬洋式トイレ・障がい者用トイレの設置
⑤授乳室の設置	⑭入り口のスロープの設置
⑥託児スペースの設置	⑮ボランティアなどによる支援
⑦施設内のパトロール	⑯子供・高齢者への食料の優先配付
⑧出入口の管理や警備	⑰特にない・覚えていない
⑨ペット用避難スペースの設置	⑱その他

(具体的に:)

全員問 27 へ

問 27. 仙台市の指定避難所（市立の小・中・高等学校）では、「簡易組み立てトイレ」が備蓄されていますが、あなたの避難した避難所では、「簡易組み立てトイレ」が設置されましたか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 設置してあり使用した | 4. 覚えていない |
| 2. 設置してあったが使用しなかった | 5. わからない |
| 3. 設置されていなかった | |
- 問 28 へ

問 27-2. 問 27 で「1」を選んだ方にお聞きします。

簡易組み立てトイレを使用して感じたことを教えてください。（○は1つ）

1. 使いづらい 2. おおむね満足 3. 覚えていない 4. わからない

※非常時に使用するものであることを前提に、特に改善すべきと思う点を記入してください。（自由記述）

全員問 28 へ

問 28. あなたの避難した避難所での運営者側の対応についてどのように感じましたか。（○は1つ）

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 非常によく対応してくれた | 4. 全く対応してくれなかった |
| 2. おおむね対応してくれた | 5. どちらともいえない |
| 3. あまり対応してくれなかった | 6. わからない |

全員問 29 へ

問 29. あなたは何らかの形で「避難所の運営」に関わりましたか。（○は1つ）

- | | | | |
|---------|------------|-----------|----------|
| 1. 関わった | 2. 全く関わらない | 3. 覚えていない | 4. わからない |
|---------|------------|-----------|----------|

※ 関わった場合、いつ頃、どんなことに関わりましたか。（あてはまるものすべてに○）

内容	時期	震災3日目頃	震災1週間頃	震災2週間頃	震災1ヶ月頃
①運営する側として関わった					
②運営している町内会長などを手伝った					
③炊き出しなど避難所の仕事を手伝った					
④その他					

（具体的に：

全員問 30 へ

問 30. あなたは避難所で、どの位の期間を過ごしましたか。延べ日数でお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 覚えていない | 4. 約1日 | 7. 2週間ごろまで |
| 2. 3時間以内 | 5. 2～3日間 | 8. 1ヶ月ごろまで |
| 3. 12時間以内 | 6. 1週間ごろまで | 9. 1ヶ月以上 |

全員問 31 へ

問 31. あなたが避難所を出られた理由を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1. 交通機関が復旧したから | 4. 親戚・知人宅など行き先が決まったから |
| 2. 電気が復旧したから | 5. 避難所が閉鎖されたから |
| 3. 断水が復旧したから | 6. その他 |

【具体的に：

全員問 32 へ

問 32. 仙台市では、「避難所」の運営を町内会など地域の方々と協力して行うこととしていました。

しかし、今回の震災時には行政のマンパワーが不足したこともあり、市民の皆様にご迷惑をおかけしております。

今後、「避難所の運営」は、どこが主体となり行われるべきと思われますか。あなたが思うことを記入してください。

ご意見（自由記述）

※ この欄で足りない場合は、記入した用紙などをアンケートと同封し送付してください。

全員「震災以前・震災後の取り組み」の間 33 へ

3 震災以前・震災後の取り組み

震災以前の家庭での防災対策の状況と、今回の震災を通して感じたこと、今後取り組みたいと感じていることについてお聞きします。

問 33. 仙台市では、市立の小・中・高等学校を「避難所」として指定し（指定避難所）、災害時に避難するための整備を行っていました。あなたはお住まいの地域にある指定避難所を知っていましたか。

(○は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

全員問 34 へ

問 34. 仙台市では、沿岸部の地域を「津波警戒区域」として設定し、津波・大津波警報が発表された時の「避難の必要性」を呼びかけてきましたが、あなたは知っていましたか。(○は1つ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

全員問 35 へ

問 35. あなたの家庭では、今回の震災以前に地震に対して何らかの備えをしていましたか。

家庭で行っていた備えと、それが役に立ったかどうかをお答えください。

(行っていたすべての備えについて、その備えが役に立ったかあてはまる箇所に○をつけてください)

効果 備えていたこと	役に立った	役に立たなかった	わからない
1. 家具類の固定・転倒防止			
2. 建物の補強			
3. ブロック塀の倒壊防止			
4. 避難場所・避難経路の確認			
5. 家族で非常時の連絡方法を定める			
6. ご近所との協力関係			
7. 非常用食料・飲料水			
8. 携帯ラジオ			
9. 懐中電灯・ろうそく			
10. カセットコンロ			
11. 灯油などの燃料			
12. 発電機			
13. 簡単な救助資機材			
14. 救急医薬品			
15. 毛布・寝袋			
16. 下着類			
17. 現金・通帳などの貴重品			
18. その他 ()			
19. 特に備えていなかった			

全員問 36 へ

問 36. あなたの家庭で、震災後に備えたものや、今後備えたいと思っているものをお答えください。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 家具類の固定・転倒防止 | 10. カセットコンロ |
| 2. 建物の補強 | 11. 灯油などの燃料 |
| 3. ブロック塀の倒壊防止 | 12. 発電機 |
| 4. 避難場所・避難経路の確認 | 13. 簡単な救助資機材 |
| 5. 家族で非常時の連絡方法を定める | 14. 救急医薬品 |
| 6. ご近所との協力関係 | 15. 毛布・寝袋 |
| 7. 非常用食料・飲料水 | 16. 下着類 |
| 8. 携帯ラジオ | 17. 現金・通帳などの貴重品 |
| 9. 懐中電灯・ろうそく | 18. 特にない |
| | 19. その他 |

(具体的に :

)

全員問 37 へ

問 37. あなたは震災以前に、町内会が行う防災訓練や行政などが行う講習会に参加したことがありますか。(○は1つ)

1. よく参加していた	2. 参加したことはあった	3. 参加したことはなかった
-------------	---------------	----------------

問 37-3 へ

問 37-2. 問 37 で「1」「2」を選んだ方にお聞きします。

あなたが参加したことのある訓練や講習会は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1. 避難訓練 | 5. 工具を使用した救助訓練 | 9. 地震防災の講習会 |
| 2. 消火訓練 | 6. 地域住民の安否確認訓練 | 10. 津波に関する講習会 |
| 3. 119 番通報訓練 | 7. 避難所運営訓練 | 11. その他 |
| 4. けがの応急手当訓練 | 8. 災害を想定した図上訓練 | |

(具体的に：)

全員問 37-3 へ

問 37-3. 訓練に参加していた人、していなかった人どちらにもお聞きします。

今回の震災を経験して、必要と感じる訓練や講習会は何ですか。(特に思うもの3つまで○)

- | | | |
|--------------|----------------|---------------|
| 1. 避難訓練 | 5. 工具を使用した救助訓練 | 9. 地震防災の講習会 |
| 2. 消火訓練 | 6. 地域住民の安否確認訓練 | 10. 津波に関する講習会 |
| 3. 119 番通報訓練 | 7. 避難所運営訓練 | 11. 特にない |
| 4. けがの応急手当訓練 | 8. 災害を想定した図上訓練 | 12. その他 |

(具体的に：)

全員問 38 へ

問 38. 防災に関する研修や講習会のテーマとして、どのような分野に興味をもちていますか。

(特にあてはまるもの2つまで○)

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 個人で行う防災対策(自助) | 6. 災害の被害想定 | 11. 地震・津波のメカニズム |
| 2. 地域で行う防災対策(共助) | 7. 災害時の医療 | 12. 防災に関する法制度 |
| 3. 企業で行う防災対策 | 8. 災害時の情報取得・発信 | 13. 特にない |
| 4. 行政の取り組み(公助) | 9. 災害後の避難生活 | 14. その他 |
| 5. 防災教育に関すること | 10. 災害後の復旧・復興事例 | |

(具体的に：)

全員問 39 へ

問 39. 防災に関する情報・知識を得る機会があった場合には、得たいと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1. ぜひ得ようと思う | 3. どちらかといえば思う | 5. まったく思わない |
| 2. 得ようと思う | 4. どちらかといえば思わない | |

全員 14 ページ問 40 へお進みください。

— 最後に —

※ ここでは、あなた自身のことについてお聞きします。

※ 個人を特定するものではございませんので、ご協力いただきますようお願いいたします。

問 40. あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性

全員問 41 へ

問 41. 3月11日当時のあなたのお住まいの区をお答えください。(○は1つ)

1. 青葉区 2. 宮城野区 3. 若林区 4. 太白区 5. 泉区

全員問 42 へ

問 42. 調査分析に必要となりますので、差し支えがなければ、3月11日当時のご自宅の郵便番号または町名をご記入ください。

(〒 町名)

全員問 43 へ

問 43. 3月11日当時のあなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1. 15～19歳 4. 40～49歳 7. 65～69歳
2. 20～29歳 5. 50～59歳 8. 70～79歳
3. 30～39歳 6. 60～64歳 9. 80歳以上

全員問 44 へ

問 44. 3月11日当時、あなたが一緒に暮らしているご家族は、あなたを含め何人ですか。(○は1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

全員問 45 へ

問 45. 3月11日当時、あなた自身を含め同居している家族の中に次に該当する方はいましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 乳児 (0歳) 7. 身体に障がいがあり、自力歩行ができない方
2. 1～3歳 8. 知的障害がある方
3. 4歳以上で小学校入学前 9. 精神障害がある方
4. 小学生・中学生 10. 妊産婦
5. 65歳以上の方 11. いずれもない
6. 身体に障がいがあるが、自力歩行可能な方

全員問 46 へ

問 46. 3月11日当時のあなたの職業をお答えください。(○は1つ)

1. 自営業 4. 農林漁業 7. 学生
2. 会社員 5. パート・アルバイト 8. 無職
3. 公務員 6. 主婦 9. その他 ()

全員問 47 へ

問 47. 3月11日当時、あなた自身が関わり活動していたものを次の中から選んでください。

(○はいくつでも)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 消防団員 | 3. 町内会長 | 5. 特に関わっていない |
| 2. 民生委員・児童委員 | 4. 町内会長以外の役員 | |

全員問 48 へ

問 48. 3月11日当時、あなたは仙台市に住んでから何年経過していましたか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 1年未満 | 3. 3年以上5年未満 | 5. 10年以上 |
| 2. 1年以上3年未満 | 4. 5年以上10未満 | |

全員問 49 へ

問 49. 3月11日当時のお住まいは次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|------------------|------------|
| 1. 一戸建て持家 | 4. 賃貸アパート・マンション※ | 7. 寮・寄宿舎※ |
| 2. 一戸建て民間借家 | 5. 公営住宅※ | 8. その他 () |
| 3. 分譲マンション※ | 6. 社宅・公務員住宅※ | |

※に該当した方にお伺いします。何階建ての何階にお住まいですか。

(_____ 階建ての _____ 階に居住)

全員問 50 へ

問 50. 3月11日当時のお住まいは、昭和56年以前に建てられた木造住宅ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 昭和56年以前に建てた木造住宅 | 3. 木造ではない |
| 2. 昭和57年以降に建てた木造住宅 | 4. わからない |

アンケートはこれで終了です。

仙台市では、皆様から頂いたご意見を十分に踏まえ、今後の防災対策に活かしていきたいと考えております。

質問数が大変多くなってしまいましたが、ご協力いただきありがとうございました。

平成 23 年度
東日本大震災に関する市民アンケート調査
報 告 書

平成 24 年 3 月

調査主体：仙台市消防局防災安全部防災安全課
(※平成 24 年 4 月 1 日より組織変更) 仙台市消防局防災企画課

仙台市青葉区堤通雨宮町 2 番 15 号
TEL 022-234-1111 FAX 022-234-1119

集計・分析：株式会社東日本リサーチセンター
仙台市青葉区本町三丁目 2 番 26 号 コンヤスビル 3 階
TEL 022-217-3021 FAX 022-217-3022